令和３年度「愛媛大学教育改革促進事業（愛大教育改革ＧＰ）」

# 「コロナ禍における法文学部学生の『被災』記録の収集、保存」成果報告書

愛媛大学法文学部

２０２２年３月

「コロナ禍における法文学部学生の『被災』記録の収集、保存」成果報告書

愛媛大学法文学部　二〇二二年三月

# 目　　次

学部長挨拶
　愛媛大学の新型コロナウイルス感染症対策を振り返って
法文学部長　吉田　正広　……（１）

代表挨拶
　GP プロジェクトの目的と経緯
GP プロジェクト代表　福井　秀樹　……（２）

**【第１部】コロナ禍における法文学部学生への調査結果**

　コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅰ　……（３）

　コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅱ　……(35)

　コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅲ　……(57)

　コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅳ　……(77)

**【第２部】調査結果を受けて教育コーディネーターの意見**

　法文学部におけるコロナ禍の学生生活への影響と今後の課題
法文学部　人文学履修コース　水野　　卓　……（113）

　法文学部におけるコロナ禍の学生生活への影響と今後の課題
法文学部　法学・政策学履修コース　上山　友一　……（114）

　法文学部におけるコロナ禍の学生生活への影響と今後の課題
法文学部　グローバル・スタディーズ履修コース　近廣　昌志　……（115）

# 愛媛大学の新型コロナウイルス感染症対策を振り返って

法文学部長　**吉　田　正　広**

このたび、令和３年度愛大教育改革 GP「コロナ禍における法文学部学生の『被災』記録の収集､保存」成果報告書を発行する運びとなりました。法文学部長としてご挨拶申し上げます。本プロジェクトは､令和２年度に法文学部戦略経費プロジェクトとしてすでに動いていました。これまでの調査結果は『法文学部論集社会科学篇』に掲載され、今回それらをまとめる形で、報告書発行に至りました。この報告書は、新型コロナウイルスの感染が続く中で愛媛大学の今後の教育や学生支援の方針を決定していく上で、有意義に活用していただけるものと期待しております。そのためにも、この未曾有の事態に愛媛大学がどのように対応してきたのかについて、法文学部長としての体験を踏まえて、整理しておきたいと思います。

日本全国の感染拡大の中、大学生の感染に社会から冷たい視線が強まった令和２年３月、愛媛大学では４月以降の授業開講方針が示されないまま、教員として不安を感じながら日が過ぎていた。３月25日には「予定どおり４月８日㈬に開講する」方針が確認されたが、３月30日には、令和２年度前学期の授業開始を４月22日に延期することが急遽決まった。その後、愛媛県の感染急拡大を受けて、４月17日に愛媛大学の BCP が「レッド」に引き上げられ、教職員の在宅勤務が命じられ、キャンパスから人影が消えた。

４月22日に授業開始となったが、演習を含めて全面遠隔授業となった。その間、Zoom の使い方の講習会もいくつか開催され、少しずつ教員が遠隔授業に対応し始めたが、単にレポートだけを課す教員もいて、それに対する学生の評判がよくなかったのは、学生アンケートからも分かる。

実は、４月早々に私自身が「濃厚接触者」となって２週間の自宅待機となり、４月半ばまで、井口評議員に学部長の仕事をお願いせざるを得なかった。この間、法文学部では「コロナ対策委員会」が事実上立ち上がり、井口先生を中心に教員の協力体制ができたように思う。

私が職務に復帰した４月後半以降、教職員の在宅勤務や教員の研究継続方針の策定などが進み、４月20日には Zoom での臨時部局長協議会が招集され、全学方針の学部長への伝達・調整を踏まえて、各学部での対応が始まった。５月11日にようやく「オレンジ」への BCP 引き下げがなされた。その後は、授業方針についての検討がなされていくが、遠隔授業の実施は前学期一杯続くことになった。その間、対面授業をどの範囲までどのように許可していくか、図書館や生協などをどのように開いていくかが、臨時部局長協議会の大きなテーマとなった。この間の事情を振り返って見ると､愛媛大学では対面授業の実施には慎重だったし､文系学生にとって研究の重要な場であった図書館の利用が制限され続けたように思う。また、対面授業が一部始まると、遠隔授業を学内で受けるための場所を学生に確保する必要性が、今思うと過度に学部に対して要求された。後学期からは文科省の要請を受けて対面授業の実施が過度に求められたこともあり、学部としての対応に苦慮した。

令和３年度に入って、授業実施方針が感染状況に対応して、各学部に任される体制に変化したように思う。それだけに、法文学部のコロナ対応がこれまで以上に重要な意味を持つようになった。今後、この経験を生かして、法文学部という文系の教育・研究体制にふさわしい、コロナ対応ができればと期待する。

# GP プロジェクトの目的と経緯

GP プロジェクト代表　**福　井　秀　樹**

新型コロナウイルス感染症の蔓延により世界中の教育提供体制が激変してはや２年が過ぎました。長期化の様相を見せるコロナ禍において、愛媛大学の学生および教員はどのような困難に直面し、どのように対処してきたでしょうか。この経験から、私たちはどのような教訓を引き出し､コロナ禍における「学部運営」「学生支援」「教育」の改善に活かすことができるでしょうか。

本報告書は、以上のような問題意識のもとに、学生・教員を対象とするアンケート／インタビュー／座談会等を通じて実施している、令和３年度愛媛大学教育改革促進事業（愛大教育改革 GP）「コロナ禍における法文学部学生の『被災』記録の収集、保存」の調査成果を取りまとめたものです。

本事業の実施担当者（下記参照）は、2020年度から法文学部戦略経費プロジェクト「コロナ禍における法文学部学生の教育上および生活記録の収集、保存」（代表：青木理奈・鈴木靜）の一環として、コロナ禍における法文学部学生の被害・被災の記録の収集・保存を目的に、学生アンケートや座談会等を実施してまいりました。

本事業の目的は第１に、この法文学部戦略経費プロジェクトによる先行調査成果を土台として、法文学部学生の生活上の被害実態、法文学部教員の緊急時対応等の記録･分析を積み重ね、データとして蓄積することにあります。本事業の第２の目的は、こうして蓄積された記録・分析の成果を学部構成員の間で共有し、長期化も予想されるコロナ禍での学生生活・教育への対応を考える際の手がかりの一つとしてご活用いただくことにあります。

本事業の調査成果が、コロナ禍への対応を考える上だけでなく、近い将来の発生が予想される南海トラフ大地震等の大規模自然災害時における学部運営、学生支援、教育提供体制の検討等にもご活用いただけることがあれば、本事業実施担当者にとって望外の喜びです。

本事業の実施担当者（50音順）

青木　理奈
石坂　晋哉
太田　響子
小佐井良太
鈴木　　靜
十河　宏行
池　　貞姫
中川　未来
福井　秀樹

# 【第１部】

# コロナ禍における法文学部学生への調査結果

# コロナ禍における法文学部の
# 被災記録の収集と保存Ⅰ

## ― 学生を対象としたアンケート調査の単純集計結果 ―

Collection and Preservation of Records of the Disaster Experiences of Students, Faculty, and Staff in the Faculty of Law and Letters, Ehime University, during the Coronavirus Pandemic (I): Summary Statistics of a Questionnaire Survey of Students

青木　理奈・鈴木　　静・福井　秀樹
小佐井良太・石坂　晋哉

### １．はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大は、大学生にどのような影響をもたらしているのだろうか。新型コロナウイルス感染蔓延は、多くの人にとって予期しえなかった深刻かつ長期にわたる未曽有の災厄である。愛媛大学も、急速に進む感染拡大に対し、学生の入構禁止、遠隔授業への全面切り替え等が急きょ行われ、教育提供体制が激変した。

今回の新型コロナウイルスのような全世界規模で起きている災厄は、記録や教訓を収集、保存し、継承していくことが次なる災厄への備えになるだろう。なにより、今のコロナ禍において刻一刻と事態が変わっていく中、時系列で保存できるよう、記録はコロナ禍の初期から収集することが重要であると考えている。

よって、未曽有の事態に際し、法文学部学生の生活上の被害実態を明らかにするとともに、法文学部の緊急時対応および遠隔授業等実施に係る記録を収集し、データベース化することを最終目的とし、本調査では、愛媛大学法文学部の学生を対象としたアンケートを実施する。コロナ禍における大学生の実態を明らかにし、学修状況や生活状況を把握することを目的とする。

## ２．新型コロナウイルス感染拡大期における愛媛大学法文学部での遠隔授業の実施

### ⑴　愛媛県における新型コロナウイルス感染状況と愛媛大学の対応

2020年4月7日に新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づき、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、大阪府、兵庫県、福岡県に「緊急事態宣言」が発令された。その後全国に拡大され、愛媛県も4月16日に「緊急事態宣言」の対象地域に含まれることになった。そして5月14日に「緊急事態宣言」が解除された。愛媛大学のBCPステージは、「緊急事態宣言」に連動する形で、4月17日には「レッド」に引き上げられ、5月11日に「オレンジ」に引き下げられた。その後、6月1日に「イエロー」へ引き下げて以降は、しばらく「イエロー」ステージが維持されてきた。11月9日にいったん「ライトイエロー」にまで引き下げられたが、その後の愛媛県内での感染者数増加の状況を踏まえ、メインキャンパスを中心に再度「イエロー」に引き上げられ、現在（12月時点）も「イエロー」ステージを継続している[1)]。

愛媛大学では、令和2（2020）年4月8日～4月21日の2週間が休講となり、前学期の第1クォーター期間（4月22日～6月10日）は「遠隔授業を実施」、第2クォーター期間（6月11日～9月23日）は「原則として遠隔授業を実施」、後学期の第3クォーター期間（9月24日～12月3日）は「遠隔授業を積極的に実施するとともに、対面授業も可能な限り開講」した。そして、第4クォーター期間（12月4日～3月31日）は「対面授業を可能な限り開講するとともに、遠隔授業を実施」する予定である（2020年12月14日現在）。

### ⑵　愛媛大学法文学部の学生数

2020年12月現在の愛媛大学法文学部の学部生数、大学院生数は、以下のとおりである。学部生合計は1,654人、大学院生数は43人である。学部生の内訳は、昼間主法学・政策学履修コースが317人、昼間主人文学履修コースが351人、夜間主法学・政策学履修コースが157人、夜間主人文学履修コースが170人、グローバルスタディーズ履修コースが235人（昼間主のみ）であり、改組前の旧総合政策学科の昼間主が22人、夜間主が14人、昼間主人文学学科が8人、夜間主人文学学科が6人である。大学院生の内訳は、人文社会科学研究科院生が17人、改組前の法文学研究科院生が26人である。学部生と院生のうち、留学生は26人である。

---

1）愛媛大学関係者のコロナウイルス感染は、2020年8月1日に1人（学生）、12月26日に1人（学生）が公表された。なお、当該学生は、公表前2週間は少なくとも登学しておらず、学内で感染したものではない。

### ⑶　愛媛大学法文学部における授業実施状況

愛媛大学法文学部は、前学期の第1クォーター期間から第2クォーター期間に遠隔授業を実施し、対面授業は行わなかった。遠隔授業は、その提供方法の違いからAとBとに分けられ、遠隔授業Aは動画等のネット配信による。遠隔授業Aもさらに、①同期型（リアルタイム型）と②非同期型（蓄積型）に分かれる。①同期型（リアルタイム型）は、Zoom、Webexなどのネット会議システムを活用して、遠隔地の学習者に対してリアルタイムで授業を行う形態である。②非同期型（蓄積型）は、Moodleなどのe-learningシステムを活用して、教員があらかじめWebサーバ等に蓄積した教材に対して、学習者がアクセスして学習する形態である。遠隔授業Bは、修学支援システム等のメールにより課題を与え、指導する授業形態である。

上記に基づく遠隔授業数の内訳は、表1のとおりである。なお、授業形態は、以下の3種を組み合わせて実施することもあるので、合計数とは一致しない。遠隔授業Bが多い理由は、4月当初の遠隔授業開始に伴い、大学の通信システムへの負荷が過重になることが懸念され、遠隔授業Bが推奨されたためである。

表１．遠隔授業数の内訳[2)]

| | 合計 | 遠隔授業A① | 遠隔授業A② | 遠隔授業B |
|---|---|---|---|---|
| （昼間主） | | | | |
| １Q | 180 | 48 | 49 | 115 |
| ２Q | 192 | 49 | 44 | 116 |
| 前期 | 230 | 37 | 90 | 109 |
| （夜間主） | | | | |
| １Q | 41 | 9 | 11 | 26 |
| ２Q | 41 | 8 | 9 | 26 |
| 前期 | 67 | 6 | 17 | 31 |

（愛媛大学教育支援課法文学部チームによるまとめから筆者作成）

## ３．対象と方法

本アンケート調査の対象者は、法文学部の学生（学部生・大学院生）であり、調査期間は、2020年10月22日～11月11日である。

調査方法は、インターネットでの無記名自記式アンケートを採用した。授業を担当

２）愛媛大学法文学部では、セメスター制とクォーター制を併用している。

する教員から学生へ周知し実施した。集まった回答は、185人であり、以下の2つについては、重複とみなし削除した。1. 自由記述含め、回答が全て同じもの。2. 自由記述は未記入だが、他の回答が全て同じであり、かつ、回答送信時間が近いもの（5分以内）。以上より、14件が削除対象となり、有効回答は171人であった。

アンケート内容は、⑴ 回答者の属性について5項目、⑵ 遠隔授業においての学修面が10項目、⑶ コロナ禍の緊急事態宣言のもとでの生活面が6項目、合計21項目から構成されている。アンケートの回答は必須とする選択方式の項目と、必須ではない自由記述の項目を作成した。アンケートを資料1に示す。

## ４．倫理的配慮

本調査において、対象者に対する倫理的配慮を以下のようにした。

⑴　不必要な負荷や負担への配慮：回答は任意でありかつ匿名である。対象者に不必要な負荷や負担は生じない。

⑵　個人のプライバシー保護への配慮：匿名で回答する。アンケート結果についても守秘義務を厳守し、個人のプライバシーを厳重に保護する。

⑶　協力拒否への不利益への配慮：回答は任意であり、回答後に対象者が回答内容について削除を求めた場合には、即座に応じる。協力拒否への不利益は生じない。

⑷　調査協力への理解や同意：担当教員からの説明およびアンケート冒頭に調査協力への理解を求める。

その他、アンケート作成において、個人情報が含まれないようにした。参加者には調査の趣旨が十分伝わるように冒頭に説明を書いた上で、参加は任意であることを説明し、アンケートに回答し送信された時点で同意とした。

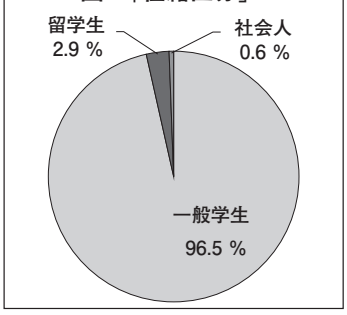
## ５．結　果

本調査は、⑴ 回答者の属性、⑵ コロナ禍の学修面について、⑶ コロナ禍の生活面について、学生の状況を把握した。

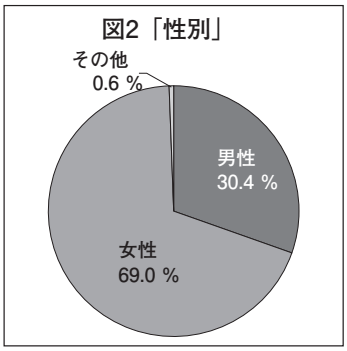
**⑴　回答者の属性**

１）回答者171人の在籍区分（身分）は、「一般学生」165人（96.5%）、「社会人」1人（0.6%）、「留学生」5人（2.9%）である（図1）。

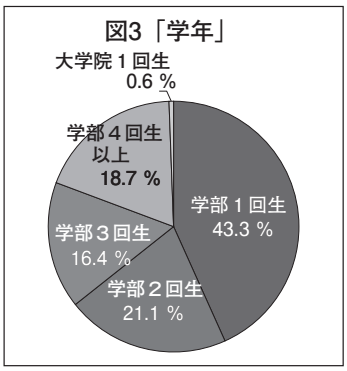
図1「在籍区分」



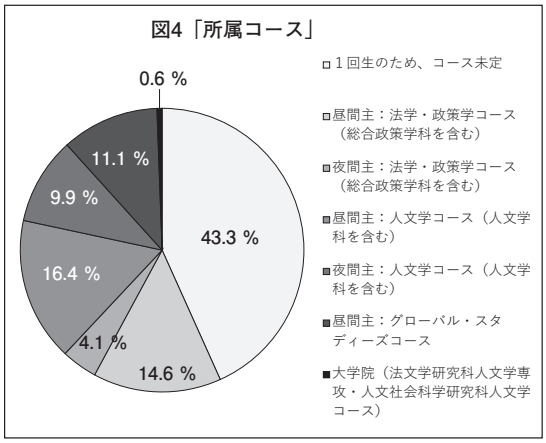
2）性別は、「男性」52人（30.4％）、「女性」118人（69.0％）、「その他」1人（0.6％）である（図2）。



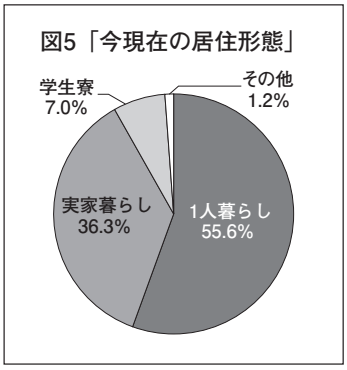

3）学年は、「学部1回生」74人（43.3％）、「学部2回生」36人（21.1％）、「学部3回生」28人（16.4％）、「学部4回生以上」32人（18.7％）、「大学院1回生」1人（0.6％）、「大学院2回生以上」0人である（図3）。




4）所属コースは、「1回生のため、コース未定」74人（43.3％）、「昼間主：法学・政策学コース（総合政策学科を含む）」25人（14.6％）、「夜間主：法学・政策学コース（総合政策学科を含む）」7人（4.1％）、「昼間主：人文学コース（人文学科を含む）」28人（16.4％）、「夜間主：人文学コース（人文学科を含む）」17人（9.9％）、「昼間主：グローバル・スタディーズコース」19人（11.1％）、「大学院（法文学研究科人文学専攻・人文社会科学研究科人文学コース）」1人（0.6％）である（図4）。




5）後学期が始まった今現在の居住形態は、「1人暮らし」95人（55.6％）、「実家暮らし」62人（36.3％）、「学生寮」12人（7.0％）、「その他」2人（1.2％）である（図5）。



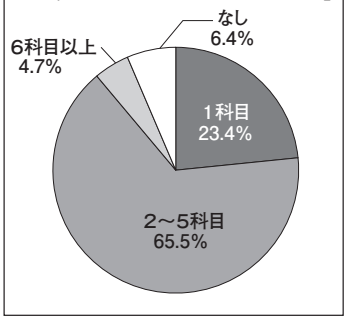
### ⑵　コロナ禍の学修面について

前期（1Q/2Q）における法文学部と共通教育の遠隔授業について単純集計の結果を示す。

#### 1）Zoom 等を用いた同期型授業数

「Zoom 等の同期型授業は何科目ありましたか」の質問に対し、「1科目」40人（23.4％）、「2 ～ 5科目」112人（65.5％）、「6科目以上」8人（4.7％）、「なし」11人（6.4％）である（図6）。

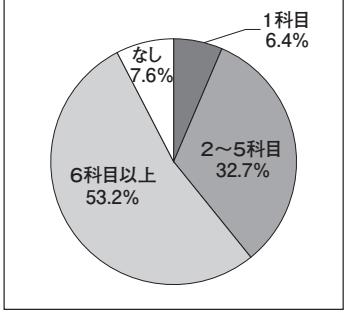
図6「Zoom等を用いた同期型授業数」




#### 2）Moodle を用いた非同期型授業数

「Moodle を利用した非同期型授業は、何科目ありましたか 」の質問に対し、「1科目」11人（6.4％）、「2 ～ 5科目」56人（32.7％）、「6科目以上」91人（53.2％）、「なし」13人（7.6％）である（図7）。

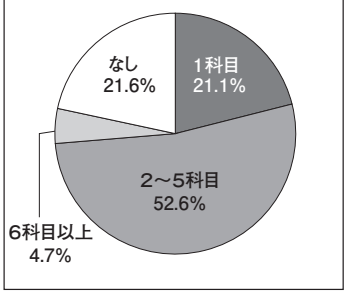
図7「Moodleを用いた非同期型授業数」




#### 3）修学支援システムを用いた非同期型授業数

「修学支援システムやメールを利用した非同期型授業は、何科目ありましたか」の質問に対し、「1科目」36人（21.1％）、「2 ～ 5科目」90人（52.6％）、「6科目以上」8人（4.7％）、「なし」37人（21.6％）である（図8）。

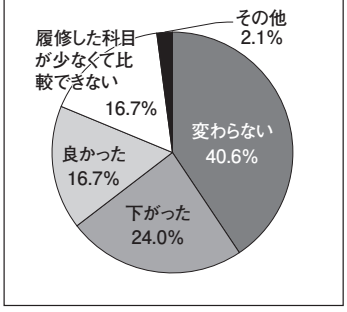
図8「修学支援システム用いた非同期型授業数」




#### 4）前期の成績に対する学生の主観

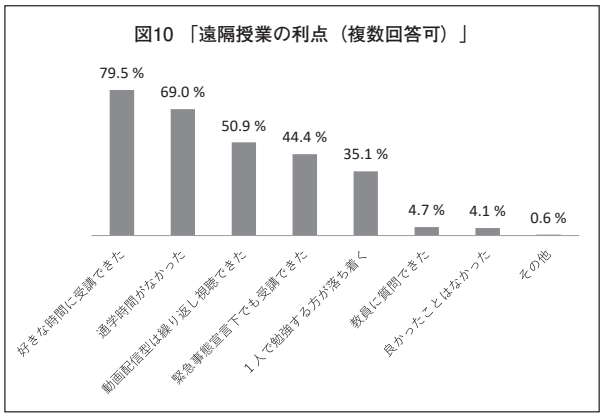
「昨年までと比較して、前期の成績（単位取得数、評価）はいかがでしたか」の質問に対し、「1回生なので昨年と比べられない」75人（43.8％）を除く96人の回答は、「昨年と比べて成績は良かった」16人（16.7％）、「昨年と比べて成績は変わらない」39人（40.6％）、「昨年と比べて成績は下がった」23人（24.0％）、「昨年と比べて履修した科目が少なくて比較できない」16人（16.7％）、「その他」2人（2.1％）である（図9）。

図9「昨年と比較した前期の成績(学生の主観)」



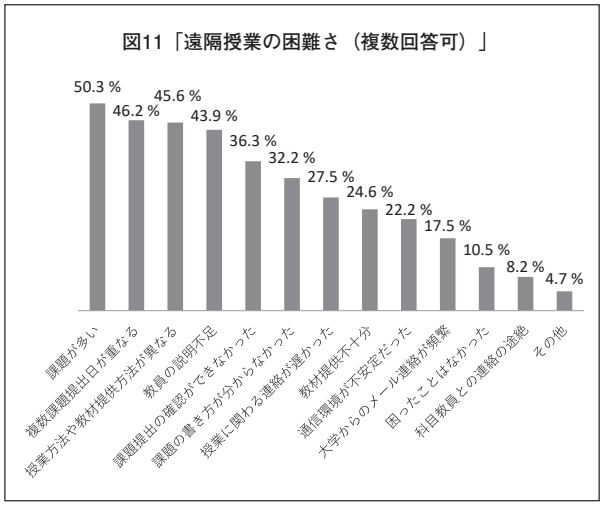
### 5）遠隔授業の利点

「遠隔授業で、良かったことがあれば教えてください（複数回答可）」の質問に対し、「自分の好きな時間に受講できたこと」136人（79.5％）、「通学時間がなかったこと」118人（69.0％）、「動画配信型の教材を繰り返し視聴できたこと」87人（50.9％）、「緊急事態宣言下でも受講できたこと」76人（44.4％）、「1人で勉強する方が落ち着くこと」60人（35.1％）、「教員に質問できたこと」8人（4.7％）、「良かったことはなかった」7人（4.1％）「その他」1人（0.6％）である（図10）。




### 6）遠隔授業の困難さ

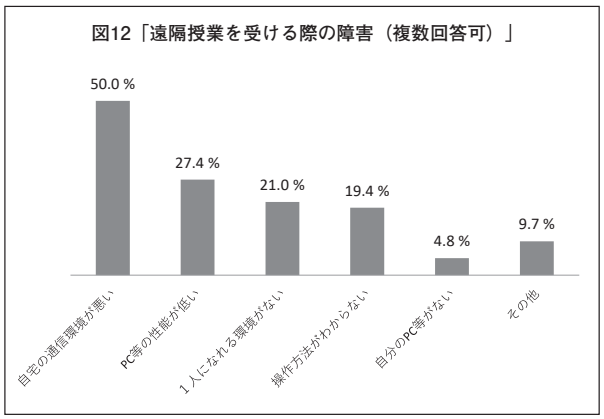
「遠隔授業で、困ったことについて教えてください（複数回答可）」の質問に対し、「課題やレポート提出の回数が多いこと」86人（50.3％）、「複数の科目の課題やレポート提出日が重なること」79人（46.2％）、「授業科目により授業方法（同期型または非同期型等）や教材提供方法（Moodle またはメール等）が異なり、分かりにくかったこと」78人（45.6％）、「教員による説明が少なく授業内容を理解できなかったこと」75人（43.9％）、「出席している課題が提出されているか確認ができなかったこと」62人（36.3％）、「課題やレポートの書き方が分からなかったこと55人」（32.2％）、「大学や担当教員からの授業に関わる連絡が遅かったこと」47人（27.5％）、「教材提供不十分で、授業内容を理解できなかったこと」42人（24.6％）、「通信環境の関係で、同期型の授業受信が不安定だったこと」38人（22.2％）、「大学や担当教員からのメール連絡が頻繁であったこと」30人（17.5％）、「困ったことはなかった」18人（10.5％）、「科目教員と連絡がつかな



かったこと、つきにくかったこと」14人（8.2%）、「その他」8人（4.7%）である（図11）。

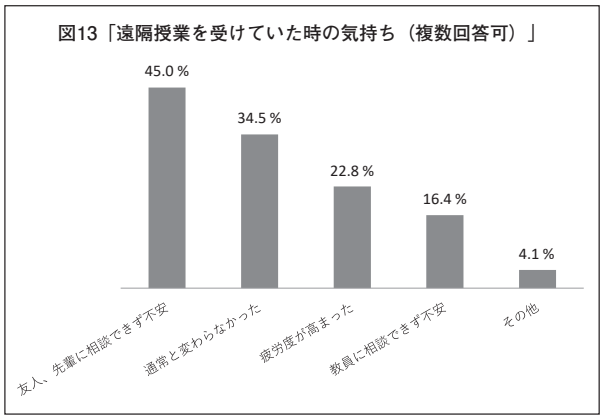
### 7）遠隔授業を受ける際の障害

「遠隔授業を受けるのに障害になっていたことはどのようなことですか（複数回答可）」の質問に対し、「障害になることはなかった」109人（63.7％）を除く62人の回答は、「自宅の通信環境が整っていなかった（通信速度が遅い等も含む）」31人（50.0%）、「自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）の性能が低かった」17人（27.4%）、「自宅で自分1人になれる部屋（環境）がなかった」13人（21.0%）、「Moodle などの操作方法がわからなかった」12人（19.4%）、「自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）がなかった」3人（4.8%）、「その他」6人（9.7%）である（図12）。




### 8）遠隔授業を受けていた時の気持ち

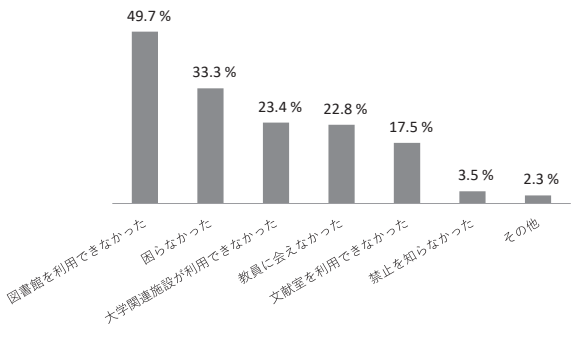
「遠隔授業を受けていた時の気持ちについて教えてください（複数回答可）」の質問に対し、「困ったことを友達や先輩に相談できず、不安になった」77人（45.0％）、「通常と変わらず、安定的に遠隔授業を受けることができた」59人（34.5%）、「昨年以上に長時間の学修を行ったため、疲労度が高まった」39人（22.8%）、「困ったことを教員に相談できず、不安になった」28人（16.4%）、「その他」7人（4.1%）である（図13）。



### 9）大学構内立ち入り禁止の影響

「大学構内への立ち入りが禁止されていましたが、どのようなことに困りましたか（複数回答可）」の質問に対し、「図書館を利用できなかったこと」85人（49.7%）、「困らなかった」57人（33.3%）、「図書館や文献室以外の大学関連施設が利用できなかったこと」40人（23.4%）、「担当教員に会うことが出来なかったこと」39人（22.8%）、「法文学部の文献室を利用できなかったこと」30人（17.5%）、「禁止されていることは知らなかった」6人（3.5%）、「その他」4人（2.3%）である（図14）。

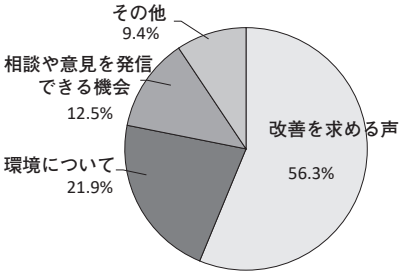
図14「大学構内への立ち入りが禁止の影響（複数回答可）」




### 10）遠隔授業を行う際に必要とされる大学からのサポート（自由記述）

「遠隔授業の際に、あったら良いと思う大学からのサポートはどのようなものでしたか」の自由記述項目に対し、回答者は32人（18.7%）である。得られた回答（複数回答可）を分類した結果、サポートを求める具体的な回答が「環境についてのサポート」7人（21.9%）「相談や意見を発信できる機会を設ける等のサポート」4人（12.5%）である。他には「システム機能改善、授業方法や指導内容について改善を求める声」18人（56.3%）「その他」3人（9.4%）である（図15）。具体的な回答を、資料2に示す。

図15「遠隔授業を行う際に必要とされる大学からのサポート（自由記述）」



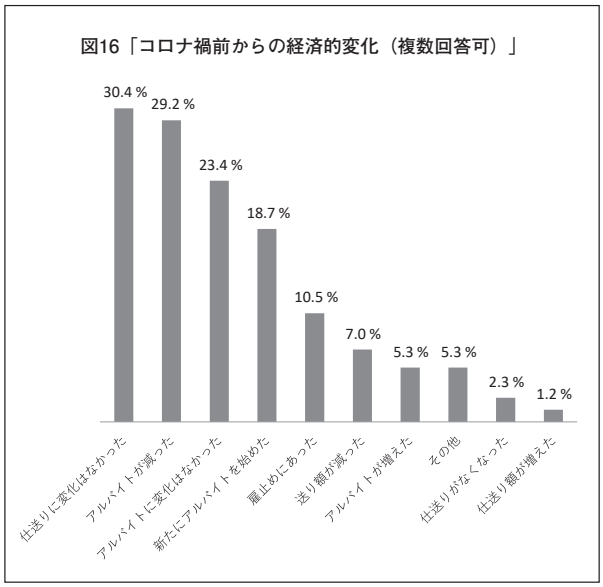

## ⑶ コロナ禍の生活面について

コロナ禍の生活面について単純集計の結果を示す。

### 1）コロナ禍前からの経済的変化

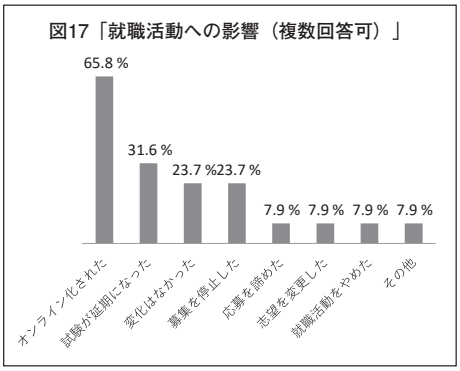
「前期（1Q/2Q）の遠隔授業期間において、どのような経済的な変化がありましたか（複数回答可）」の質問に対し、「保護者からの仕送りに変化はなかった」52人（30.4%）、「アルバイトに入る回数や時間が減った」50人（29.2%）、「アルバイトに入る回数や時間に変化はなかった」40人（23.4%）、「新たにアルバイトを始めた」32人（18.7%）、「アルバイト先が休業したり雇止めにあった」18人

(10.5%)、「保護者からの仕送り額が減った」12人（7.0%)、「アルバイトに入る回数や時間が増えた」9人（5.3%)、「その他」9人（5.3%)、「保護者からの仕送りがなくなった」4人(2.3%)、「保護者からの仕送り額が増えた」2人（1.2%）である（図16)。




## 2）就職活動への影響

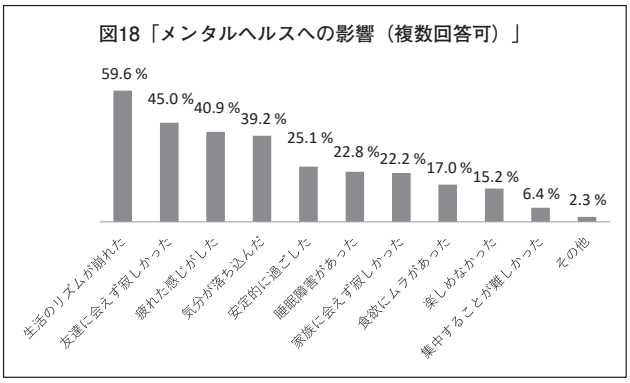
「就職活動にどのような影響がありましたか（複数回答可)」の質問に対し、「4回生以上ではない、または就職活動はしていない」133人（77.7％）を除く、38人の回答は、「Web 面接など、オンライン化された」25人（65.8%)、「公務員試験や就職試験が延期になった」12人（31.6%)、「就職活動に変化はなかった」9人（23.7%)、「希望していた企業や自治体が募集を停止した」9人（23.7%)、「希望していた企業や自治体の応募を諦めた」3人（7.9%)、「志望業界を見直した（変更した)」3人（7.9%)、「就職活動をやめた」3人（7.9%)、「その他」3人（7.9%）である(図17)。




## 3）メンタルヘルスへの影響

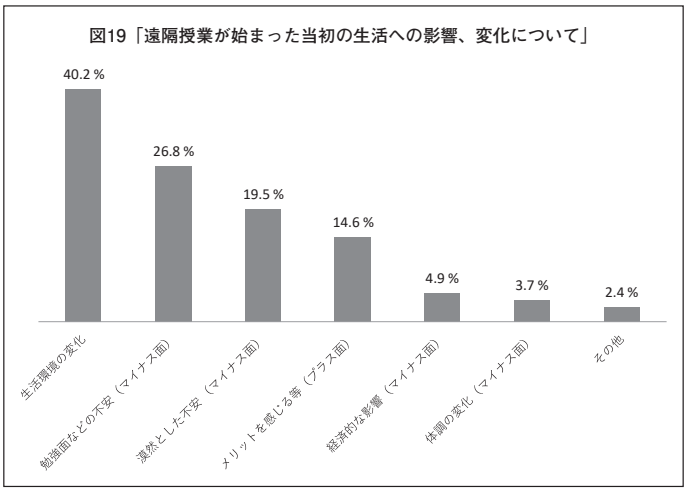
「遠隔授業期間において、メンタルヘルスにどのような変化がありましたか(複数回答可)」の質問に対し、「生活のリズムが崩れた」102人（59.6%)、「友達に会えなかったり課外活動が行えず寂しかった」77人（45.0%)、「疲れた感じがした、または気力がなかった」70人（40.9%)、「気分が落ち込んだ」67人(39.2%)、「通常と変わらず、安定的に過ごした」43人（25.1%)、「寝つきが悪くなった、途中で目が覚めた、反対に眠り過ぎた」39人（22.8%)、「家族に会え

ず寂しかった」38人（22.2%）、「食欲がなかった、あるいは食べ過ぎた」29人（17.0%）、「物事に対してほとんど興味が無くなった、楽しめなかった」26人（15.2%）、「新聞やテレビを見ることなどに集中することが難しかった」11人（6.4%）、「その他」4人（2.3%）である（図18）。




### 4）遠隔授業が始まった当初の生活への影響、変化について（自由記述）

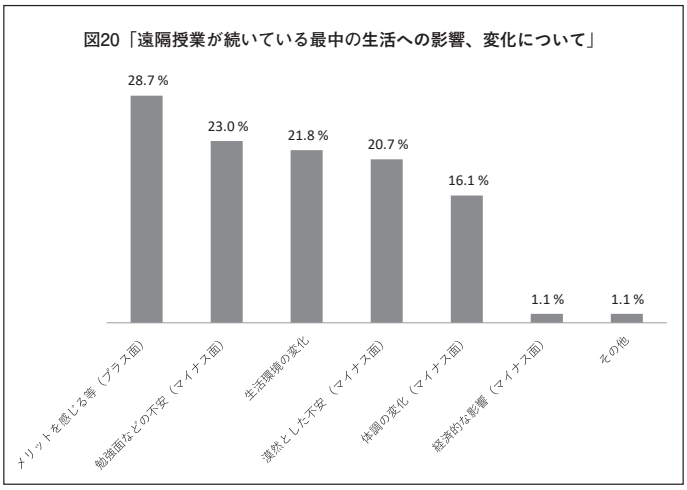
「遠隔授業が始まった当初、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか」の自由記述項目に対し、回答者は82人（48.0%）である。得られた回答（複数回答可）を分類した結果、「生活リズムが崩れる、実家に帰る等生活環境の変化の記述」33人（40.2%）、「勉強面など精神面への影響（マイナス面）の記述」22人（26.8%）、「コロナ禍に対する漠然とした不安（マイナス面）の記述」16人（19.5%）、「心身環境等に余裕（メリット）を感じる等（プラス面）の記述」12人（14.6%）「経済的な影響（マイナス面）の記述」4人（4.9%）、「体調の変化（マイナス面）の記述」3人（3.7%）、「その他」2人（2.4%）である（図19）。具体的な回答を、資料3に示す。




### 5）遠隔授業が続いている最中の生活への影響、変化について（自由記述）

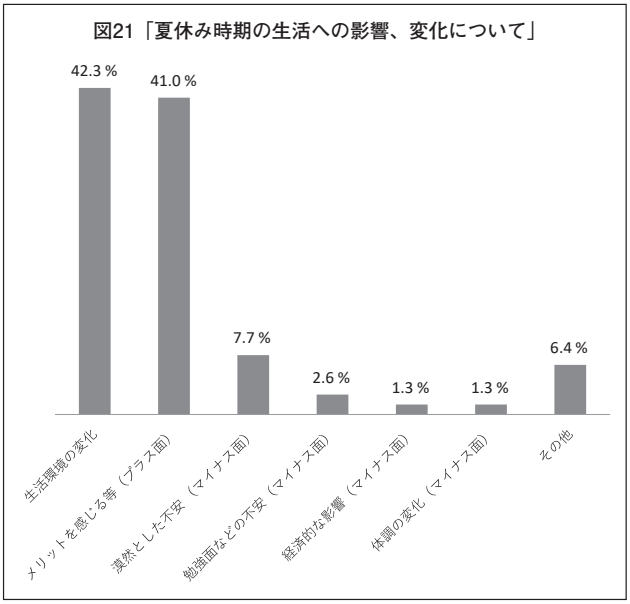
「その後、遠隔授業が1、2カ月続いた頃、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか」の自由記述項目に対し、回答者は87人（50.9%）である。得られた回答（複数回答可）を分類した結果、「心身環境等に余裕（メ

リット）を感じる等（プラス面）の記述」25人（28.7％）、「勉強面など精神面への影響（マイナス面）の記述」20人（23.0％）、「生活リズムが崩れる、実家に帰る等生活環境の変化の記述」19人（21.8％）、「コロナ禍に対する漠然とした不安（マイナス面）の記述」18人（20.7％）、「体調の変化（マイナス面）の記述」14人（16.1％）、「経済的な影響（マイナス面）の記述」1人（1.1％）「その他」1人（1.1％）である（図20）。具体的な回答を、資料4に示す。




### 6）夏休み時期の生活への影響、変化について（自由記述）

「夏休み、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか」の自由記述項目に対し、回答者は78人（45.6％）である。得られた回答（複数回答可）を分類した結果、「生活リズムが崩れる、実家に帰る等生活環境の変化の記述」33人（42.3％）、「心身環境等に余裕（メリット）を感じる等（プラス面）の記述」32人（41.0％）「コロナ禍に対する漠然とした不安（マイナス面）の記述」6人（7.7％）、「勉強面など精神面への影響（マイナス面）の記述」2人（2.6％）、「経済的な影響（マイナス面）の記述」1人（1.3％）、「体調の変化（マイナス面）の記述」1人（1.3％）「その他」5人（6.4％）である（図21）。具体的な回答を、資料5に示す。



## 6．考　察

本調査結果は、いまだコロナ禍収束の目途が立たない「With コロナ」の状況において、大学が今後どのような取り組みを進めてゆく必要があるのか、数多くの示唆を与えるものとなっている。そして、今回の新型コロナウイルスのような全世界規模で起きている災厄の記録や教訓を収集、保存し、継承していくためにも、コロナ禍における大学生の学修状況や生活状況を把握し、実態を明らかにすることは、非常に重要である。

本調査から読み取れる傾向として、愛媛大学法文学部における学部生並びに大学院生のコロナ禍への対応は、大学への通学が禁止・制限された生活のなかで、当初、未曽有の事態に不安を抱えながら過ごしたものの、遠隔授業の継続に伴い、夏季休業期間まで学修や生活パターンを自ら工夫しておおむね乗り切ったことがわかる。これは調査結果の多数から読み取れることであるが、回答者のなかでも格差が大きいことも特徴である。遠隔授業の継続に伴い、自宅での学修や生活ともに順応してきた学生がいる一方、前学期期間を通じて自宅での学修や生活、メンタルヘルスに困難を感じ続けていた学生もいる。この点の詳細については、別稿に譲る。

本稿では、⑴ コロナ禍の学修面および ⑵ コロナ禍の生活面についての単純集計から、全体の傾向を考察していく。

### ⑴　コロナ禍の学修面について

授業方法については、6科目以上あった形式としては、「Moodle を利用した非同期型授業」が一番多く、「Zoom 等の同期型授業や、修学支援システムやメールを利用した非同期型授業」は、2〜5科目あったと回答した学生が多かった。

また、成績に関しては、「昨年と変わらない」学生が半数近くだったが、変化があった学生の中では「成績が良くなった」学生より「悪くなった」学生の方が多い結果となっていた。学年別にみていくと、1回生は「1回生なので昨年と比べられない」が100％、2回生は「昨年と比べて成績は変わらない」が55％で一番多かったが、3回生になると「昨年と比べて成績は下がった」が43％で一番多く、4回生は「昨年と比べて履修した科目が少なくて比較できない」が43％で一番多い結果になった。これは遠隔授業になったからという原因よりは、通常時の成績でも考えられることかもしれない。

遠隔授業で困ったこととしては、半数の学生が「課題やレポート提出の回数が多いこと」を挙げており、半数近くの学生が「複数の科目の課題やレポート提出日が重なったこと」が困ったようだ。課題としてレポートが多いうえ、その締め切りに追われた様子がうかがえる。また、「授業科目により授業方法（同期型または非同期型等）

や教材提供方法（Moodle またはメール等）が異なり、分かりにくかったこと」や、「教員による説明が少なく授業内容を理解できなかったこと」も半数近くが当てはまると回答しており、慣れない遠隔授業で、提供する教員からの説明不足に戸惑う様子がうかがえる。

反対に、遠隔授業で良かったこととしては、「自分の好きな時間に受講できたこと」が8割近い学生がメリットと感じており、次いで、半数以上の学生が「通学時間がなかったこと」や「動画配信型の教材を繰り返し視聴できたこと」などを挙げており、自由に学修の時間を決めることができるため、無くなった通学時間も利用し、学修したい科目は何度も繰り返し学修していこうとした意欲がうかがえる。

また、遠隔授業を受ける際には、パソコンや通信機器など最低限の機材が必要となってくるが、「障害になることはなかった」と回答した学生が6割以上いた。障害になった学生の中では、「自宅の通信環境が整っていなかった（通信速度が遅い等も含む）」と回答した学生が半数と一番多かった。

遠隔授業を受けていた時の気持ちについては、「困ったことを友達や先輩に相談できず、不安になった」学生が半数近く該当し、通常授業の時でも履修を決める際には友達同士相談しながら決めている様子もうかがえるため、慣れない遠隔授業での受講方法などを気軽にすぐ聞ける学生が近くにいなかったという不安は大きかったようだ。特に学年別に見ていくと顕著で、1回生では「困ったことを友達や先輩に相談できず、不安になった」との回答が一番高く7割近くの1回生が該当していた。次いで高かった回答は、「困ったことを教員に相談できず、不安になった」であった。2回生以上になると、「通常と変わらず、安定的に遠隔授業を受けることができた」が一番高く、次いで「昨年以上に長時間の学修を行ったため、疲労度が高まった」と回答している。1回生は通常時の大学生活が分からない中で遠隔授業となり、不安が大きかったことが分かる。

また、選択肢の「困ったことを友達や先輩に相談できず、不安になった」を、アンケート回答当時（後学期）の居住形態別に見ていくと、学生寮の66％が一番高く、次いで実家暮らしが50％、最後に一人暮らしが40％という結果だった。一人暮らしより学生寮や実家で暮らしている学生の方が「困ったことを友達や先輩に相談できず、不安になった」という傾向がみられた。しかし、これらは質問項目ではアンケート回答当時（後学期）での居住形態しか聞いておらず、前期の遠隔授業時での居住形態も聞くと違う結果がでた可能性もあるだろう。

また大学構内への立ち入りが禁止されていることによって困ったこととしては、半数近くの学生が「図書館を利用できなかったこと」と回答している。例年以上に多くなったレポートや、大学に入学して初めてのレポートで、大学図書館が使用できない

ために制限された文献の中でしか課題に取り組むことができなかったのだろう。次いで多かった回答は「困らなかった」だった。愛媛大学では、遠隔で使用できるデータベースも多くあり、そういったものをうまく利用できた学生もいたのかもしれない。また、愛媛大学では、教職員に対し、前学期授業開講に係る方針として、『授業方法等の弾力的な対応』を求める通知（令和2年3月31日付）をしていた。よって、遠隔授業時点では図書館の利用を前提としない課題が課されていた可能性も高い。

遠隔授業の際に、あったら良いと思う大学からのサポートを自由記述で述べてもらった。回答者は2割弱で、回答の内訳としては「資金援助」や「教室開放」など具体的なサポートを求める声より、「出席や課題提出をしたことが確実にわかる機能」「Moodle のようなサイトにすべての講義の講義方法を統一してほしい」「画面を見続けることを防ぐような取り組み、そのような授業の仕方」を求めるなど、授業改善を求める声が多く書かれていた。

### ⑵　コロナ禍の生活面について

経済的な変化に関する質問では、「保護者からの仕送りに変化はなかった」が一番多く、次いで「アルバイトに入る回数や時間が減った」学生が多かった。また、就職活動での影響は、「Web 面接など、オンライン化された」とする回答が7割近く、また就職試験が延期になった自治体等や企業もあったようで、就職試験の計画が崩れたり例年とは違った就職活動に手探りで活動していたりといった様子がうかがえる。

また、メンタルヘルスに対する変化では、「生活リズムが崩れた」学生が6割にのぼり、4割が「友達に会えなかったり課外活動が行えず寂しかった」、「疲れた感じがした、または気力がなかった」、「気分が落ち込んだ」という回答だった。また、これらメンタルヘルスに対する質問項目のうち「通常と変わらず、安定的に過ごした」を選択したものを除く9項目にいくつ該当したかを今現在（後学期）の居住形態別に分析すると、実家暮らしでは0個～2個該当した学生が60％だったのに対し、一人暮らしでは3個～9個該当した学生が54％という結果になっている。やはり一人暮らしの学生のほうがストレスを感じていることがうかがわれる。なお、今回の調査では、今現在（後学期）での居住形態しか聞いておらず、前期の遠隔授業時での居住形態とストレスとの関係は明確ではないが、今現在一人暮らしの学生は家族が遠方、地元の友人も遠方ということで、ストレスが多かったのではないだろうか。

コロナ禍において、生活への影響を問う自由記述「遠隔授業が始まった当初」と、「遠隔授業が続いている最中」、さらに「夏休みの時期」について質問した回答では、遠隔授業が始まった当初は、実家に帰る等の生活環境の変化や夜昼逆転生活になるなど生活リズムが崩れる学生が4割にのぼった。次いで、初めての遠隔授業に対して

勉強面など不安を感じたり、コロナ禍に対する漠然とした不安を感じたりしているといった回答が目立った。

しかし、遠隔授業が続く中での生活への影響を問う回答では、心身や環境に余裕を感じるなど今の状態をプラスに捉えている学生の割合が一番多いという結果になった。遠隔授業にも慣れ友達関係もZoomを使って交流するなど工夫している様子がうかがえる。しかし、それでも、勉強や精神面への影響、生活リズムの崩れ、コロナ禍に対する漠然とした不安はあったようで、ここでは、PC画面を見続けることでの疲労など体調の変化もみられる学生が出てきている。先行研究[(1)]では、通常の講義と比較して遠隔講義の受講に対し疲労感を感じている学生が半数以上という結果も出ており、慣れないだけではなく、画面を見続けることや多岐にわたる授業方式によって、疲労度が増していることもあるだろう。

そして、夏休み期間には、生活リズムが崩れたり環境の変化があったりした学生が4割以上となっている。生活リズムをつかみかけていたが、授業がなくなり、また旅行など遊びに行くこともできずこれまでとは違った夏休みを過ごすことが多かったようだ。その一方で、心身や環境に余裕を感じるなど今の状態をプラスに捉えている学生の割合も4割を超えており、バイトを始めたり教習所に通ったり資格の勉強をしたりと新たな目標を作り、この時期にできることを探している様子をうかがうことができた。

本調査に寄せられた愛媛大学法文学部の学生の回答からは、学生たちが様々な不満を抱えつつもおおむね前向きに学業に取り組んでいる傾向がうかがわれた。今現在、全国では退学・休学を検討せざるを得ない大学生が急増していると言われており、病気や自死などで親を亡くした遺児の大学生においては、4人に1人が「退学検討」をしているという結果も出ている[(2)]。また、高等教育の無償化に取り組む学生団体の「高等教育無償化プロジェクトFREE」が行ったネット調査[(3)]では、一般学生の5人に1人が退学を検討しているという結果が出ている。このような中で、地域性も大きいとはいえ、愛媛大学法文学部ではコロナ禍をうまく乗り切っている、乗り切ろうとしている傾向がみられた。

ただ、本調査データはあくまでも限定的なサンプル（法文学部所属学生総数の約10％）の平均値からの見解であって、こういう問題は個人差が大きい問題になってくる。実際、自由記述のところでは、ある学生は、「明らかに受講の効率、モチベーションが向上した」、「通学、受講時間を自分で決められるようになったことで、学修効率が大幅に向上した」、「自宅から出る必要がなくとても心地よく過ごすことができた」と遠隔授業が始まった当初から夏休み期間まで落ち着いて過ごせている記述がある一方で、「初めての授業や課題を相談する人がおらず、不安だった。」、「オンライン

での交流が苦手だったため人との関わりがあまり無かった。」、「バイトを始めたが、失敗することも多く、死にたいと思うことが増えた。」と、継続的に辛い状況を記述している学生も存在している。

そして、コロナ禍になった当初は動揺しており心身ともにつらかったが、授業や生活に慣れるにつれ、自分のやり方が定着し、その中で楽しさを見つけだせている学生もいる。また、そういった軌道に乗れたかのようにみえる学生の中でも、長期休みになると、旅行に行けないことや友達と自由に会うことができないことに対し、辛くなっているといった形で気持ちの変化に波も見られ、自由記述では、さまざまな形でのコロナ禍の生活が見えてきた。これらは、データとして平均値にしてみると見えてこない事柄だろう。

今回の調査では、同時にコロナ禍の学修・生活に関する学生の手記も募集しており、数件集まっている。今後は、自由記述や手記を分析しつつ、生の声を聞くことにより解析する予定である。

## 7．おわりに

今なおコロナ禍には収束が見えず将来が見えてこない中、教育という現場は学びを止めないために、方針の見直しが続いている。「第3波」の到来も避けられないと言われている現在の日本で、With コロナの大学教育はどのようになるのだろうか。この災厄から得られた教訓を無駄にしないように、今後も手記の募集や座談会を開催し、学生・教員双方の生の声を収集・保存していきたい。

**謝辞**

今回、アンケート調査に携わって頂きました法文学部の教員、ならびに回答頂きました学生の方々に感謝の意を表します。

また、この研究は、令和2年度法文学部戦略経費の助成金交付により研究が遂行されたものです。

**参考文献**

⑴　内藤徹.（2020）. 同志社大学商学部生の遠隔授業環境に関するアンケート調査結果報告書. 同志社商学, 72（2）, 277-288.

⑵　國崎万智. “遺児の大学生、4人に1人が「退学検討」。コロナで進学あきらめる高校生も（調査結果）.” https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_5fc4426ec5b66bb88c680870（2020年12月10日閲覧）.

⑶　高等教育無償化プロジェクト FREE.“新型コロナ感染拡大の学生生活への影響調査（集計結果）.” https://s3-us-west-2.amazonaws.com/jnpc-prd-public-oregon/files/2020/05/f45e4e80-bc34-49ba-9d38-1e80a0e6e429.pdf（2020年12月10日閲覧）.

調査期間：2020年4月9日21時～4月27日20時

回答：319校1200名（国立大学60校412名、公立大学19校33名、私立大学202校716名、短期大学3校3名、専門学校32校32名、その他高等教育機関3校4名）

**付録内容**

資料1. コロナ禍における法文学部学生の学修・生活への影響アンケート
資料2. 遠隔授業を行う際に必要とされる大学からのサポート（自由記述の全回答）
資料3. 遠隔授業が始まった当初の生活への影響、変化について（自由記述の全回答）
資料4. 遠隔授業が続いている最中の生活への影響、変化について（自由記述の全回答）
資料5. 夏休み時期の生活への影響、変化について（自由記述の全回答）

資料1. コロナ禍における法文学部学生の学修・生活への影響アンケート

このアンケートは、法文学部戦略経費「コロナ禍における法文学部学生の被災記録の収集、保存ー将来の災害に備えてのデータベース化と今後の課題ー」の一環として、学生の学修・生活への影響をお聞きするものです。これは、学術目的の調査であり、後世に役立てるための記録として保存します。

本調査の回答により収集された情報は、個人情報保護法にしたがって適切に管理されます。このアンケートは、原則匿名ですが、今後手記を提供してくださる場合は、お名前と連絡先をお聞きいたします。アンケート内容や個人情報の取り扱いなどに疑義がある場合は青木理奈（*********@ehime-u.ac.jp）にお問い合わせください。

本アンケート調査の回答にはおよそ5～10分かかります。ご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。

代表　青木理奈・鈴木　靜

* 必須

１．あなたは次のどれに当てはまりますか *
1つだけマークしてください。
- 一般学生
- 社会人
- 留学生
- その他：

２．性別を教えてください *
1つだけマークしてください。
- 男性
- 女性
- その他

３．学年を教えてください *
1つだけマークしてください。
- 学部1回生
- 学部2回生
- 学部3回生
- 学部4回生以上
- 大学院1回生
- 大学院2回生以上

4．コース等を教えてください *
1つだけマークしてください。
- 1回生のため、コース未定
- 昼間主：法学・政策学コース（総合政策学科を含む）
- 夜間主：法学・政策学コース（総合政策学科を含む）
- 昼間主：人文学コース（人文学科を含む）
- 夜間主：人文学コース（人文学科を含む）
- 昼間主：グローバル・スタディーズコース
- 夜間主：グローバル・スタディーズコース
- 大学院（法文学研究科総合政策専攻・人文社会科学研究科法学コース）
- 大学院（法文学研究科人文学専攻・人文社会科学研究科人文学コース）

5．後学期が始まった今現在の居住形態を教えてください *
1つだけマークしてください。
- 1人暮らし
- 実家暮らし
- 学生寮
- その他：

【学修面】
この設問以降、前期（1Q/2Q) における法文学部と共通教育の遠隔授業についてお聞きします。

1．Zoom 等の同期型授業は何科目ありましたか *
1つだけマークしてください。
- 1科目
- 2～5科目
- 6科目以上
- なし

2．Moodle を利用した非同期型授業は、何科目ありましたか *
1つだけマークしてください。
- 1科目
- 2～5科目
- 6科目以上
- なし

3．修学支援システムやメールを利用した非同期型授業は、何科目ありましたか *
1つだけマークしてください。
- 1科目
- 2～5科目
- 6科目以上
- なし

4．昨年までと比較して、前期の成績（単位取得数、評価）はいかがでしたか *
1つだけマークしてください。
- 昨年と比べて成績は良かった
- 昨年と比べて成績は変わらない
- 昨年と比べて成績は下がった
- 1回生なので昨年と比べられない
- 昨年と比べて履修した科目が少なくて比較できない
- その他：

5．遠隔授業で、困ったことについて教えてください（複数回答可）*
当てはまるものをすべて選択してください。
- 大学や担当教員からの授業に関わる連絡が遅かったこと
- 大学や担当教員からのメール連絡が頻繁であったこと
- 授業科目により授業方法（同期型または非同期型等）や教材提供方法（Moodle またはメール等）が異なり、分かりにくかったこと
- 教材提供不十分で、授業内容を理解できなかったこと
- 教員による説明が少なく授業内容を理解できなかったこと
- 通信環境の関係で、同期型の授業受信が不安定だったこと
- 課題やレポートの書き方が分からなかったこと
- 課題やレポート提出の回数が多いこと
- 複数の科目の課題やレポート提出日が重なること
- 科目教員と連絡がつかなかったこと、つきにくかったこと
- 出席している課題が提出されているか確認ができなかったこと
- 困ったことはなかった
- その他：

6．遠隔授業で、良かったことがあれば教えてください（複数回答可）*
当てはまるものをすべて選択してください。
- 緊急事態宣言下でも受講できたこと
- 自分の好きな時間に受講できたこと
- 動画配信型の教材を繰り返し視聴できたこと
- 教員に質問できたこと
- 通学時間がなかったこと
- 1人で勉強する方が落ち着くこと
- 良かったことはなかった
- その他：

7．遠隔授業を受けるのに障害になっていたことはどのようなことですか（複数回答可）*
当てはまるものをすべて選択してください。
- 自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）がなかった
- 自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）の性能が低かった
- 自宅の通信環境が整っていなかった（通信速度が遅い等も含む）
- 自宅で自分1人になれる部屋（環境）がなかった
- Moodle などの操作方法がわからなかった

- 障害になることはなかった
- その他：

8．遠隔授業を受けていた時の気持ちについて教えてください（複数回答可）*
当てはまるものをすべて選択してください。
- 通常と変わらず、安定的に遠隔授業を受けることができた
- 困ったことを教員に相談できず、不安になった
- 困ったことを友達や先輩に相談できず、不安になった
- 昨年以上に長時間の学修を行ったため、疲労度が高まった
- その他：

9．大学構内への立ち入りが禁止されていましたが、どのようなことに困りましたか（複数回答可）*
当てはまるものをすべて選択してください。
- 図書館を利用できなかったこと
- 法文学部の文献室を利用できなかったこと
- 図書館や文献室以外の大学関連施設が利用できなかったこと
- 担当教員に会うことが出来なかったこと
- 禁止されていることは知らなかった
- 困らなかった
- その他：

10. 遠隔授業の際に、あったら良いと思う大学からのサポートはどのようなものでしたか

【生活面】
コロナ禍での緊急事態宣言のものでの生活面についてお聞きします

1．前期（1Q/2Q) の遠隔授業期間において、どのような経済的な変化がありましたか（複数回答可）*
当てはまるものをすべて選択してください。
- アルバイトに入る回数や時間に変化はなかった
- アルバイトに入る回数や時間が減った
- アルバイトに入る回数や時間が増えた
- アルバイト先が休業したり雇止めにあった
- 新たにアルバイトを始めた
- 保護者からの仕送りに変化はなかった
- 保護者からの仕送り額が減った
- 保護者からの仕送りがなくなった
- 保護者からの仕送り額が増えた
- その他：

2．就職活動にどのような影響がありましたか（複数回答可）*
当てはまるものをすべて選択してください。
- 就職活動に変化はなかった
- 希望していた企業や自治体が募集を停止した
- 公務員試験や就職試験が延期になった

- 希望していた企業や自治体の応募を諦めた
- Web 面接など、オンライン化された
- 志望業界を見直した（変更した）
- 就職活動をやめた
- 4回生以上ではない、または就職活動はしていない
- その他：

３．遠隔授業期間において、メンタルヘルスにどのような変化がありましたか（複数回答可）*
当てはまるものをすべて選択してください。

- 通常と変わらず、安定的に過ごした
- 物事に対してほとんど興味が無くなった、楽しめなかった
- 気分が落ち込んだ
- 寝つきが悪くなった、途中で目が覚めた、反対に眠り過ぎた
- 疲れた感じがした、または気力がなかった
- 食欲がなかった、あるいは食べ過ぎた
- 新聞やテレビを見ることなどに集中することが難しかった
- 生活のリズムが崩れた
- 家族に会えず寂しかった
- 友達に会えなかったり課外活動が行えず寂しかった
- その他：

４．遠隔授業が始まった当初、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか。自由にお書きください。（遠隔授業開始は4月22日、緊急事態宣言は4月16日～5月6日）

５．その後、遠隔授業が1、2カ月続いた頃、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか。自由にお書きください。

６．夏休み、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか。自由にお書きください。

【協力して頂ける方のみ】謝礼：クオカード3,000円

本プロジェクトでは、学生の皆さんにコロナ禍での大学生活の記録を手記としてまとめていただきたいと希望しています。手記の締め切りは11月末日で、1,200字程度です。手記をお寄せいただいた方には、謝礼（クオカード3,000円分）をお出しします。お引き受けくださる方は、青木と鈴木（下記の宛先）までメールにてご連絡ください。連絡頂いた学生さんには、青木から依頼のメールを致します。

宛先：青木理奈：*********@ehime-u.ac.jp、鈴木　靜：*********@ehime-u.ac.jp
件名：「コロナ禍における法文学部学生の手記について」
本文：お名前をフルネームで書いてください。
こちらから連絡しても良いメールアドレスを正しく書いてください。
以上です。

質問は以上です。ご回答ありがとうございました。

資料2.「遠隔授業の際に、あったら良いと思う大学からのサポートはどのようなものでしたか」に対する全回答（自由記述）

| |
|---|
| 資金援助。 |
| 通信環境の整った教室の開放。 |
| 先輩や友達との出会いの場が欲しかった。 |
| 授業が全て終わってから授業のアンケートを取るのではなく、間で1度アンケートをとって欲しい。終わってから改善して欲しい点を伝えたってこちら側にはなんのフィードバックがない。今、資料だけで授業をしている先生がいてわかりづらく、動画型に変えて欲しいと思っている。だから、早めの措置をしていただきたい。 |
| 課題の量が適切かどうかのアンケートを定期的にとること。 |
| 多くのサポートがあり、そのままでありがたいと思います。 |
| 同一の曜日に遠隔授業と対面授業がまじらないようにしていただけたら嬉しいです。 |
| 大学からのサポートは特に必要だと思いませんでしたが、課題の提出方法を moodle を使って提出する形式に統一してくださると非常に助かります。 |
| レジュメを印刷させるなら、印刷環境の整備。インクやコピー用紙の提供もしくは代金の補助をしてほしい。特に、インク代はばかにならない。 |
| もっと、大学から学生に意見を聞くべきだと思う。これまでにない遠隔授業なのに、実際に受けている学生から意見を聞く機会が少ないのはどうなのか。 |
| パソコン室の開放など。 |
| 評価基準の明確化。 |
| 個人によって環境が異なるため、教材等の閲覧の期限は設けない方が良いと思った。 |
| zoom 等を使う際にはその使用方法についての詳細な説明、物品の貸し出し、授業に関係のある電子図書の提供、など。 |
| 画面を見続けることを防ぐような取り組み、そのような授業の仕方。 |
| 課題の締切が1日前になったら、再度通知する。 |
| 学習スペースを作ってほしい。 |
| 英語の授業を受講しているが前期の英語Ⅱや英語Ⅲでは課題の内容など moodle に日本語訳があって良かったが、今期からなく、テキストの答えもアップされてないことから非常に困っている。テキストの解答は例文でも良いのでアップしてほしい。 |
| 課題の量を適宜調整する。 |
| 相談会など開いて頂けるのはありがたいのですが、参加者の数や学部コースなどはっきり分からないと参加しにくかった。 |
| レポート課題などの全体的な評価や教授や他生徒の例などもっと参考にしたい。 |
| 音声での説明があると、理解しやすかったです。 |
| ちゃんと先生たちにメール返信を徹底させるサポート。 |
| moodle のようなサイトにすべての講義の講義方法を統一してほしい。 |
| 課題などに対するコメントが、もう少しあったら良かった。 |
| 希望進路にあわせた履修登録の見本。 |
| レポートの評価をつける科目では簡単でいいのでどんなところが悪かったのか指摘が欲しい。 |
| 個人面談などの相談の機会。 |
| 授業の出席を課題ではない方法で確認する。 |
| 出席や課題提出をしたことが確実にわかる機能。 |

| |
|---|
| Moodle のカレンダーに課題の提出期限を載せる先生と載せない先生がいたので、その統一をしていただけるとより課題が提出しやすかったです。 |
| 現状のサポートで精一杯なのかなと思うから特になし。 |
| なるべく課題の提出方法を統一してほしい。また Moodle 上のダッシュボードで全ての課題の締切が見れるようにして欲しい。 |
| 土日もパソコンを使えるようにしてほしかった。 |

資料3.「遠隔授業が始まった当初、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか。自由にお書きください。（遠隔授業開始は4月22日、緊急事態宣言は4月16日～5月6日）」に対する全回答（自由記述）

| |
|---|
| アルバイト先が休業して、学校もなく、実家に戻った。 |
| 課題が多く、慣れるまでに時間がかかった。 |
| 大学で講義がないことに対してやる気が出なかった。 |
| どのように授業が進むのかわからず、不安だった。生活リズムを掴むのに苦労した。 |
| 自宅で落ち着く時間が増えた。 |
| 当初は実家に帰っていたため、大学に帰って来ることはできなかったが、生活に問題はなかった。 |
| 友達に会えず、一人で過ごす時間が増えた。 |
| 最初はどのように授業を進めていいか不安を感じた。 |
| 5月、6月頃に生活リズムが崩れて昼夜逆転した。 |
| 一人暮らしを始めたがすぐに実家に帰省した。 |
| 漠然とした不安があり、無気力に陥った。 |
| 通学時間が減り、多少負担が減った。 |
| 外出することが減った。 |
| 実家に帰省した。 |
| 先月まで高校生でろくにパソコンを使ってこなかったのに、誰にも相談できず不安なまま授業を受けた。 |
| 友達に会えず気分を晴らすことができないまま毎日課題をこなすことを繰り返していくと楽しみがなく気分が沈んだ。 |
| アルバイトの回数が減って収入が減った。また、対面でのカウンセリングが無くなったので、より大学が遠くなった。 |
| 学校に行けず、実家にも帰れない状態が続いて不安だった。 |
| 初めての授業形態でとまどった。 |
| 家族との会話が増え、家族と授業内容の話をすることも増えました。基本的にはインドア派で、かつ自宅生だということもあり、他の身近な学生に比べて不便なことは少なかったように思います。 |
| 早起きをしなくなったが、その他については以前から頻繁に外出するタイプではなかったため特に何も変わらず困ることも無かった。 |
| 昼夜逆転生活になった。 |
| 家でいる時間がかなり増えて、家族との時間が増えました。 |
| 学食を頻繁に利用していたため、ご飯に困った。ミールカードが使えず、食費がかかるようになった。（※ミールカードとは、愛媛大学生活協同組合が提供している1年単位で購入する食堂の定期券である） |
| 何もかもが初めてのこと（遠隔授業など）ばかりで非常に困惑したし、何より退屈に感じた。 |

| |
|---|
| 明らかに受講の効率、モチベーションが向上した。 |
| 当時は就職活動も並行してオンライン上で行っていたので、スケジュール管理が難しかった。しかし、授業も就職活動もオンライン上でほぼ完結できたため、県外などへの移動の時間が減った分ほかの事に時間を使うこともできたので良かった。 |
| 課題の量が多く、夜遅くまで起きる日が多くなった。 |
| 授業に集中できない、聞いているのに頭に入らない。 |
| 外に出ることが全くない状態になり、授業に加えて何らかの重労働をすると眼精疲労が起きやすくなったかもしれない。 |
| 授業が始まっても、要領がわからないし、サークルもやってないし、友人もできなかったのでとても不安だった。 |
| 課題や提出物の量が異常に多く、睡眠時間が削られるなどの生活リズムの乱れが起きるようになった。 |
| 対面授業が減ったので、午前中に活動することが少なくなった。 |
| 学校に通うことがないので、授業が始まっても長期休みの生活リズムを戻せずだらだら過ごしてしまった。 |
| 生活リズムが整いにくかった。 |
| 対面授業がなくなったことに対する不安感や焦燥感の増加。 |
| 自由な時間が増え、心に余裕が生まれた。 |
| 一気にたくさんの課題などが出て、就職活動でもオンラインばかりで、自分は苦手だったので一気に心身共に状態が悪くなった。 |
| 遠隔授業がゼミ講義のみだったため、大きな変化はなかった。 |
| バイトのシフトがなくなり外出することがほとんどなくなり、引きこもりがちになった。 |
| 遠隔授業になれず、不安だった。 |
| 外に出る機会が減った。 |
| 疲労が無くなるので睡眠時間が遅くなり、それに乗じて起床時間が遅くなる。 |
| 現在進行形でずっと鬱。 |
| 初めて使うシステムや受講方法に慣れず不安だった。 |
| 少し気分が落ち込んだ。 |
| コロナウイルス感染予防対策のため、人に会わず、外食もせず部屋に一人でネットと課題に明け暮れた。県外や買い物自体も週に一度という極端な生活で非常に辛かった。 |
| 不安と戸惑いがあった。 |
| 外に出ることが少なくなり課題などちょっとしたことを友達に相談できず困った。 |
| 相談相手がいないため、学校のことに関してはすべて不安で、課題などにも慣れないため、精神的に疲労感があり、寝不足や息切れがあった。 |
| ひたすら家に1人で篭っていろという状況がしんどかった。 |
| 課題が多いと感じた。 |
| 授業がなかった頃よりは、やるべきことがはっきりして気力がでた。しかし、情報の見落としや提出を忘れていないかなど不安もあった。 |
| 最初は色々街に出て散策したかったが、外出自粛で1週間に1回ほどしか外出しなかったため心身ともにストレスが少しかかっていた。 |
| 一日ほとんど声を発しない日もあり、ベッドで寝転がるか課題をする為にパソコンの前に座るかだけの生活が続いた。 |
| 長時間パソコンに向かうことによる眼精疲労、肩凝りが凄かった。会えると思っていた友達に会えず、当たり前の日常の有り難さを実感した。アルバイト先が休業し、先が見通せない不安があった。 |

| |
|---|
| 春休みの感覚が抜けないまま、授業を受け、生活リズムが崩れてしまった。 |
| 非同期型の遠隔授業によって、自分のペースで学習に取り組めた。 |
| 大学に行かなかった分、自炊のレベルが上がった。 |
| 自分の時間が増えたので新たなことを始めやすかった。 |
| アルバイト先で医療関係とダブルワークしていた人がこれなくなったため、シフトをおおく入れられてしまい疲れていた。 |
| 何もかも初めてで、慌てていた。 |
| 一人暮らしを始めたので、生活が一変したと思ったが、結局孤独感に耐えられず実家に戻ってしまった。 |
| 引きこもり生活で人間的にダメになった気がした。 |
| 一日のほとんどを家の中で過ごすようになった。 |
| 原因がある訳ではないのに突然落ち込んだり悲しくなったりした。 |
| 経済的に苦しくて困った。 |
| 一時的にアルバイト先が休業し、ずっと家にいたため、時間がたくさんあり、遠隔授業にも落ち着いて取り組めた。 |
| 家でゆっくりしていた。 |
| 全ての授業において大量の課題が出されるため、睡眠の時間が削られるなど、生活リズムが大幅に乱れた。 |
| 慣れないレポート作成やパソコン中心の生活で、身近に頼れる人や友達もできず心がつらい時があった。 |
| 当初は家から出なくてラッキーだと感じていたが自宅にいる時間が増え一人でいることが続くとふと孤独を感じるようになった。新たな友人に出会うこともできず時間を浪費しているようだった。 |
| 初めて大学生活が遠隔授業で不安な気持ちで過ごしていた。 |
| 同期型が少なかったのでよく言えば余裕を持って、悪く言えばルーズに生活を送るようになった。 |
| 外出は全くせず、家でオンライン授業を受けることの繰り返しだった。1回生なので大学生活というものがどういったものなのか全く分からないままだった。 |
| 日常に大きな変化はなかった。 |
| 大学生になった実感がなかった。 |
| 初めての授業や課題を相談する人がおらず、不安だった。 |
| ほとんど外出をしなくなり、家族以外の人と会わなかった。 |
| 一人暮らしの心細さがあった。 |
| 一人暮らしを始めた。 |
| 保護者からの仕送り額が減少して、節約生活を過ごしています。 |
| 電子機器に向き合う時間が通常より数時間増えた。 |
| 大学に行かなくていいので起床時間が遅くなった。 |

資料4.「その後、遠隔授業が1、2カ月続いた頃、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか。自由にお書きください。」に対する全回答（自由記述）

| |
|---|
| 遠隔授業には慣れたが、課題が多すぎて疲れ始めた。 |
| 課題に追われすこし疲労がたまった。 |
| たるんだ。 |
| 時間を決めて授業に取り組むことができ、生活リズムを整えるコツを掴むことができた。 |

| |
|---|
| 生活リズムが崩れた。 |
| 通学しないため、課題の提出期限を勘違いしたり、忘れたりと、自己管理の維持が難しかった。常に情報を確認しなければならず、疲れた。 |
| 友人とはリモートで飲み会をしたり、交流する工夫をした。 |
| 課題が毎日あり大変だった。 |
| 遠隔授業に慣れたので、生活リズムが元に戻った。 |
| zoom を使用して友達と話すようになった。 |
| ほとんど人と対面で会話せず、ずっと巣篭もりをしていた。社会から孤立している不安があり、睡眠や食事が満足に取れなくなった。 |
| 通学時間で使っていた時間を卒業論文作成に当たることができ有意義に過ごせた。 |
| 課題の提出で忙しくなった。 |
| 松山には用事がない限り行かなくなった。 |
| やらなければならない課題を少しでも溜めてしまうと常にそれが気がかりとなりストレスが溜まることが多かった。 |
| アルバイトを増やした。 |
| 実家に戻れて安心して生活ができるようになった。 |
| 常に課題に追われ、オンとオフが付きにくかった。 |
| 自分の時間の使い方の自由度が高まりました。心にも体力にも余裕ができ、むしろ人との対話が増え、繋がりも深まりました。 |
| 基本的に家にずっといるので、以前からやりたかったことに取り組むことができて充実した毎日が過ごせた。 |
| 期末レポートに追われる週はいつもしんどいのですが、遠隔授業では課題が多くて毎日が期末みたいでしんどかったです。 |
| アルバイトに少しずつ行くようになりましたが、以前より家族と話したりする時間がやはり増えました。 |
| 彼女と半同棲するようになった。 |
| 皆に会えず気持ちが落ち込むだけではなく、課題への取り組みもあまり早くなかった。 |
| 通学、受講時間を自分で決められるようになったことで、学修効率が大幅に向上した。 |
| 就職活動がほぼ終わり、授業のリズムも掴めた頃だったので最初よりはゆとりを持って生活ができていたと思う。 |
| 人と話すことが少なくなった。 |
| 体調を崩した。 |
| 寝つきが悪くなったように感じる。外に出ていなかったためバテというか体力不足をよく感じるようになった。 |
| だんだん要領をつかめてきたが、レジメだけの授業や音声だけの授業は理解がうまくできず、また、家に居すぎてストレスが溜まった。 |
| 画面を見る機会が増えたことで目が疲れやすくなったり、腰が痛くなるようになった。課題の量が多いことによってによって生活リズムの乱れを直すことができなくなっていた。 |
| 相変わらずだらだらと過ごしてしまった。 |
| 視力の低下や眼精疲労の発生、対面できないことに対するストレスの発生及び増加、やる気の低下、食に対する意識の低下（家から出ないぶん食欲不振になると同時に、動くのが億劫になり簡単なもので済ましてしまう）。 |
| 友達とあまり外出できないことに少しストレスを感じた。 |

| |
|---|
| どんどん免疫力が落ちていった。一人っきりの部屋で誰にも会わず過ごす日々で心身共におかしくなった。 |
| 寝る時間がはやくなり、生活リズムはよくなった。少しずつ外出も以前はするようになった。 |
| 慣れてきたが、対面よりも退屈さを感じた。 |
| 運動不足で生活リズムが崩れ、体重が増えた。 |
| アニメを観る時間が増えた。 |
| 食欲がなくなり、体重が減った。自傷行為をするようになった。死にたくなった。 |
| 思っていた大学生活との違いに落ち込んだり、情報を共有できる友人が居なくて困った。ずっと課題に迫られているような感覚があった。 |
| 安定した。 |
| 人に会わない生活のため、かなり精神的に辛かったが6月から少し感染予防対策がしっかりしている道後に泊まるなど、月に一度外出するようになりようやく少し精神が落ち着いた。 |
| 生活リズムが整い始めた。 |
| 遠隔授業にも慣れた。 |
| 体力がなくなり、今まで以上に机に向かう時間がとりにくくなった。 |
| 情緒が不安定になっていて、体調不良もあった。死にたいなどの衝動に駆られることも頻繁にあった。 |
| 日が経つにつれどんどん気持ちが落ちていった。その理由としては主に都内の〇〇業界を対象に就活をしていたため、全くと言っていいほど就活は進まなくなり、会って相談できる相手もおらず、死にたくなった。（※〇〇は、実際の業種が書かれていた為、伏字とする） |
| 課題が多いと感じた。 |
| 遠隔授業で学校に行く時間がなくなったことで、家族との時間が増えた。 |
| 生活リズムが掴めてきた。同じ大学内で友人が出来ないことに焦りを感じ始めた。 |
| 体力と集中力が落ちた。 |
| 遠隔授業の受講スタイルは確立していたが、本当にこれで大丈夫なのか不安な気持ちになったり、同級生と関わるきっかけが全くなかったのが辛かった。 |
| ストレスが溜まり現実逃避行為が激しくなった。 |
| 遠隔授業にも徐々に慣れてきたが、やはり対面授業とは違い理解しづらい部分が多くあり、しんどかった。いつでも受けることができる為、決まった時間に授業を溜めてしまうこともあった。 |
| 家から出ることもなかったため、運動不足になった。 |
| 夜型になった。 |
| パソコンの扱いに慣れた。 |
| サークルなどでできた友だちと好きな時間に遊べたのはよかった。 |
| だんだんとけだるくなり、やる気が失せていった。 |
| ずっと家にいることになるので、ボケ始めている祖母との時間が長くなり非常にストレスが溜まっていた。 |
| 少しずつ慣れてきたが不安も大きかった。 |
| 本来の予定とは異なり、愛媛ではなく実家で過ごしていた。 |
| 昼夜逆転が起こった。 |
| 昼夜逆転しそうになった。 |
| 4の回答と同じ状況に何度も陥った。（※4の回答とは、「原因がある訳ではないのに突然落ち込んだり悲しくなったりした。」である） |
| 教科書や課題に不安感が多かった。 |

| |
|---|
| アルバイトが再開し、少し課題が多いと感じるようになった。 |
| 生活リズムが崩れた。 |
| 生活リズムの乱れが直らなかった。 |
| 対面授業の時よりも課題が増え、やる気が出ない状態で常に課題に追われていた。 |
| 課題をこなすことには慣れてきたが、SNS などを通じて友達ができた人と友達がいない自分とのギャップが辛かった。 |
| 時折、無力感にさいなまれ課題や授業に対してやる気が出ないときがあった。 |
| 遠隔授業には慣れてきたが、課題が多くてしんどかった。 |
| やや生活リズムが崩れたが、途中で修正した。 |
| だいぶオンライン授業に慣れたが生活の変化は特に何もなかった。 |
| 遠隔授業の形式に慣れた。 |
| 友達ができなかった。 |
| オンラインでの交流が苦手だったため人との関わりがあまり無かった。 |
| 1人の時間が増えたため、自分のやりたかったことに挑戦することができた。 |
| 新たな友人を作れないという不安があった。 |
| 楽しくなくなった。 |
| ほぼ変化がないです。 |
| 睡眠が浅くなった。 |
| 時間が余るので運動を始めた。 |

資料5.「夏休み、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか。自由にお書きください。」に対する全回答（自由記述）

| |
|---|
| どこにも行かなかった。インターンもほとんどオンラインだった。 |
| 時間はあるがなかなか遠出できなかった。 |
| 体調が悪く、精神が不安定になった。人に会うことが少なく、会話も少なく、心細くなった。過食と拒食を繰り返した。 |
| 夏休みが短くて不安になった。 |
| 遠くへ遊びに行けなかった。 |
| 友人と遊ぶ約束をしていたが、会わない方がいいと思い一度も遊ばなかった。 |
| 一人暮らしを再開しバイトと部活も始めた。 |
| 人と会う機会が少しずつ回復して、体や心の健康もやや回復した。 |
| 就職活動が通常より遅れて始まり、忙しかった。また、遊ぶことが自由にできず、満足のいく休みではなかった。 |
| 松山にほとんど行かなくなった。 |
| 行きたかった旅行に行けなかった。花火大会や夜市が中止などイベントがなくなり寂しかった。 |
| いつも友達と長期期間は旅行に行っていたがそれができなくなった。 |
| バイト以外ほとんど外に出ることはなかった。 |
| 例年実家に帰る期間に実家に帰らなかった。 |

| |
|---|
| 遠隔の集中講義を3つ取っていて、夏休み中、特に9月はずっと課題に追われていてしんどかった。 |
| ほとんど人と会わなかった、集中講義ばかり受けていた。 |
| ゼミ生でのZOOM飲み会というものに参加し、ゼミ生との仲が良くなりました。 |
| 友達と出かけることがほとんど無かったためお金が貯まった。 |
| インターンシップで気晴らしが出来た。 |
| 資格の勉強を始めました。 |
| 友人などと会えず、気持ちが塞ぎこんでナーバスになった。将来への不安なども押し寄せてきて、精神的にしんどい時期があった。 |
| 夏休みはバイトや自動車免許の取得で非常に忙しくしていたため、気持ちが少しだけアクティブになった。 |
| 自宅から出る必要がなくとても心地よく過ごすことができた。 |
| 授業がない分、物事への目的意識が減りとてもつまらない日常を送っていた。友人と会う機会もほぼ無いに等しかったので本当に苦しかった。 |
| 新しくバイトを始めた。 |
| 人と会わなかった。 |
| 外に出るき会を増やそうと思ったため教習所に通うようにした。 |
| 実家に帰ってリフレッシュできた。 |
| 課題からは解放されたが、生活リズムを遠隔授業前のように戻すことはできなかった。 |
| 外に出れない分、バイトに打ち込みました。 |
| 部活動の合宿や友人との遠出の旅行ができなかったので、家でだらだらと過ごすことが多かった。 |
| 帰省がしづらかった。 |
| 就職活動における試験の対策を行う環境が不足し、対策も減少したため「一人でやっている」という意識になり不安が生じる日が続いた。 |
| 旅行に行けず、これまでの夏休みよりもつまらなかった。 |
| 実家に帰って元気を取り戻した。 |
| 授業がなくなり時間ができたので、教習所に通いだした。 |
| 課外活動や外出が減り、お金に余裕ができた。 |
| 地元に戻ったので崩れていた生活リズムが整った。 |
| 対策をした上で長期帰省が出来たので、精神的疲労もなく過ごせた。 |
| 特に変化はなかった。 |
| ずっと鬱。 |
| 友達を作れなかったため長期間実家に帰省した。 |
| GOTOトラベルと県民限定宿泊で、県外を一歩も出ることなく道後に3度宿泊した。8割愛媛県民の宿泊者のため安心し、宿泊できたことや感染予防対策が取られていたので、市内の居酒屋で外食するより安心して宿泊できた。宿泊の際も随時2人と最小人数を心かけたことで、リラックスすることができた。夏休み中もコロナウイルス感染が怖いので、予防対策が万全な道後のホテル以外外出していない。また、ホテルでも消毒シートで入室時、すべての箇所を拭くなど感染対策も配慮した。長期の休みで県外や海外に旅行に行かないのは初めてなため、かなり精神的にはモチベーションが上がらないが、道後宿泊で少し精神安定を図っている。この期間に資格の取得に努め、FP技能士3級に合格したのでこの状況でなかったら資格の勉強も進まなかったと思われることから良かったと思っている。 |
| 実家への帰省をすることをためらった。 |
| アルバイトが始まった。 |

| |
|---|
| バイトとオンラインインターンしかしていない生活だった。 |
| 外に出ることがほとんどなかった。 |
| ひとまず学校のことからは離れられるものの、生活面においてアルバイトなどができず、困窮していた。（仕送りをもらえないため） |
| 環境的にも精神的にもやっとアルバイトができる状態になり、少し生活がマシになった。 |
| 自分のしたいことができて充実していた。 |
| 夏休みは集中講義を受けていたが課題の間隔が狭いうえにウェイトが重く、過酷だった。 |
| 長期的に実家に帰れたことで精神的に安定した。愛媛に戻って来てからはバイトしかやることがなく、暇で少し気分が落ち込んだ。 |
| 大学の友人がほとんどできないままだった。 |
| アルバイトもサークルの活動も無かったので実家に1カ月以上帰省していた。 |
| 親が家を買って引っ越すことになり、バイトをやめた。 |
| ほぼ実家にいたが、あまり友達と遊べなかった。毎年恒例だった旅行にも行けず、気が付いたら夏休みが終わっていた。 |
| 就職活動がオンライン化し、本来なら対面であったインターンが開催できなくなったり、zoom になったりした。思ったように行動できず歯痒い思いをした。 |
| バイトを始めて、生活リズムが戻ってきた。 |
| 夏休みは外出を控えただけで、普段の夏休みと変わらなかった。 |
| 県外に遊びに行くのには少し抵抗があったが、泊まる日数を減らして遊びに行った。 |
| ジムに通い始めたことでメンタル的にもフィジカル的にも充実してきた。 |
| 毎年行っていた旅行に行かなかったくらいで、特に困ったことは無かった。 |
| 実家に帰れて落ち着いた。 |
| 結局愛媛ではなく、実家でほとんどの時間を過ごしていた。 |
| 部活ができるようになって少し社会復帰できた。 |
| 予定よりも長期間実家に帰れた。 |
| 実家に帰っていたため、特に不自由はなかった。 |
| 昨年は毎日のように行っていたサークル活動が無くなり、代わりにアルバイトの時間が増えた。 |
| 生活リズムが崩れた。 |
| 生活リズムを以前のように戻すことはできなかった。 |
| サークルが少しずつ始まったおかげで気軽に話せる友達や先輩ができ、心に余裕が持てた。また、アルバイトを始めたこともあって大学生らしい生活ができているような気がした。 |
| 新たにアルバイトを始めて少し外に出るようになった。基本的には自宅にいた。 |
| 家族と過ごすことができてうれしかった。 |
| 外出をほとんどしないまま夏休みが終わった。 |
| 通常通り自宅で過ごした。 |
| 遊びに出かけることはなかった。 |
| バイトを始めたが、失敗することも多く、死にたいと思うことが増えた。 |
| コロナウイルスの影響で外に出にくく家にいる時間が例年より多かった。 |
| 帰国できないので、寂しかったです。 |
| 健康になった。 |

# コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅱ

## ― 2020年度学生座談会報告書 ―

青木　理奈・鈴木　　静・福井　秀樹
小佐井良太・石坂　晋哉

### 1．はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大は、大学生にどのような影響をもたらしているのだろうか。新型コロナウイルス感染蔓延は、多くの人にとって予期しえなかった深刻かつ長期にわたる未曽有の災厄である。愛媛大学も、急速に進む感染拡大に対し、学生の入構禁止、遠隔授業への全面切り替え等が急きょ行われ、教育提供体制が激変した。

今回の新型コロナウイルスのような全世界規模で起きている災厄は、記録や教訓を収集、保存し、継承していくことが次なる災厄への備えになるだろう。なにより、今のコロナ禍において刻一刻と事態が変わっていく中、時系列で保存できるよう、記録はコロナ禍の初期から収集することが重要であると考えている。

よって、未曽有の事態に際し、法文学部学生の生活上の被害実態を明らかにするとともに、法文学部の緊急時対応および遠隔授業等実施に係る記録を収集し、データベース化することを最終目的とする。これまで、愛媛大学法文学部の学生を対象としたアンケートを実施[1)]し集計している。アンケート中の自由記述には、約半数の学生が記入していたことにより、生の声を集める必要性を感じ、手記を募集し、座談会を開催した。手記の分析は別稿に譲り、本調査では、座談会をまとめる。コロナ禍での大学生活で問題となった点、改善できる点、良かった点などを教員と一緒に話し合い、積極的に発言してもらうもので、コロナ禍における大学生の実態を明らかにし、学修状況や生活状況を把握することを目的とする。

---

1）青木理奈・鈴木静・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉「コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅰ―学生を対象としたアンケート調査の単純集計結果―」愛媛大学法文学部論集第50号（社会科学編），pp37-68.2021.2月

## ２．対象と方法

本調査の対象は、法文学部の学部生であり、調査日時、出席者は以下の通りである。

### ⑴　座談会および参加者の概要[2)]

１）【１回生】オンライン座談会

日時：2021年２月19日㈮　10：00－12：30

オンラインミーティングツール：Zoom

出席学生：８名（男性３名、女性５名）

| | 性別 | 学年 | 昼夜間主の別 |
|---|---|---|---|
| A | 女性 | １回生 | 夜間主 |
| B | 男性 | １回生 | 夜間主 |
| C | 女性 | １回生 | 昼間主 |
| D | 女性 | １回生 | 昼間主 |
| E | 男性 | １回生 | 昼間主 |
| F | 男性 | １回生 | 昼間主 |
| G | 女性 | １回生 | 夜間主 |
| H | 女性 | １回生 | 夜間主 |

なお、座談会が開催された２月段階では、１回生は所属コース振り分けは行われていない。

２）【２回生以上】オンライン座談会

日時：2021年２月22日（月）13：00－15：30

オンラインシステムツール：Zoom

出席学生：８名（男性４名、女性４名）全員昼間主

2）愛媛大学法文学部は、昼間主・夜間主コースがある。更に、２回生からは、３つの所属コース（法学・政策学履修コース［法政］、人文学履修コース［人文］、グローバル・スタディーズ履修コース［GS］）に分かれる。

| | 性別 | 学年 | 昼夜間主の別 | 所属コース |
|---|---|---|---|---|
| I | 女性 | ２回生 | 昼間主 | 人文 |
| J | 男性 | ２回生 | 昼間主 | GS |
| K | 女性 | ３回生 | 昼間主 | 法政 |
| L | 女性 | ４回生 | 昼間主 | 人文 |
| M | 女性 | ３回生 | 昼間主 | GS（留学生） |
| N | 男性 | ２回生 | 昼間主 | 法政 |
| O | 男性 | ３回生 | 昼間主 | GS |
| P | 男性 | ４回生 | 昼間主 | 法政 |

### ⑵　座談会の共通テーマ

今回の座談会では、「コロナ禍における大学生活について」を共通テーマにし、以下の３点につき学生に発言を求めた。①2020年度の１年間を通じた大学生活の内容（特に授業について）と学生自身の気持ちや不安、②授業以外の大学生活や日常生活（アルバイトやサークルを含む）での出来事・状況の振り返りと学生自身の気持ちの変化、③テレビや報道等で頻繁に報じられていた都市部学生の状況（退学を考える学生の存在や経済的貧困等）と愛媛大学のような地方学生の状況との違いの有無や学生の意識の差、などである。

### ⑶　倫理的配慮について

本調査では、対象者に以下の倫理的配慮を行った。①座談会の冒頭、調査の趣旨について改めて口頭で十分な説明を行った。②座談会での発言内容について匿名化の処理を施した上で論文等で公表することを説明し、内容の録音を行うことに同意を得た。③本稿での発言内容の掲載・公表に際して対象者に内容の事前確認を行う機会を設け、対象者が削除を求めた内容については削除を行った。

## ３．オンライン座談会の内容

１回生と２回生以上に分け、それぞれ座談会を開催した。以下の発言は文脈が変わらない程度に整えている。なお、冒頭の趣旨説明、教員や学生の自己紹介、重複する発言や感想、最後の教員からの挨拶等は省略している。司会は、法文学部教員が行っ

ている。

### ３－１．オンライン座談会【１回生】

**―１年を通じて大学生活はどのように感じられたか。**

**学生 A（女性・夜間主）**／大学生になった実感もさほどなく、１年は本当にあっという間で、気づいたら終わっていた感じだった（なお、全参加学生が同意見）。学校に行くという行為で、自分が学生であると感じること、学校に行って友人や先生方と向かい合って勉強して学べることは本当に多いのだと思った。勉強において、正直さほど記憶に残っていない程度の作業のような１年だった（なお、学生 C、D、H 同意見）。

**学生 B（男性・夜間主）**／サークルなどの活動ができるようになったのは８月、９月の夏あたりだった。入学式もなかったため、入学したという実感もなかった。ずっと家に引きこもっていたため、友達ができる機会もなかった。相談できる人も少ないため精神的に不安定な１年間だった。

**学生 C（女性・昼間主）**／１年間を振り返ってみると、友達がさほどできなかったことに加え、先生に相談するにも会ったことがないため、どうしたらいいのか分からなかった。

**学生 D（女性・昼間主）**／大学生になったが大学の授業が中心というよりは、アルバイトが中心の生活だった。大学の授業や課題なども１人ですることになるため、事務的にこなしていた。自分で計画を立てて行うことの大切さや、できることにはとりあえず挑戦することが重要だと感じる１年だった。

**学生 E（男性・昼間主）**／オンラインで拘束される時間が、おそらく対面のときより短かったため、学習していくうちに気になったことを、より深く調べる時間に充てられたことが良い面だった。大学の学生生活を知らなかったからこそ、そのような学習態度を取ることができて良かった。

**学生 F（男性・昼間主）**／家にこもって出された課題をただこなすだけの１年で、本当に楽しくない１年だった（学生 H 同意見）。毎日パソコンに向かって文字を打ち、時間が来たらアルバイトに行き、夜帰宅し食事をとり、就寝する。本当にそれの繰り返しだった。後学期は語学関係のクラスなどで、学校に対面授業で何回か行ったが、

それだけでは十分な友達を作ることもできず、相談できる相手もいないまま、試験期間を迎えた。

**学生 G（女性・夜間主）**／１年を通して遠隔授業をすることが多かったが、最初は本当に Zoom の使い方も全く分からず、手探り状態で大変だった。第３クォーターに少しだけ対面授業もあったが、同級生との関わりは、コロナ感染対策で少なく、友人も高校のとき思い描いたようには、作ることができなかった。加えて長期休みもずっと家にいる状態で、怠惰に過ごして終わったところがあり、今考えてみると、より一層考えて過ごせばよかったと感じる。

**学生 H（女性・夜間主）**／１回生で今までの大学の授業のあり方と比べることができないため、今後コロナが落ち着いて対面授業となったときに適応できるのかが、今不安だ。

**―これまでの発言で、遠隔授業のため長時間パソコンに向かっていたという話があったが、平均すると１日どのぐらいパソコンに向かっていたか。**

**学生 A**／パソコン等が苦手。まぶしく感じる。パソコンしんどい、授業しんどい、という気持ちが強かった。パソコンなど電子機器が苦手で画面をみるのがしんどくなってしまうので、どんなに課題が溜まっていても、私は絶対に６時間以上は見ないと決めてパソコンを見ていた。

**学生 B**／課題とかがわからなかった場合、調べる時間がとても多くなるので、多いとき１日10時間超えるときもありましたし、少ないときは１時間２時間で済むっていうときもあった。

**学生 C**／平均すると５～６時間かな。（なお、他の参加者も同発言多し）

**―遠隔授業は、長時間パソコンを利用して行うため、疲労がたまったと思う。皆さんが、遠隔授業で工夫したことはあったか。**

**学生 A**／（遠隔授業での工夫についての質問に関連して）便利グッズを使うということは考えが及んでいなかった。

**学生 C**／ずっとパソコンを見てると、身体が疲れてくるので、30分おきくらいに部屋歩き回ったりとか、伸びたりとかはしてたかな。

**学生 E** ／リマインダー機能を使い、１日のパソコン使用時間を決めていた。こなせなかった部分は土日に行った。

**学生 F** ／パソコン見てる時間が長いせいで、もともと視力が良かったんですけど、ちょっとなんか目が悪くなったように感じています。ブルーライトカットのメガネを新しく購入して、課題とかをするときは、それをつけてやるようにした。

**学生 G** ／遠くを見て目の疲れを取るようにした。

**学生 H** ／ブックスタンド！両手はふさがらず PC で勉強できて結構便利だった。あと、ローテーブル、ベッドの上でもそのローテーブルを使ったらパソコンができるので、わざわざ机とかに移動しなくても、どこでもパソコンで勉強ができるのでこれもすごく便利だった。

**―友人が作りにくい状況とのことだったが、大学に入って友人を増やせた人は、どうやってそれを実現できたか。**

**学生 A** ／高校からの友達に、某「LINE グループ」に招待された。そこで知り合った人や、あとは対面授業のときに、座席の前後だった人などと友人になった。

**学生 B** ／８月くらいから始まったサークル活動で友人を作った。学部を問わず、友達を作れたのが一番多かった。

**学生 C** ／英語の対面授業の際が一番友人を作ることができた。ペアワークが役立った。

**学生 E** ／第２外国語の時、席の近い人と話をし、２回ぐらい一緒に遊べた。英語の授業は後期、オンラインになったため、英語の授業を通じて友達を作ることはできなかった。Zoom での授業は、授業が終わると人と人との関係も切れてしまう感じ。

**学生 F** ／友達は１人くらいしかいない。あとは知り合い。県外から来て一人暮らしでサークルにも入れていない。人見知り、引っ込み思案なので、SNS ではなかなか友達ができない。

**学生 G** ／高校の同窓生が何人かいるので、対面授業の時に話をすることができた。

英語の授業ではグループワークがあり、一人二人話せる人が出来た。LINE でも話ができている。

**学生 H** ／私は自分から友達を作りに行くタイプの人間で、友達作りは Twitter とか Instagram を利用して交友関係を広げた。

**―この１年を振り返って、大学生活や日常生活で、最も印象に残っていることは何か。**

**学生 A** ／自分は一人で平気な人間だと思っていたが、実際には一人の時間がしんどかった。対面授業がなくなって人と会う機会がぐんと減ったため、アルバイトをしていなかった時期は、驚くほど辛かった。会うのは家族だけの状況だった。人と会えないという辛さを知った。バイト先で名前を呼んでもらえるのがうれしかった。生活上の不安として、学業での不安が大きい。私は正直、勉強が非常に大好きで、これが学びたい！と思うことがあるわけではなく、したいことを試行錯誤している段階だったため、一人で学習するというのは大変辛かった。対面授業のように隣を見たら教室で頑張っている友達がいる、お互い授業が終わった後に、「ここ判らんかったからちょっとノート見せて」と話しかける、「ちょっとこの後食べに行こう」ということもないため、本当に一人だということを実感した。切磋琢磨できる友人、勉強を頑張っている友人がいるというのは、大学生活の中において、一番大切だというのを非常に実感した。先生に聞くという行為も、会った事もない先生ということで、聞くことができなかった。そんな中でも思い出を作る、楽しみを見出すのは、結局自分自身だというのを、私は今回実感した。

**学生 B** ／入学時点では、同じ高校の人が大学におらず、知らない人しかいない状態だった。対面授業がなく、友達を作る機会がなかったのは辛かった。大学のことを相談できる人がほとんどいなかったことが辛かった。なによりサークル活動が出来なかったことが一番辛かった。サークルに入りたくて、スポーツをしたくて大学入った面があるにも関わらず、それもできなかった。ずっと、ふさぎ込んでいて、鬱病の症状になり、食欲も湧かず、不健康な生活をしていた。

**学生 C** ／オンライン授業が多かった。一言にオンライン授業と言っても、前期は先生が作成した資料、教科書を読んだ上で知ったことなど、感想を述べる授業が多かったが、読書感想文のようになり、フィードバックもほとんどない授業だったため、自分の提出したものがどういうふうに評価されているのか、他の人がどんなことを書い

ているのかということが分からず少し辛かった。後期になってから資料と先生が話している動画の授業が増えた。もし今後オンラインが続くとしても、後期のような授業形態がいい。

そして、専門性が高い授業は、対面にしてほしい。収容人数に問題があるなら、そのクラスをいくつかに区切り、少しでも対面授業を増やしてほしい。12月あたりに人文社会科学入門の対面授業があったが、非常に楽しく、動画で見るよりも理解できたため、その授業を対面にしてくれたことはありがたかった。

**学生 D** ／私はかなり機械に疎いため、遠隔授業が少し大変だった。オンラインでのテスト時間が近づいてきた瞬間に Wi-Fi の調子が悪くなり、パソコンが使えなくなってしまった。予期せぬ事態が起こりやすいのがオンラインの欠点だと思った。今、大学側で自習スペースを開放しているが、そのような場所を設けているのはありがたい。

生活のリズムとしては、午前中などに課題、授業を受け、夕方あたりからアルバイトに行き、帰宅し就寝のような感じだった。私の場合は、すぐに採用され４月からアルバイトをしている。５月、６月はオンライン授業だけで、まだ友達も全くできてなかったため、学校から帰宅している中学生、高校生を見て羨ましいと思っていた。

**学生 E** ／日常生活は、愛媛で初めての一人暮らし。結局、オンラインなら、実家に帰ろうということになった。前学期はほとんど実家で過ごしていた。後学期になってやっと一人暮らしが本格化した。経済的余裕が全くなく、せっせと働いていた。アルバイトが生活のほとんどを占めていたため、学校について言えることがない。

**学生 F** ／日常生活は、課題をずっと家で行うため、昼夜逆転になってしまった。深夜に課題を行い、朝の５時くらいに就寝。アルバイト行く直前の夕方４時あたりに起床し、アルバイトに行く。また夜中に課題を行う生活になってしまった。自分に危機感が芽生え、何回か直そうとしたが、結局根本的な改善をすることができずに、ほとんど日を浴びない生活をするようになってしまい不健康になった。

**学生 G** ／大学になったらアルバイトしたかった。しかし、これまで環境の変化で体調が悪化することが多いため、入学後は慣れるまでアルバイトはしないと決めていた。しかし、遠隔授業に慣れて来たころに対面授業が始まり、対面授業も慣れてきたと思ったら、また遠隔授業になったりと落ち着かず、アルバイト探しが難しかった。

**学生 H** ／学校生活のことでは、人文社会科学入門の時が対面で、その際に遠隔授業をとっている先生と、実際会えたことが非常に嬉しかった。実際に話をしに行くと先生も非常に嬉しそうにしておられて、実際に会話ができたのが非常に嬉しかった。大学の先生の対面授業をきちんと受けたことがなかったため、冷たい、厳しい印象を持っていたが、そのコース選択の説明のときは、どの先生も思った以上に優しくて、何か勉強のこととかでなくとも、学校生活など他に困ったことがあったら、言ってくれていい、というようなことをおっしゃっていたのが、私としては非常に嬉しかった。

オンライン授業で少し良かったことは、課題を提出するのが私は想像より楽だった。Word などでレポートを書いて、そのまま（オンライン上の）決まった場所にすぐ提出できるので、提出を忘れることがほとんどなかった。

**―アルバイトが出来ず、経済的に困ったことなどあったか。**

**学生 A** ／私は夜間主で、昼間主と比べて学費が安い。それが目的で入った部分があるが、学費を自分で払わないといけないため、アルバイトをしなければならない。高校卒業式の日にもアルバイトの面接に行った。コロナ禍で、バイトの採用が保留になってしまった。10月の学費には間に合わないと思い、雇ってくれるところを探した。夏休みは、毎日、朝から晩までバイトに行ってやっと学費が払えた。2021年１月は時短要請で、飲食店のアルバイトで、夜のシフトがなくなり昼のシフトのみになった。もっともこの飲食店は休業したわけではないので、休業手当は出なかった。結果、給料が３～４万ほど減ってしまった。

**学生 H** ／飲食店でアルバイトをしているが、８月からバイトを始めた。12月の終わりから帰省して、１月12日あたりに愛媛にまた戻ってきたときには、休業要請が出たため１回もアルバイトに入れなかった。給料に関しては働いてないためバイトに入っていたときよりは減ってはいるが、休業手当を出してもらえているので、そこまで困っていない。

**―テレビで頻繁に報道されている都市部と、愛大（愛媛大学）のような地方学生の状況や意識の差などで感じることなど（休学・退学を考える等の経済的な事情など）はあるか。**

**学生 A** ／自分のことで精一杯で、都市部の学生と自分たちを比べて考えたことがない。退学や休学については、私自身考えたことはないし、周りの友達でも全く聞いたことがない（なお、学生 C、D、E、G、H は同意見）。しかし、１人暮らしをしてい

る友人は、両親からの仕送りを減らされたため、少し辛い状況というのは聞いたことがある。また、都会にいる友人も困っているという感じではない。

都市部に比べると、マスクの着用はどうなのか（徹底されていない意味）と思うときがたまにある（なお、学生Ｆも同意見）。アルバイト先は飲食店だが、マスクをせずに来る方が普通にいる。感染された方への当たりの強さ、マスクの着用率、外出の自粛率などには、やはり都市部に比べると、地方の意識は多少低くなってしまっている部分があるのではないか。

**学生 B** ／家にテレビがないためテレビは見ないが、ネットのニュースで見る限りだと、都市部の大学生たちもほとんど遠隔授業だと思う。さほど違いを感じたことはない。自身の退学、休学については、授業が始まって１週間あたりで、そういった考えが出るようになった。しかし今退学せずに在籍しているため、このままなんとかしていけたらいいと思っている。

**学生 C** ／いとこが関東の大学に進学したが、１年で大学に行ったのが４回と言っていたため、それに比べると、私は大学に行けているという感じがする。加えて、中国地方に進学した友達から聞くと、愛大が遠隔授業になった１月にその大学は対面授業だったらしい。しかし、感染者数でいうと、その地方のほうが多かったので、愛大が遠隔にした基準はよく分からないと感じた。

**学生 D** ／高校のときの友達と話していると、愛大は１月から全てオンラインという形になったが、友人がいる他大学は、対面授業と半々だった。中四国地方の環境が近いところだけでなく、関西や関東の都市部の大学に通っている友人からも、対面の授業も何回かあると言っていた。そう考えたら愛大は少し比較的オンラインの比率が高いと感じた（なお、学生 G、H 同意見）。経済的な事情ではないが、いとこが退学した。中国地方の国立大学の２年生で、留学がしたくて大学に行ったが、去年もできず今年もできずとなり、もう来年から就活となり忙しくなるため、今年、その大学を退学してまた違う大学に入るらしい。そこでは留学は難しくても、もう少し語学について勉強できるという話を聞いた。

**学生 E** ／さきほどの D さんの話を聞いて、留学目当てでグローバル系の大学に行った子たちは、これからどうするのだろう、と気になった。意識の差としては、都市部と地方の違いというより、ある意味、十人十色だと思った。やる気の部分になるが、どこまで本人のモチベーションがあるのかというのに関係しているのではないかな。

**学生 F** ／退学は考えたことがないが、前期の初めの方に１年休学することは考えた。思っていた大学生活が送れないまま１年を無駄にするなら、この１年休学して、アルバイトなどでお金を稼いで、学費に余裕を持たせた状態で復学し、４年間通おうと考えた時期が真剣にあった。でも、周りの人たちは休学せずに頑張って大学生活するだろうと考えたときに、自分は１年下の人たちと新しく１年生を過ごすという勇気が持てず、結局休学はせずに１年過ごすことになった。退学は考えたことがない。僕はテレビを持ってないため、さほど頻繁に情報が入ってくるわけではないが、やはり都市部に比べたら、感染のリスクは低いと思うため、もう少し対面の授業を増やしてもらえたら嬉しい。

**学生 H** ／愛大は割とオンライン授業が他の大学に比べても多い方という感じはする。私自身は対面授業もしたいが、オンラインはオンラインで良いところもあると感じているため、感染リスクを減らすことを考えると、オンラインでも良い。

**―大学や学部の感染症対策に不安はあったか。**

**学生 H** ／愛大の感染対策に関して、不安になったことは特にない。英語の対面授業のときに椅子、机をちゃんと除菌している、アルコール消毒がいろんなところに設置してあるのはすごくいいと感じた。

**ー学生支援委員会が企画した相談会の参加率が低かった。どんな形だと参加しやすいのか。**

**学生 H** ／相談会について、Zoom で顔を出すか出さないかは非常に重要だ。顔を出さないと出すのでは相談のしやすさが違うため、今日も顔出しと言われ、非常に嫌というわけではないが、音声だけの方が話しやすい（なお、全員同意見）。音声だけの方がいろんな人が相談しやすいと思う。また、SNS で匿名の相談を募集できたら、集まりやすいと思う。

**―新入生セミナーはじめ、教員からのサポートで求めることや感想、意見等はあるか。**

**学生 F** ／新入生セミナーだけでなくて、全てのオンラインの授業についてのサポートになるが、Moodle（愛媛大学が利用している学習マネジメント・システム）上に提出した課題に対して、先生から何らかの反応が欲しかった。例えばレポート提出は、コメントを付けて返却してほしかった。贅沢な悩みかもしれないが、レポートの書き方がまだよくわかってない状態のときに「ここをこうして書いたらいいよ」な

ど。そこまでいかなくても、「提出、ちゃんと受け取りましたよ」というメッセージが一言でもあると、きちんと提出できたと思うことができたため、考えていただきたい。

**３－２．オンライン座談会【２回生以上】**
**―１年を通じて大学生活はどうだったか。**

**学生Ｉ（女性・２回生・昼間主）**／学生の本分は勉強だが、２回生が一番羽を伸ばせると思っていたため、想像と異なる２回生の１年間を過ごしてしまった。時間ができたため、語学の検定を受けようと思い勉強したが、その試験自体がなくなり、モチベーションが上がらなかった。単位を取らないといけない授業もかなりあったが、１回生のときは出席し、少し書くと取れていた単位が、１週間ごとにレポートを書かなければいけなくなりしんどかった。対面で出席する90分間の拘束時間を考えると、その90分で書けるが、今年１年は時間的拘束というよりも、心理的拘束が強かった。しないといけないという意識を持たないといけない心理的拘束があり、その反面、時間を持て余しているという非常に辛い１年だった。

**学生Ｊ（男性・２回生・昼間主）**／１年生の頃とは全く違い、学校に行くこと自体が完全になくなったため、最初は全く慣れることができなかった。授業の形式も遠隔になり、授業の質が下がってしまうのは避けられないことなのかなと理解し、それなら自分の努力次第で授業の習熟度をあげたいと思って、今年は勉強に対して、より熱心に力を入れるようにした。その結果、内容はより濃い１年になった。

**学生Ｋ（女性・３回生・昼間主）**／遠隔授業になって勉強、レポートが大変だったのはあるが、友達と会えなくなり、かなりストレスが大きかった。少人数の飲み会でも集まることが難しくなり、家で一人きりで過ごす日々が辛かった。また、通学していたら、「連絡して遊ぶ友達」とまではいかなくても、休み時間に話す、授業であったらそのままお昼ご飯を食べる程度の友達がかなり多く、そこの関係がなくなってしまった。その人たちと話していた勉強の話、テストの話などの情報が全部なくなってしまった。途中からゼミだけは対面授業になったことが、本当に嬉しかった。非常に少ない５～６人程度でしか集まれないが、それでも行き帰りに少し話せて非常に息抜きになり、対面授業が１つあるというのでも非常に嬉しかった。

**学生Ｌ（女性・４回生・昼間主）**／卒業論文以外の授業がなく、その授業もオンラインだったため、学生という感覚があまりなかった。卒論はテーマも決まっており、実

験のための先行研究もしていたので、そういう面では余裕はあったが、先生に直接相談することもできず、周りの友達やゼミ生に卒論の進捗状況を話せないという面ですごく困った。アルバイトは、就職活動に集中したかったため、就活が終わるまでしておらず、より人との関わりが減っていて孤独だった。後期に就活が終わって、バイトも再開して卒論も終盤になりかけたところで対面になったが、対面の期間が短く、卒業論文を書くのも想像より苦労した。

**学生 M（女性・３回生・昼間主・留学生）**／昨年の春休みに帰国し、入国規制の影響で日本に戻ることができなかった。しかし、愛媛大学は前学期から遠隔授業だったため、留学生としても海外から授業が受けられたことは良かった。しかし必修科目について海外だと手に入らない教材があって、残念だった。その授業は課題を変えてもらった。

**学生 N（男性・２回生・昼間主）**／今年はオンラインでの授業が主流で、個人的にはもともとインドア派のため、オンライン授業の方が楽だと思った点もあった。２回生で、ゼミが始まったが、ゼミについてはオンラインになり学び得るものが失われると思った。具体的にはプレゼンのやり方、発表の仕方などは、実際に一緒に同じ空間にいて他の人が発表するのを見ている方が学べるところが多かったように思う。また、この１年での個人的な失敗点としては、生活サイクルが崩れてしまったことだ。

**学生 O（男性・３回生・昼間主）**／振り返ってみると、面白くなかった１年だった。その中で良かった点と、悪かった点があり、良かった点は学問分野に関して、１つの授業にあてられる時間が増えたため、課題で示された資料に目を通す時間がより長くなりいつも以上に深いところまで読み込めた。悪かった点は、特に前期で、授業の連絡方法が授業ごとでバラバラだったことが、本当にやりにくかった。

**学生 P（男性・４回生・昼間主）**／今年１年、自分の弱さを見た１年だった。３年次編入だったため、必要な単位がまだ沢山（編入でない学生に比べると20単位くらいの差）あったが、オンラインになり、友達に会わないことで意識がどんどん落ち、そのままズルズルいってしまい負の連鎖にはまってしまった。授業を取りこぼしたりもした。そこを持ちこたえられるだけの強さを持っていると思っていたが、出来ていないところもあり、弱さを見た１年だった。就職活動に関して、オンラインに対応するところ、しないところというのが出てくる。企業の学生に対する意識を見る指標の一つとしては、オンライン対応の有無はありかと感じた。

**―オンラインで大変だったことはどんなことか。**

**学生 I** ／私は非常にオンラインの授業が苦手だった。タスク管理が苦手で、授業に学校に行って出席することは忘れないが、火曜日の12時までに課題を出すというのを忘れずにするのが非常に苦手なことに気づいた。いろんなところに付箋を貼って管理したが、少し単位を落としてしまった。周りの友達と話していても、自分が気付かないうちにどんどん落としていく、そのことでやる気がなくなっていき、この授業で何をしなきゃいけないか、確認することも億劫になって、全部諦めてしまったという友達もいる。今までだったら学校に行くことで、周りの友達が来てないことにも気づき、「大丈夫？」と確認しあう雰囲気もあったが、今回は友達同士で助け合ったり、気付かせあったりしていたところが、できなくなってどんどん置いていかれている人が意外といると思った。

**学生 K** ／タスク管理ができないことを非常に実感した。特に前期のときは授業数も多く、授業の案内がバラバラに来ることがかなり大変で、加えて修学支援システムもチェックしなければいけないし、さらにメールで来るものもあるしで、毎日何回もチェックするのが大変だった。その週の課題を見落としたり、締め切りを間違えて出し忘れが多かった。１年生のときは、学校に行ってそれで終わっていたため、今年は毎日何かを確認しなければならないことが増えたのが大変だった。

**学生 J** ／２年生の前期、ある授業（『グローバル社会に生きる』）でグループになって課題をすることがあった。Zoom で行われていたが、まず全く知らない人とのグループを作って、そこからは授業の中でまずは会議をブレークアウトセッションだったが、やはり授業の中では足りず、授業外で会議をしなければいけない。しかし、一緒に作業していた人に連絡を切られてしまった。本当に全く知らない人が集まった５人グループで大変だった。また、スケジュールが非常にタイトで、もう２日後とかに課題が出されたこともある。オンライン授業の弊害とは思うが、思うように十分に満足に授業の課題、授業外の学習、会議ができなかったのが、大変だった。一緒のグループの人とうまく連絡が取れず、課題が非常に遅れ、課題提出が先延ばしになったことがあった。同級生との連絡先の交換が、非常にストレスだった。

**―大学生活や日常生活での出来事で、印象に残っていることはあるか。**

**学生 J** ／僕は、課題をまとめてやりたいタイプ。昼は授業を受け、夜中に課題を全部まとめてする癖がつき、夜中３時、４時になって寝るという生活になった。生活リズムの乱れがなかなか直らない。

**学生 K** ／夜型人間になってしまい、大学入ってすぐは深夜０時をすぎて起きていることはさほどなかったが、真夜中に課題をやったりして、寝るのが遅くなり大変だった。

**学生 L** ／７月に内定をもらい就職活動が終わった。そこからアルバイトを探して、決まったところで卒業まで（アルバイトを）した。アルバイト先でも、常に感染対策には非常に気を使っていた。バイト以外の外出もなく、友達同士誘うこともなく、就職活動の状況を話し合うこともなかったので、息抜きはできなかったと思う。卒業旅行も行けないため、最後の思い出が作れないのは残念だ。しかし、良かったことは、勉強に打ち込めたことだ。内定先から資格取得を指示されていたが、勉強する時間もかなりあるため、勉強を頑張り四国エリアで採用された人の中で、一番最初に受かることができた。

**学生 M** ／今は英語の資格の試験を準備していて、勉強に集中して良いと思っている。

**学生 N** ／接客業（コンビニエンスストア）のバイトをしていたが、１年前コロナが日本に来た頃、感染が怖く辞めた。

**学生 O** ／時間ができたことによって、趣味に時間を費やせることができた。漫画を読むのが好きで、漫画を一気に読んで楽しんだ。ただ、今までだったら部活動を含めて週７で毎日学校へ行っていた状況が、コロナ禍で一切通わなくなり、ずっと家にいる状況で、１回体調を崩してしまった。

**学生 P** ／日常生活では帰省ができないところが大きかった。地元が田舎で高齢者も多くうつして万が一というところがあり、また田舎だと罹った人がすぐ拡まってしまう、名前ごと拡がってしまうことを感じていたため、帰省するところにブレーキかけてしまった。結局、僕は昨年２月に帰省して以降１回も帰省していないが、その中でも帰省する人はいるわけで、そういう人たちを見ていると普段持たなくていいような感情を持ってしまうのもこの１年の中で感じた。

**―サークルについてはどうだったか。**

**学生 J** ／サークルに入っていたが、こういう状況で、かつ自宅から大学が非常に遠いため、次第に行かなくなった。

**学生 K** ／サークル活動が出来なくなった。音楽系のサークルに入っており、本番に向けて練習を数カ月していたが、練習だけでなく本番自体もなくなり、かなり気持ちが落ちてしまった。

**学生 N** ／赤十字奉仕団に所属してボランティアをやっており、以前は、児童養護施設によく行っていたが、今はほとんど行けず、ほぼ活動停止状態になっている。献血の呼びかけを１回できたくらいで、サークル活動が十分にできなかったのが残念。

**学生 O** ／運動部に所属しており幹部になっている。なので、活動ができたり出来なかったりと繰り返されるたびに、各種手続きが大変だった。また、大会とかも無くなり、どこに向かってやっていけばいいのか、各々がさまよっている雰囲気になり、幹部として部員たちのモチベーションをどう保てばいいのかわからなかったのが大変だった。

**―アルバイト等、経済面での変化についてどうだったか。**

**学生 I** ／バイトは飲食店と、塾の講師をしている。飲食店の方は、緊急事態宣言が出たときにバイトに入れなくなった。私は実家暮らしで、収入がなくなったところで外に遊びに行けるわけでもないため、すぐに困ることはなかったが、友達は結構どうしようという子も多く、実家に帰るにも帰れないし、１人でずっと家に居ることを聞くと可哀想だと思った。それに、休業していた４月と５月の２ヶ月分の休業補償をバイト先の方が申請してくれ、私の場合はかなり大きなお金が入った。忘れていたところもあり、別段困っていなかったため正直ボーナスが出た感じだった。友達のバイト先では、知らなかったり、バイト先の店が申請してくれていなかったりした。働いているところによって手当が変わったり補償が変わったりするのは難しいところだと思った。学生にそういったことを知らせる機会が少ない。

**学生 J** ／バイトは、去年の５、６月になって、店長さんから「J くんは大学生だし、そんな入らなくて良いよ」と言われ、入りたいと言えず、結局バイトは週末だけ働きに行くことになった。実家暮らしなので、さほど困りはしなかったが、収入は大きく減った。

**学生 K** ／個人経営の寿司屋でアルバイトをしていたが、お客さんが全く来なくなってしまって、来なくていいと言われ、２ヶ月ぐらいはバイトゼロになってしまった。その間は収入がなく親からの仕送りはもらっていたが、そこだけになってしまったの

がかなり大変だった。そのときは愛大から出たお金（愛媛大学緊急支援給付金[3]）と、食事券を配布してくれるプロジェクト[4]に申請して補助してもらって助かった。私は、親から仕送りがあったが、友達の中には、定期的な仕送りはなく、生活費も学費も自分で出している友達もいて、その子達は本当に大変そうだ。そして、同じサークルの子に大学を辞めた子がいる。その子は留年しない程度ではあるが、単位がギリギリだった。さらに、経済面では自分で捻出しているところが多く、そういった苦労が重なって辞めた。そういった話を聞いていたら、悔しいところがあっただろうと感じた。

**学生 M** ／外国人観光者関係のアルバイトをしていて、コロナの影響で、外国人観光者は全く来ないため、首になった。少し辛い。

**学生 O** ／バイトに関しては、昨年は居酒屋とステーキ屋で掛け持ちしていたが、居酒屋が４月ぐらいに潰れて、今ステーキ屋のバイトは残っているが、４月、５月、６月の３ヶ月は本当に生活が苦しかった。１年生の時から親からの仕送りが一切ないため、自分の力でやってきて少し大変だった。ご飯も白米だけ食べることがざらにあったため、大変だった。

**学生 P** ／バイトは休業してしまい、収入がなくなった。就活の時期とコロナで休業してしまうという時期がかぶってしまい、地元が九州で、そちらの方で就職活動の方もしていたため交通費などがかさんだ。10万円給付がコロナの序盤にあったが、そういうのも、交通費で全部飛んでいってしまった。収入がなくなる影響は、就職活動などをしている学生にとっては大きかった。

---

３）愛媛大学では令和２（2020）年５月７日に、１人30,000円の「愛媛大学緊急支援給付金」の給付を行うこととし、５月８日～５月15日の募集期間に1,219名からの応募があり、753名への給付を決定、５月29日に給付が実施された。その後、令和３（2021）年６月２日には、１人５万円の「新型コロナウイルス感染症対応緊急支援（給付型）奨学金」の募集を開始（～６月30日）、406名からの申請があり、383名への給付を決定、８月６日に給付が実施された。第３弾の支給も検討している（2021年８月17日現在）。

４）「学飯プロジェクト」は、「大学生、大学教授、社会人、企業経営者が集まり、コロナで経済的な困窮を受けている学生と、飲食店に対して、市民や企業から寄付を募り、それを食事券として、経済的な困窮をしている学生に配布し、学生と飲食店を支援する取り組み」で、令和２（2020）年６月２日から10月末のプロジェクト終了までの期間に計10,000食分以上の食事券の配布を行ったという（「学飯プロジェクト」https://peraichi.com/landing_pages/view/1eb63、2021年６月12日アクセス）。

**―テレビで頻繁に報道されている都市部と、愛大のような地方学生の状況や意識の差などで感じることなど（休学・退学を考える等の経済的な事情など）はあるか。**

**学生 I** ／東京や関西の私立大学で、中退した人や休学をしていますと言っているニュースは見たが、ほとんどの理由が、金銭的な理由だと思った。東京は住んでいくだけでも非常にお金がかかったりすると思う。そして、私立か国立かでも、かかる学費も全然違うと思う（学生 O、P 同意見）。ただ、正直、大学に通っていなくて、大学のエアコンを使っているわけでもなく図書館も満足に使えなくて、その状況の中で、何で同じお金を払っているのだろうと思った。授業が対面じゃなくなったというだけで、大学では今までと同じように働いている人もいるし、先生も同じだけかむしろそれ以上の時間をかけて準備してくださっているのはわかるが、学生からすると、正直利用できていない施設があるのに、有無を言わさずにこれまでと同額の学費を払うのは何故だろうと、疑問を持たなかったと言ったら嘘になる。しかし、これらのウエイトが、地方国立大学は私立と比べると小さいので、そのまま継続している部分もある。どうしても私立大学の学費は授業料より設備料のようなものに多く取られているため、学生継続することに疑問を持っていたり、シンプルに本当にお金が厳しい人も多いのではと思う。決心するかしないかの差は、金額的にも大きさの違いがあるのではないか。意識の違いでいうと、正月、東京や大阪の友達が帰省していた。その人達にとっては、自分たちが今住んでいるところよりも感染が拡大していない地域なので、松山なら大丈夫だろうという感覚があるようで（なお、学生 L も同意見）、５人６人で久々に集まって飲みに行ったり、それに平気でずっと松山にいる私達を誘ってきた。行きたい気持ちはあったが、断った。その反面、集まれて良いなという羨ましい気持ちもあり、交友関係もギクシャクしてしまい、都会と松山での価値観の違いを感じた。

**学生 J** ／知り合いに休学した者がいる。地元に戻り、仕事に向けてがんばっている人もいる。一つの手段として有効ではないかと思う。都市部の学生の意識までは正直、よく分からない。都市部の学生ではないが、松山の友人でも、対面の授業の後に街に遊びに行ったりしている人はいて、そういうのを見ていると行きたいが「なんでだろうな」とジレンマを感じた。

**学生 K** ／同じサークルに所属していた学生の一人が大学をやめた。その子は単位がギリギリだったということもあるが、自分で出しているお金が多く、それらが重なってやめてしまった。今は働いている。都市部と愛媛の違いは、本当に人によるところは多くあると思うが、都市部の人の方が、コロナ感染に対する意識が低いように感じ

る。今はSNSでほかの人の生活が見えるため、東京では結構な人数で集まってお酒飲んで、普通に人がいっぱいいるところにいるのをネットに上げるという子もいる。感染対策はしているんだろうが、少し意識が低いと感じた。東京、大阪から松山に（帰省で）戻ってきて、さらにいろいろな人と遊んでいる姿を見ると、いいなと思うと同時に、大丈夫かな、と思ってしまう。

**学生L**／都市部との違いではないが、テレビでは若者が感染源と言われていると思うが、個人的には若者だけではないと思っている。大学生は通学も出来ていないし、遊びも我慢しているのに、スーパーへご飯の買い物に行ったら、マスクしていないお年寄りの方も見るため、誰が悪いと思わないが若者だけのせいじゃないと思う。愛媛の人、私の周りの人は少なくともみんな我慢して過ごしている。

**学生M**／インターンも含め、就活に有利なことをしたいと思っていたが、やはり都市部より愛媛のような地方は、機会がすくないかなと思っている。将来のキャリアに繋がるような機会が多くなると良いなと思っている。

**学生N**／都市部と地方部の人々の間にはやっぱり認識の差はあると思う。現状、都市部は人手が必要不可欠なところもあるので、そこの認識からして、都市部の人々はどちらかというと、経済を回した方が良いって考えがあり、地方に（帰省等で）移動した時も同じ認識のもとに動いてしまっている部分はあると思う。

**学生O**／僕は、都市部から愛媛に来た人間なので、愛媛から各都市に帰省する人は少ない。自分もそうだが、親から帰って来ないでと言われたし、地方と都市部では帰省の考えは違うと思う。

**学生P**／都市部に行った友人はいない。学生の中での都市部と地方の差を深く考えたことはなかった。ニュースで取り上げられたりするマイナス面が、結局都市部だと、そういう人が多く見えるだけであって、実際の割合で見たら、地方とさほど変わらないのではないか。調べていないので、分からないが。

**―これまでのところで、何か補足や意見等があればどうぞ。**

**学生I**／後期の対面とオンラインの併用が始まったとき、対面授業の次の時間が同期型の遠隔授業になる場合、休み時間に家に帰ってZoomを立ち上げるということが間に合わない。大学の設備でパソコン使ってもいいという話もあったが、対面の授業が

長引いたりもするため、やはり間に合わない可能性がある。そういうところの兼ね合いも、対面とオンライン両方っていう形になるのであれば、考えてほしい。

**学生 K** ／小さい話になるが、パソコン上で授業内容を勉強することが多くなり、資料にメッセージや補足で何か書いてある先生とそういうのがまったくない先生がいた。先生からの言葉があったら、その先生が話す感じが分かるし、気にかけてくれているのが伝わってきて、励みになり嬉しかった。

**学生 O** ／ Zoom のような同期型の授業で、カメラをオンにしなくていい授業があるらしい。授業を聞いている間に他のことができてしまうので、それだったら、資料を提示されて自分で進めていく方が良いかな。

**―４回生の方、卒論の苦労はあったか。**

**学生 P** ／ゼミ生同士の仲が良いため、土日とか授業やゼミがない時にオンライン上でルームを作って、だべりながら書いていく等、孤独な作業にならないように皆で励ましあって進めていった。卒論自体は大変だったが、ゼミ生同士の関わりの場があったとないのでは進捗が変わってきていたと思う。

**学生 L** ／実験をしてそれを論文に書くという卒業論文だった。最初の予定が対面で計画を立てており、対面が厳しいってことになり、オンライン実験に変えたりした。また感染の状況や大学のステージによっても実施できるかどうかも変わってくるため、卒業論文を書くにあたっては思っている何倍も早め早めに行動していた方がいいというのを実感した。自分から積極的に先生へ連絡をして「添削お願いします」と見てもらって書き上げた。分析も１人じゃ絶対できない難しいこともあったため、意欲的にするよう決めて、自分から動くのを非常に心に留めて、卒業論文は書くようにしていた。周りを見ていると情報も限られてくる中で、自分がどう動くかで過ごしやすさが変わると思った。

**―対面授業と遠隔授業については、どのように感じたか。**

**学生 J** ／家から学校が遠いので、オンライン授業は非常に便利だと思った。しかし、友達に会えないことや授業の質が変わってしまうことが問題だ。改善すべき点は、同期型で通信状況が悪く、授業が聞こえないことが何回かあったことだ。

**学生 O** ／僕は遠隔授業の中では、非同期型より同期型の方がいい。理由は、同期型

は授業を受ける時間が決められているので、やる気になる気持ちのスイッチが入りやすい。「勉強するぞ」モードに入りやすく個人としては「性に合っている」。

**学生K**／私も同期型の方が良かった。時間が決まっていて、決まった時間で終わるのが良い。オンデマンド型については、最初は難しい説明でも戻って聞けたりして、動画がもともと出されているものも良いと思っていたが、受ける時間が何時でも良いとなると、後回しにして溜めてしまう。

## ４．おわりに

本研究では、生の声がきける座談会を開催することで、コロナ禍における大学生の実態を明らかにし、学修状況や生活状況を把握することを目的とした。座談会は、初めて大学生活を送る１回生と少し慣れてきている２回生以上とに分けて開催した。

全体的には、２回生以上に比べると、大学生活に慣れていない１回生の辛さが全面に出ていた。また、コロナ禍では日ごろ経験したことのない感情を抱いてしまうことが分かった。例えば、帰省の話では、帰省している人に対して自分自身は厳しい目で見ている反面、羨ましい気持ちもあったり、友人と集まる行為においても、行っている人を非難はするけど、自分も行きたい気持ちもあるので複雑な感情になるようだった。また、対面授業をしている大学生や、毎日通学している小・中・高校生を羨ましいと思う気持ちもあったり、通常時には抱かなかったであろう嫌な気持ちが湧き上がることもあるようだ。不公平感は、日常生活の中で誰しもが抱く可能性がある感情だが、コロナ禍という非常時にはより強く抱いてしまうようだと分かった。また、オンライン座談会の限界もあった。対面に比べると表情や雰囲気が感じ取りにくいため、話が噛み合わないところもあった。さらにオンラインでは本心を思い切り言う勢いはどうしてもなく、少し発言が遠慮がちになっていると感じるところもあった。

また、今回の座談会では、コロナ禍によって経済的苦境に陥り食事にも困った時期があったという経験を話してくれた学生もいた。給付金や食事券が助けになったと話してくれた学生もいた。他方で、わたしたちが令和２（2020）年10～12月に実施したアンケート調査では、外出の機会が減ったためお金が貯まったといった回答をする学生もいた。コロナ禍において、学生の経済状況の格差が広がっている実態が示されたといえよう。とりわけ、家庭の事情などで学費・生活費等を自ら稼いできた学生は、コロナ禍でより大きな打撃を受けていると推測され、その影響は、単純に経済面にとどまらず、感情面・心理面にも及んでいる可能性があると考えられるだろう。

より組織的な調査によるより精緻な実態把握が必要であるが、現在までに得られた

情報のみに基づいたとしても、少なくとも今後しばらくの間、本学学生に対する経済面・心理面の支援を継続させ、可能であれば、さらに充実させていくことが不可欠であると考えられる。その際、支援に係る申請がオンラインで完結する体制を整えるといった工夫を施すことで、学生側の物理的・心理的負担の軽減を図る必要もあるのではないだろうか[5)]。

コロナ禍が長期化している中で、変異株が猛威を振るい、「第４波」がようやくピークアウトしつつあるなか、（2021年６月現在）五輪開幕により「第５波」到来も懸念される。収束の兆しもないなかで、状況そのものは我々ではどうにもできないけれど、その中で知恵を出し合ったり、お互いに助け合ったりして、どう乗り切っていくのか。今後は同じ生の声でありオンラインの弊害はない手記を分析すること、そして学生の心理的な変化にも注目して、引き続き調査を進めていきたい。

**謝辞**

今回、この座談会に携わって頂きました法文学部の教員、ならびに参加してくださいました法文学部学生の方々に感謝の意を表します。

また、この研究は、令和２年度法文学部戦略経費、令和３年度法文学部戦略経費、及び JSPS 科研費19K21723の助成金交付により研究が遂行されたものです。

５）「新型コロナウイルス感染症対応緊急支援（給付型）奨学金」の申請書提出方法は、「持参又は郵送」とされている。

『新型コロナウイルス感染症対応緊急支援（給付型）奨学金』の募集について（2021年６月12日閲覧）
https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2021/06/boshuyoko.pdf

# コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅲ

## ― 2020年度学生手記の分析 ―

青木　理奈・鈴木　　静・福井　秀樹
小佐井良太・石坂　晋哉

### 1．はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大は、大学生にどのような影響をもたらしているのだろうか。新型コロナウイルス感染蔓延は、多くの人にとって予期しえなかった深刻かつ長期にわたる未曽有の災厄である。愛媛大学も、急速に進む感染拡大に対し、学生の入構禁止、遠隔授業への全面切り替え等が急きょ行われ、教育提供体制が激変した。

今回の新型コロナウイルスのような全世界規模で起きている災厄は、記録や教訓を収集、保存し、継承していくことが次なる災厄への備えになるだろう。なにより、今のコロナ禍において刻一刻と事態が変わっていく中、時系列で保存できるよう、記録はコロナ禍の初期から収集することが重要であると考えている。

よって、本プロジェクトは、未曽有の事態に際し、法文学部学生の生活上の被害実態を明らかにするとともに、法文学部の緊急時対応および遠隔授業等実施に係る記録を収集し、データベース化することを最終目的とする。これまで、愛媛大学法文学部の学生を対象としたアンケートを実施[1)]している。

本調査では、学生たちの生の声を聞くため、手記を収集し分析することによって、コロナ禍における大学生の実態を探求し、学修状況や生活状況を理解することを目的とする。そして、手記ならではの細かな記載を研究ノートとして一部抜粋し、書き留

1）青木理奈・鈴木静・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉「コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅰ―学生を対象としたアンケート調査の単純集計結果―」愛媛大学法文学部論集第50号（社会科学編）,pp37-68.2021.2月

めておくことで、コロナ禍第一波および第二波[2)]の貴重な記録として保存することにした。

## ２．対象と方法

2020年10月29日～11月30日の間、愛媛大学法文学部の学生を対象に、「コロナ禍における法文学部学生の学修・生活への影響について」手記を募集し、18件集まった。具体的には、「コロナ禍での大学生活や日常生活を1,200字程度にまとめてください。」と依頼した。

### ２－１．対象者の属性

対象者の属性[3)]は、以下の表に示すとおりである。

| ＩＤ | 性別 | 学年 | コース | 昼夜間主の別 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 女性 | 2回生 | 法政 | 昼間主 |
| 2 | 女性 | 2回生 | 法政 | 夜間主 |
| 3 | 男性 | 2回生 | ＧＳ | 昼間主 |
| 4 | 男性 | 2回生 | 人文 | 昼間主 |
| 5 | 女性 | 4回生以上 | 人文 | 昼間主 |
| 6 | 女性 | 3回生 | 法政 | 昼間主 |
| 7 | 男性 | 1回生 | | 夜間主 |
| 8 | 女性 | 1回生 | | 夜間主 |
| 9 | 女性 | 4回生以上 | 人文 | 昼間主 |
| 10 | 女性 | 1回生 | | 昼間主 |
| 11 | 女性 | 1回生 | | 昼間主 |
| 12 | 女性 | 1回生 | | 昼間主 |
| 13 | 男性 | 1回生 | | 昼間主 |
| 14 | 女性 | 2回生 | 法政 | 昼間主 |
| 15 | 女性 | 1回生 | | 昼間主 |
| 16 | 女性 | 2回生 | ＧＳ | 昼間主 |
| 17 | 女性 | 3回生 | 人文 | 夜間主 |
| 18 | 女性 | 3回生 | 人文 | 昼間主 |

2）第一波：2020年3月～5月頃、第二波：2020年7月～8月頃

3）愛媛大学法文学部は、昼間主・夜間主コースがある。更に、2回生からは、3つの所属コース（法学・政策学履修コース［法政］、人文学履修コース［人文］、グローバル・スタディーズ履修コース［GS］）に分かれる。

なお、手記を提供した2020年11月段階では、1回生は所属コースの振り分けは行われていない。

### ２－２．分析方法

手記の分析を行うにあたっては、基本的にクリッペンドルフの内容分析手法（クリッペンドルフ、1989）を用いた。また、この分析手法を用いた学生のレポート分析に関する先行研究、森・大橋（2008）に多くの示唆を得ている。具体的には、以下の手順により分析を行った。

１）手記内容を文脈毎に全て抽出する
２）文脈の内容により記録単位を作成する[4)]（抽出した文脈をまとめる）
３）類似性のある記録単位に基づき、サブカテゴリー名を付ける
４）同様の作業（類似するサブカテゴリーの集約）をし、カテゴリー名を付ける

## ３．倫理的配慮

調査対象者の学生には、研究の趣旨について書面による説明を行い、最終的に研究への協力を承諾した計18名から手記を提出してもらった。プライバシーの保護のため個人名は特定できないようにしている。

## ４．結果の概要

テキスト化された手記を文脈毎にまとめ、それら文脈内容により記録単位を作成した結果、記録単位数は356件になった。

その後、文脈内容の類似性に従って分類した結果、11個のカテゴリーに分類された（表1）。友人関係に関しては、大学が遠隔授業になり通学できなくなったことによる影響を記述している場合と、緊急事態宣言下で外出の自粛が求められたことによる影響を記述している場合とに分けた。これら11カテゴリーを類似性に基づいて3つのコアカテゴリーに分類し、それぞれ、「大学生活」、「日常生活」、「その他」とした。

---

４）記録単位とは、文脈毎に抽出した文章をさらにまとめたものである。例）「授業形態が変わり、大学に行く機会がなくなった。」という文脈は、「通学頻度の減少」という記録単位とした。

表1　類似する記録単位から分類した11カテゴリー　N＝356件

| コアカテゴリー | | カテゴリー | |
|---|---|---|---|
| 大学生活 | 183 | 1. 遠隔授業 | 151 |
| | | 2. 友人関係 | 22 |
| | | 3. サークル | 10 |
| 日常生活 | 126 | 4. 行動面 | 55 |
| | | 5. 経済面 | 27 |
| | | 6. 体調面 | 21 |
| | | 7. 友人関係 | 12 |
| | | 8. 家族関係 | 11 |
| その他 | 47 | 9. 学生の気持ち | 24 |
| | | 10. インターンシップ・就活 | 18 |
| | | 11. 留学 | 5 |

以下、コアカテゴリーごとに分析していく。

1）「大学生活」に関する内容分析

表2 「大学生活」に関する内容分析結果　N＝183件

| カテゴリー | | サブカテゴリー | | 類似記録単位群 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 遠隔授業 | 151 | デメリット | 79 | A 課題負担が大きく、締め切りに間に合わない | 7 |
| | | | | B 時間が自由に使えない、スケジュールの自己管理が難しい | 16 |
| | | | | C 環境・必需品に不備が出る | 10 |
| | | | | D 授業の質が低い、理解がしにくい、集中力が続かず学習している実感がない | 32 |
| | | | | E 周りに頼れない、精神的負担がある | 14 |
| | | 学生の気持ち | 23 | A 不安と期待、戸惑い、衝撃、困った、残念、辛い、複雑 | 16 |
| | | | | B 対面希望 | 4 |
| | | | | C ありがたみを知る | 2 |
| | | | | D 非同期型希望 | 1 |
| | | メリット | 22 | A 時間、場所が自由になった、負担が減った、効率がいい | 13 |
| | | | | B 理解度が上がった、学習時間の増加、内容がいい | 11 |
| | | 現実に対する記述 | 20 | A 授業形式が先生によって様々で、工夫が必要だった、チャットを使った | 11 |
| | | | | B すべて遠隔、非同期型になり通学頻度が減った | 7 |
| | | | | C 不都合がなく進んだ | 3 |
| | | 徐々に改善された点 | 4 | A 授業の質が上がった | 3 |
| | | | | B 課題負担が減った | 1 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 友人関係 | 22 | 接触減少 | 8 | A 友人は地元へ帰った | 1 |
| | | | | B 授業前後で話さなくなり、友人との関係が遠くなった | 2 |
| | | | | C 友人と会えないのでグループ会話やゲームをした | 1 |
| | | | | D 先輩、留学生、同回生と会えず関係が築けない | 4 |
| | | 友人が作れない | 7 | A 友人が作れず不安で焦っている | 3 |
| | | | | B 遠隔の間は友人が作れず、諦めている | 4 |
| | | 友人作れた | 1 | A 後期の対面で作れた | 1 |
| | | 学生の気持ち・心情 | 6 | A なかなか会うことができず残念、後悔 | 3 |
| | | | | B 会う機会があって安心、楽しい | 2 |
| | | | | C 友人作りには個人差がある | 1 |
| サークル | 10 | 参加できず | 5 | A 交流がなくなった | 2 |
| | | | | B 精神的ショック、残念 | 1 |
| | | | | C 実際に行かないと分からない | 2 |
| | | 学生の気持ち | 4 | A 対面でない強みがある、頑張りたい | 2 |
| | | | | B 夕食と時間が被って辛い | 1 |
| | | | | C まとめた情報を上げてほしい | 1 |
| | | 参加した | 1 | A オンライン新歓 | 1 |

「大学生活」に関しては、3個のカテゴリーと12個のサブカテゴリーに分類された。このうち、カテゴリーについては類似記録単位の多い順に「遠隔授業（151件）」、「友人関係（22件）」、「サークル（10件）」だった。

「遠隔授業（151件）」のサブカテゴリーの内訳は、「デメリット（79件）」、「学生の気持ち（23件）」、「メリット（22件）」、「現実に対する記述（20件）」、「徐々に改善された点（4件）」であった。類似する記録単位で最も多かった「授業の質が低い、理解がしにくい、集中力が続かず学習している実感がない（32件）」をはじめ、「時間が自由に使えない、スケジュールの自己管理が難しい（16件）」、「不安と期待、戸惑い、衝撃、困った、残念、辛い、複雑（16件）」と続き、遠隔授業に関して否定的な記述が上位を占めた。

「友人関係（22件）」のサブカテゴリーの内訳は、「接触減少（8件）」、「友人が作れない（7件）」、「友人作れた（1件）」、「学生の気持ち・心情（6件）」であった。類似する記録単位で最も多かった「先輩、留学生、同回生と会えず関係が築けない（4件）」、「遠隔の間は友人が作れず、諦めている（4件）」とも否定的な記載であり、通学しない中で友人を作る難しさや、コロナ禍以前からの友人とも関係が遠くなる現実が書かれていた。

「サークル（10件）」のサブカテゴリーの内訳は、「参加できず（5件）」、「学生の気持ち（4件）」、「参加した（1件）」であった。最も多かった類似する記録単位は「交流

がなくなった（2件）」、「実際に行かないと分からない（2件）」、「対面でない強みがある、頑張りたい（2件）」だった。

2）「日常生活」に関する内容分析

表3 「日常生活」に関する内容分析結果　N＝126

| カテゴリー | | サブカテゴリー | | 類似記録単位群 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 行動面 | 55 | 外出自粛 | 13 | A 守って家で過ごしていた | 5 |
| | | | | B イベントが中止になった、キャンセルした | 8 |
| | | 変化あり | 22 | A 感染対策をするようになる | 9 |
| | | | | B 実家に帰省、アルバイトを始めるなどの生活の仕方が変わった | 13 |
| | | メリット | 8 | A 生活リズムが良くなった | 4 |
| | | | | B 趣味など生活が豊かになった | 4 |
| | | デメリット | 5 | A 頼れる人がいない、一人 | 3 |
| | | | | B 気を遣う、落ち着かない生活 | 2 |
| | | 学生の気持ち | 7 | A コロナ前の生活への期待 | 4 |
| | | | | B 負担がある、緊張、退屈 | 3 |
| 経済面 | 27 | 変化あり | 22 | A 収入が減り、生活が苦しくなった（影響あり） | 21 |
| | | | | B 途中でアルバイトが復活し、収入増加 | 1 |
| | | 変化なし | 5 | A 仕送りやアルバイトあり、収入変わらず（影響なし） | 5 |
| 体調面 | 21 | 不調 | 17 | A 精神的に病むようになる | 11 |
| | | | | B 生活習慣の乱れ、コロナ生活による不調 | 6 |
| | | 影響なし | 2 | A 特に変わらない | 2 |
| | | 安定した | 2 | A 精神的に安定、暮らしやすい | 2 |
| 友人関係 | 12 | 接触減少 | 3 | A 会う人がいない、限られた人としか会わない | 3 |
| | | 学生の気持ち | 8 | A 断って後悔、会うことに神経質に、価値観の違い | 4 |
| | | | | B 会う機会があると嬉しい | 3 |
| | | | | C 交友関係を広げたい | 1 |
| | | 接触増加 | 1 | A おかずを友人におすそ分けした | 1 |
| 家族関係 | 11 | 接触減少 | 2 | A 実家に帰省できなかった | 2 |
| | | コミュニケーション増加 | 7 | A おうち時間が充実していた、成長できた | 7 |
| | | 学生の気持ち | 2 | A 外出を止めた親を恨む | 1 |
| | | | | B 感謝している | 1 |

「日常生活」に関しては、5個のカテゴリーと16個のサブカテゴリーに分類された。類似記録単位の多い順に「行動面（55件）」、「経済面（27件）」、「体調面（21件）」、「友人関係（12件）」、「家族関係（11件）」だった。

「行動面（55件）」のサブカテゴリーでは、「変化あり（22件）」、「外出自粛（13件）」、「メリット（8件）」、「学生の気持ち（7件）」、「デメリット（5件）」であった。最も多

かった類似する記録単位は「実家に帰省、アルバイトを始めるなどの生活の仕方が変わった（13件）」であり、対面授業がないため、実家に帰省したり、教習所に通ったり、アルバイトを始めたという記述が目立った。

「経済面（27件）」のサブカテゴリーの内訳は、「影響あり（22件）」、「影響なし（5件）」であり、最も多かった類似する記録単位は「収入が減り、生活が苦しくなった（21件）」という記述であった。

「体調面（21件）」のサブカテゴリーの内訳は、「不調（17件）」、「影響なし（2件）」、「安定した（2件）」であり、最も多かった類似する記録単位は「精神的に病むようになる（11件）」で、次いで「生活習慣の乱れ、コロナ生活による不調（6件）」と、昼夜逆転になり生活が乱れ、精神的にも辛くなってきたという記述が目立った。

「友人関係（12件）」のサブカテゴリーの内訳は、「学生の気持ち（8件）」、「接触減少（3件）」、「接触増加（1件）」であり、最も多かった類似する記録単位は「断って後悔、会うことに神経質に、価値観の違い（4件）」だった。コロナ禍で会おうと誘う友人を断ったことでの後悔や、外出したことをSNSに投稿したことで友人に注意されたり、コロナ禍を軽んじる友人の発言に対して耳を疑ってしまったり、友人との価値観の違いによって否定的な気持ちが生まれたようだ。

「家族関係（11件）」のサブカテゴリーの内訳は、「コミュニケーション増加（7件）」、「接触減少（2件）」、「学生の気持ち（2件）」であり、最も多かった類似する記録単位は「おうち時間が充実していた、成長できた（7件）」であった。主に自宅生や帰省した学生で、家族との接触が増えたことをメリットと捉える内容だった。

### 3）「その他」に関する内容分析

**表4 「その他」に関する内容分析結果 N＝47**

| カテゴリー | | サブカテゴリー | | 類似記録単位群 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 学生の気持ち | 24 | 今後の抱負 | 7 | A 自分の将来に向かって準備したい | 7 |
| | | メリット | 7 | A 生活で得るものがあった | 7 |
| | | デメリット | 10 | A 生活に不安、心配がある | 7 |
| | | | | B 他人と比較したり、キャラが分からなくなる | 3 |
| インターンシップ・就活 | 18 | 影響あり | 13 | A 中止、オンラインになった | 5 |
| | | | | B 進路を変更した | 2 |
| | | | | C 交通費不要、視野が広がるメリットもあった | 6 |
| | | 学生の気持ち | 5 | A 対面で行いたかった | 1 |
| | | | | B 早めに行動することが大切 | 1 |
| | | | | C 形式が変わって不安があった | 3 |
| 留学 | 5 | 中止になった | 5 | A 長期休みに行こうとしていたのに残念 | 4 |
| | | | | B 別の留学に行こうか迷っている | 1 |

「その他」に関しては、3個のカテゴリーと6個のサブカテゴリーに分類された。類似記録単位の多い順に「学生の気持ち（24件）」、「インターンシップ・就職活動（18件）」、「留学（5件）」だった。

「学生の気持ち（24件）」のサブカテゴリーの内訳は、「デメリット（10件）」、「メリット（7件）」、「今後の抱負（7件）」であり、最も多かった類似する記録単位は「生活に不安、心配がある（7件）」、「生活で得るものがあった（7件）」、「自分の将来に向かって準備したい（7件）」であり、必ずしも否定的な記述だけではなかった。

「インターンシップ・就活（18件）」のサブカテゴリーの内訳は、「影響あり（13件）」、「学生の気持ち（5件）」であり、最も多かった類似する記録単位は「交通費不要、視野が広がるメリットもあった（6件）」であった。

「留学（5件）」のサブカテゴリーの内訳は、「中止になった（5件）」であり、最も多かった類似する記録単位は「長期休みに行こうとしていたのに残念（4件）」とする記述で、仕方がないと思う反面、悲しい気持ちになったり、目標がなくなった今、留学の代わりとなる学修を探している様子が記述されていた。

## ５．分析と考察

今回の手記で、類似する記録単位数が最も多かったのは、「大学生活」コアカテゴリー中の「遠隔授業」カテゴリー（159件）であった。むしろ、遠隔授業のことについて触れていない学生はいなかった。そのくらい大学生にとって遠隔授業は、大きな出来事だったのだろう。

2020年度は、大学の講義のほとんどをオンライン（遠隔授業）で行うという、歴史上にも残る新しい形式での授業となり、教職員も学生も初めての授業形態に戸惑う一年となった。

### １）大学生活に関する内容分析

今回の手記では、「遠隔授業」は、学生自身の捉え方についての側面と、授業を行う教員への不満や改善を求める側面についての意見がみられた。学生自身、これまでの経験のなかで初めての授業形態に慣れるまで、ストレスを感じることが多かったようで、パソコンに向かって一人で取り組む授業形態は、学習効果が低いと感じた記述が目立ち、集中力が続かないとの記述も見られた（32件）。例えば、以下のような記述が見られた。

前学期を遠隔授業で過ごし個人的には対面授業より遠隔授業のほうが大変でした。
理由は三つあります。一つは、授業内容がしっかりと身に付いていないことです。パソコン等、画面越しのため動画であったとしても理解が半減してしまいました。また、質問や分からなかったことがあった時にその場で聞いて解決するということができませんでした。二つ目は、授業によって違う授業形態になじむのに時間がかかってしまったことです。先生によってリアルタイム型や、ムードルのテスト、メールによるレポートの提出など様々だったため、気づいたら期限を過ぎていたり、宛て先を間違えるというミスを何度か犯しました。三つ目は、やる気が出ないということです。遠隔授業は家でもどこででも受けることができるため、特に zoom などのリアルタイム型でも直前まで睡眠をとり脳がうまく働かなかったり、特に非同期型のオンデマンド形式だと課題は締め切り直前にすることがほとんどになりました。(ID6)

私には授業そのものも実際に対面で受けるよりも授業の内容を理解しづらいように感じました。ただ教員がレジュメや教科書に沿って説明している内容を私たちが一方的に聞いているだけなので、対面授業の時のようにその場の空気感で先生が説明の仕方を変えてくれたり、詳しく話したりといったことができず、機械的な印象を受けました。また、集中力も続きにくかったです。そのため、授業を受けた後も、自分が学習しているという感覚があまり感じられず、微妙な感覚のまま、また課題に取り組むという繰り返しで全てにおいてフワフワしているというか、自分の中に何か残ったのかどうか不安に感じました。(ID1)

授業を行う教員に対しての不満や改善を求める記述も、多くみられた。教員によって、授業形態や教材の提供の仕方、課題の提出方法や期限などもそれぞれであり、学生にとっては「質が低い」と感じる授業がある（32件）一方、課題の提出方法や期限などは統一性を持たせてほしい等（11件）の不満等が見られた。

また、遠隔授業のために直接質問できないことや、個別のサポート体制の乏しさに不満が見られた。

先生によって授業や授業形態の質が本当にピンからキリだと感じます。生徒からのコメントをたくさん取り上げて議論や雑談を展開してくださる先生がいれば、とても簡素な pdf だけの授業にとても難易度の高い課題を課す先生、授業の動画公開から次の日の昼にはもう課題提出を締め切ってしまう先生、実際の授業の曜日とは違う曜日に授業を公開して課題を出す先生もいます。
……
先生と生徒はメールでしか繋がることができないのに対応が雑だと感じることも、融通が利かなさすぎると感じることもあります。もっと丁寧なサポートを望みます。先生同士の連携がとれていなくて同じ課題を二回する羽目になったこともありました。正直これらの授業のためになぜ学費を払っているのかと思うと虚しくなります。(ID12)

手記で興味深いのは、学生は、前期よりも後期に授業の質が向上したと感じていることである（3件）。特に2020年度前期は、授業を提供した教員も初めての授業形態に戸惑っていた。学びの質向上については、その後、教職員での情報交換や研修等によって、改善した授業も多くあり、後期の授業については好意的な意見が見られた。

> 後期になって、遠隔授業の質が向上したように感じている。私のとる授業が、文学系から法学系に変わったこともあるかもしれないが、資料だけの授業から、資料プラス先生が喋っている動画という授業が多くなった。喋りがあった方が、言いたいことも伝わりやすいし、授業や先生の雰囲気が分かる。また、フィードバックをくださったり、同じ授業をとっている人の意見をまとめてくださったりする授業も増えた。そのことがすごくありがたい。(ID10)

また、少数意見ではあるが、遠隔授業を通じ、単位取得と専門科目を学ぶことの意味を問う学生も見られた。ある学生は、単位を取得するという意味では、遠隔授業を受講することに精神的な負担はないが、遠隔授業では内容が乏しいと感じている。学生は、遠隔授業を反面教師として、大学教育の本質は「人間が対面で行うべきもの」との考えに至っている。

> 単位を取得することに重点を置くならば、課題さえ提出できればよいので、個人的に遠隔授業は楽だと思います。私は大学で人と話すことがあまりないし、元々一人でも平気な性格なため、人とコミュニケーションが取れないからといって辛いとも思わないし、人と関わる精神的負担が軽減された点については良かったと感じています。ですが、今年大学で何を学んだのか、人に聞かれても上手く答えることができないと思います。知識が身についた自覚はなく、単位のために課題を提出し続けたような感覚です。教員の中には、授業と言えるのか分からないような、質の低い授業を提供してくださる方がいらっしゃいました。大学生なのだから、勉強は自分でやれと言われているような気がして辛かったです。この点については、大学は大学としての機能を果たしているのか、疑問に思うこともありました。本当に学ぼうとするならば、教育はやはり、人間が対面で行うべきものだと改めて思いました。(ID2)

一方、遠隔授業について、受講場所を選ばないことや通学に係る時間的、経済的負担がないことをメリットと感じている学生も見られた（22件）。

遠隔講義と対面講義の最も顕著な相違点は、受講場所を受講者自身が選べるという点である。これによって、決められた開講場所に向かうために費やしていた交通費、時間が削減できる。私の場合は自宅から大学まで自転車で片道10分、公共交通機関で移動する場合は路面電車を使用するため160円が必要だが、自宅で受講できたためそれらを家事や軽食などに利用することができた。また外出するためには、身だしなみを整えたり講義に必要なものを準備したりする必要があるが、それらも最小限で済む。これら種々の作業や時間、金銭を節約できることは合理的であるだけでなく心理的余裕にもつながり、昨年と比べて学習時間が飛躍的に伸びた。具体的には、一週間における講義に直接関係のない学習時間が8時間ほど向上した。(ID4)

愛媛大学法文学部ではインターネット会議サービスである Zoom 等を用いた同期型の遠隔授業と、学修支援システムによるメールや大学向け学習システム Moodle3.5を用いた非同期型の遠隔授業を提供したが、それぞれの授業形態のメリットを述べている学生もいた。同期型であれば、直接教員に質問することができることをあげるが、一方でパソコンで顔を映し出さずに受講できることもメリットとして評価していることには、留意が必要である。非同期型の授業では、提供された教材の動画を理解できるまで視聴できることを、メリットとしてあげる。また、受講時間を選ばないこともメリットとして挙げている。なお、その結果アルバイトが可能になったとの内容にも留意が必要であろう。

Zoom を用いた同期型授業のメリットは、カメラをオフにして参加することが出来たため、先生に当てられた時も対面授業の時ほど緊張せずに発言することが出来る事だと感じた。私は発表が苦手なため、カメラオフによって安心して授業に参加することが出来た。特に、大学に入ってから初めて学習する基礎朝鮮語の授業は、不安が大きかった分、カメラをオフにして取り組める点はとても心強かった。また、先生に対して質問があった時は個別にチャットを送ることも出来るため、その点もよいと感じた。

……

Moodle を用いた非同期型授業のメリットは効率よく学習に取り組むことが出来る点だ。期限内なら何度も視聴することが出来るため、一回見ただけだと理解できなかった所を繰り返し視聴することで理解につなげることが出来た。特に、私は1回生だから共通教育の授業が多かったのだが、苦手な理系科目の授業の時は計算の過程やグラフの作成方法などを確認しやすくて助かった。また、自分の都合のいい時間に取り組むことが出来る点もメリットとして挙げられる。これにより、アルバイトにも時間を割くことが出来るため、一人暮らしをしている自分にとっては助かった。(ID11)

遠隔授業のデメリットの中には、「環境・必需品に不備がでた（10件）」という記述もあった。先行研究（錦織2020）によれば、「コロナ禍における学修弱者への支援な

しに、そして場合によっては教育者の自己アピールのためにオンライン教育を展開することは、教育に似て教育に非ず、パワー・ハラスメントにすらなる可能性もある」と、批判しているが、今回の手記の中にも、下記のようにオンライン授業の受講に必要な通信環境の整備が整っていないため苦労した記述が目立った。

遠隔授業実施の発表が物凄く急だったので、スペックの低いパソコンを使っている自分にとっては授業を受ける際に苦に感じることも多々ありました。それこそ家の Wi-Fi 環境だってそこまで良いものではないし、ヘッドセットやカメラも持ち合わせていなかったので、自分で調達してなんとかやりくりしたのを覚えています。(ID3)

同期型で大変だったのは ZOOM で熱くなりがちなパソコンの処理落ちだった。扇風機の風を当てたり iPhone に変えたりと快適な環境を探した。非同期型では課題や講義を忘れないようにスマホのリマインダーを活用した。(ID14)

また筆者らが2020年10～12月に実施したアンケート調査の結果でも、遠隔授業を受ける際の障害を聞いたところ、63.7％の学生は「障害になることはなかった」としつつ、残りの学生は、自宅の通信環境が悪い、PC 等の性能が低い、1人になれる環境がない、操作方法が分からない、自分の PC が無い等、オンライン授業に対して不具合を感じていた結果がでた。

特に1回生は、以下のように辛かった内容の記述が多く目立った。

僕の授業はすべて遠隔授業でした。僕に限らず、かなりの数の大学生は大学に入ってからパソコンを本格的に触ると思うのですが、全然触ったことの無いパソコンを使って授業を行うのはものすごくつらかったです。さらに、操作を一つ間違えただけで課題を不十分な状態で提出してしまったことが何度もあり、そのほとんどは修正が効かないものだったので成績も全然ダメな評価しか取ることが出来ませんでした。対面だったら成績はもっと良かったのだろうと思いました。(ID7)

さらに慣れないオンライン就活をしながらの4回生も、長い時間 PC 等の画面を見ることによって体調や心身のバランスを崩しているとみられる記載があった。

就活のメールにさらに大学の講義ごとのメールが重なり、メールを開くことが憂鬱で仕方なくなる。いつも新着メールの数字におびえていた。授業はオンラインのため、90分パソコンを見続けることがしんどかった。目のピントが合わない状態が続いたので目薬とブルーライトカットの眼鏡を買った。7月頃からは許されるものはすべて自分のカメラをオフにして受講するようになる。(ID5)

今回、手記を寄せてくれた学生たちは、工夫をすることでなんとか乗り切っていたが、学生が解決するだけの問題とせず、今後は大学や教職員による「オンライン学修弱者」への配慮が不可欠であろう。

２)「日常生活」に関する内容分析

「日常生活」に関する記述では、最も記述が多かった「行動面」(55件)のうちでも、感染対策をするようになった変化について検討していきたい。コロナ禍で必要とされた「感染対策」のうち、感染対策グッズの入手困難に、苦労した記述がみられた(9件)。入手困難なだけでなく、マスクの着用をめぐって他人の目を気にしながら過ごす不安な様子が見られる。

買い物でもアルバイトでもマスクの着用とアルコールによる消毒が必須になり、気づけばその両方が入手困難になっていました。衛生面ではよくないと思いつつも、周りの人の目が怖いので、安心と安全の違いをひしひしと感じながら手持ちの不織布マスクを使いまわしました。(ID18)

「経済面」(27件)と「体調面」(21件)では、主に心配な点が書かれていた。「経済面」では、アルバイトも不本意にシフトを減らされ、食事や生活全般、切り詰めていた様子がうかがえる(21件)。また、保護者の収入の減少、あるいは自ら学費を支払っている学生は自身のアルバイト収入の減少等で、不安な状況になっていた。

自分のアルバイト含め、家族全体の収入が激減したのはもちろんのこと、それによって食生活が顕著に変わったように思います。それまではミールカードで自由に食事が取れていましたが、そもそも学校に行かなくなったので家で食べることが圧倒的に多くなり、そしてその食事も非常に質素なもので、冷凍食品1つだけということも当たり前でした。自分の家庭は全くもって裕福ではないので、様々なところを切り詰めて生活していたように思います。(ID3)

私は学費を自分で払うために、高校卒業と同時にアルバイトの面接を受けに行き採用をもらうことができ四月から働く予定だった。しかし採用取り消しとまではならなかったが、いつから働くことができるか分からない状況でバイト開始を待つことになった。七月になっても始まらず、学費が払えないと思い急いでバイトを探し始めた。そして今のバイト先を紹介してもらうことができ、学費も払うことができた。

……

妹が今年受験ということもあり、入学金や授業料が支払えないかもしれないからと両親と話し合いを何度もして進路を考えていた姿を見ることはとてもしんどかった。(ID8)

「体調面（21件）」では、「不調（17件）」の記述が多く、長引くコロナ禍で、2020年4月ごろの緊急事態宣言下の自粛生活から、5月になり宣言解除された（第一波）後に、外出やアルバイトを開始し、頑張りすぎてしまう様子や、環境が変わる中で、身体と心がついていけない状況が見られた。なお、「昼間の飲酒」にも言及されていることには注意を要する。一般に、コロナ禍での精神的な不安等からアルコール依存に陥る危険性も指摘されており、学生指導上、十分な注意が必要と思われる。

5月末ごろからバイトが再開し、さらにもう一つの店舗もオープンし、合計三店舗それぞれ違う飲食店でアルバイトをすることになる。外に出られることと他人に頼られることが久しぶりで喜びのあまりアルバイトをしすぎて体調不良になる。人生で初めて心療内科を受診する。家族や友達には言わなかった。アルバイトは唯一正当な理由で人と対面で関わることのできる機会であったため、もしアルバイトが無かったとしたらもっと精神的に辛かったと思う。4月から2、3か月の間に昼に一人でお酒を飲んだことが2、3回あった。(ID5)

また、1回生では、慣れない土地での初めての一人暮らしをしながら、学業との両立の難しさを吐露する者も見られた。2020年4月に最初の緊急事態宣言が出された当時は、全面的に遠隔授業が行われ、その期間は帰省した学生も多かった。以下のように、第2クォーター（6月11日～）から一人で生活をしながら、遠隔授業を継続することが困難だった様子が見られた。

第2クォーターに合わせて愛媛に戻ることにした。しかし、日常生活と学業の両立は容易なことではなかった。それは朝昼晩の食事を用意しながらレポートを書くということを甘く見ていたことに起因していた。第2クォーターになると晦渋な文献や資料を読んでレポートを書く授業が急増し、さらに、書き慣れないレポートに対する修正点を明記せずにあまり思わしくない評価を送られることがあったこともあり、私の精神は混乱した。その中でも自分で自分の食事の面倒を見なければならない。この混迷した生活を寂寞たるマンションの一室で齷齪と送っていた。(ID13)

「経済面」では、収入減少による生活苦に陥ったことが多かった（21件）が、なかには衛生面をはじめとして生活を振り返る契機とし、コロナ禍の経験を今後の糧にしようと前向きな気持ちを記述した者もいた。

コロナの影響で親からの仕送りに変化があり、お金が必要になったのでアルバイトを始めようと思っても雇ってくれないということがあった。結果的にアルバイトをせず、親からの仕送りのみで生活することになったが、内訳は食費がほとんどで、自分の趣味や日用品などはほとんど買えなかった。しかし、そのような生活を続けながらも良い点もあった。1つは無駄遣いをやめたことである。コロナ禍の前は自炊よりも外食で済ませることが多く、また訳もなくコンビニを利用することが多かったが、コロナ禍でお金の大切さを知り、自炊中心を心がけ、節約するようになった。加えて、感染症対策をしっかり行うようになった。コロナ禍になる前は手洗いうがいを行わず、マスクも使用していなかったが、コロナの影響で手洗いうがいに加えて消毒をするようになり、マスクも絶対つける生活に変わった。この2つはコロナ禍でなくとも大切なことなので、身につけることができてら〔ママ〕良かったと思う。(ID17)

特筆すべきは、1回生の「友人関係」についての記述である。多くが「自分だけ友達ができていないのではないか」といった不安や孤独な気持ちを吐露している。実際に友達がいないことの不安とともに、他の人と比べることにより、社会生活から疎外されている心境になっている不安がうかがわれる。1回生の場合は、通常でも、大学入学を機に、生活上の変化に適応することが成長課題であるが、多くは友人を持ちながら体験を重ねることで克服していく。コロナ禍では、友人を作ることや大学生活上での実経験を蓄積することが困難であったことがわかる。

第1クオータは1人も友達ができなかった。特にその時期に Twitter や Instagram を見ていると、SNS 上のつながりから実際に会って友人をつくったり友人関係を広げている人、また、はやめにサークルなどの活動団体に所属してそこで友人をつくっている人も何人か見られ、友人が1人もできていない自分とそういった人たちを比べて、この先ちゃんと友人ができるのかとても心配になった。また、自分が把握していないだけで他にも友人同士のグループができているのかもしれない、と思うと、「対面で勉強がしたいという気持ち」と「友人ができず悲しい思いをするなら対面でなくてもいいという気持ち」の両方があった。(ID15)

3）「その他」に関する内容分析

「学生の気持ち」カテゴリーでは、1回生と上回生で分かれる記述となった。

今後の抱負（7件）やメリット（7件）に関しては、上回生の記述が多かったが、デメリット（10件）は1回生の記述が多かった。デメリットの例として、自粛生活において SNS 等のネットニュースを見る機会が多くなることで、コロナウイルス感染拡大前のようなキャンパスライフはもう送れないのではないかという漠然とした不安を感じているようだった。

SNS では社会における大学生の扱いについての議論が活発化していたが、コロナの感染状況の悪化により今までの大学生活との截然たる差を埋めるまでには至らなかった。むしろ、私はこういった議論を見たことにより、今の学生生活とコロナ前の学生生活との間に大なる逕庭があるのだと再認識してしまい、送ったこともないのに抱いてしまっている理想の大学生活が送れないまま4年経ってしまうのではないかという不安を感じてしまう結果となった。(ID13)

今後の抱負（7件）としては、2回生の夏休みに行く予定だった留学が行けなくなったが、海外渡航できるようになる日に向けて、日々、語学学習を続けているという以下のような抱負を述べている。

就職活動までに一度は留学するという自身の目標が崩れ去った今、自分はいつか海外渡航できることを夢見て毎日語学に取り組んでいます。おそらく当面の間は自粛することになるとは思いますが、それまでは日々努力を積み重ね、英語はもちろんのことフランス語も流暢に喋れるようになるという理想の自分を描きつつ、モチベーションを維持し続けていきたいです。(ID3)

また、2回生以上では夏季休業中に行われる「インターンシップ」や、4回生が行う「就職活動」への記述が多くみられた（18件）。コロナ禍でインターンシップが中止になった記述が多く、就活もオンラインでの就活を余儀なくされ戸惑いが見られた。たとえば、「就活」での「学生の気持ち（5件）」は、次のような記述だった。ともに4回生であるが、オンラインでの就職活動に不安を持ちながら試行錯誤しつつ順応していこうと進めていたようだ。

インターンシップは3月に7～8社予定していたがすべて中止になったので、就活をどのように進めていいのか全く分からなくなった。就活の面接はすべてがオンラインで行われた。家の中でスーツを着てオンオフをはっきりするのがとても違和感があり疲労感が強かった。会社の場所が県外だったとしても二次面接以上は直接できるのが一番いいと思った。（ID5）

オンラインでの就職活動は大変だった。対面ではなく画面越しなのにこちらのことがきちんと会社の方に伝わっているのか不安だったし、面接中にネットワークが不安定になり繋がらなくなったらどうしようと不安に思うこともあった。就職活動中にコロナウイルスに感染しては人生が終わるとまでかんがえていたので、友達と会うことも控えていた。学校にも行けない状況のなか電話やラインでしか友達とやり取りしておらず、ストレスもたまっていた。唯一良いことといえば、オンラインで完結することにより交通費がかからなかったことだ。そのため、わざわざ遠くに足を運ぶ必要がなく、県外の企業にも目を向けてみたりもした。（ID9）

また、ある学生（2回生）は、2年後に迫っている就活について、状況の変化を受け入れ、新たな方向転換を考え将来を見据えているたくましい姿もうかがえる。

またコロナ禍を経て、自分の将来についてゆっくり考えることができたのもコロナ禍で得られたものの一つだと考える。私は元々、旅行業や航空会社への就職を希望していた。そしてそのための資格の勉強や大学での学びを進めてきていた。しかしコロナウィルスの感染拡大により状況は変わり、私の目指していた航空会社は新卒採用を中止、また旅行会社も大きな打撃を受けた。このような現状を受け、今まで全く視野になかった職種に目を向けるようになった。これまでは視野になかった分、目指していた職種以外について調べ、考えることはなかったが、選択肢を増やすという意味でも様々な職種について知るようになった。その中で自分の興味のある職種も見つかり、今はその新たな夢を叶えるための学びを始めている。（ID16）

## 6．今後の課題

本研究は、コロナ禍の学生生活を理解するために、愛媛大学法文学部学生によって書かれた手記を分析したものである。しかし、これら手記は、法文学部全学生のわずかな数に過ぎず、また、時々刻々と変化する状況で、1年間を通じて学生のプロセスや変化を捉えることはできていない。

しかしながら、そうはいっても、コロナ禍でたくましく、またしなやかに、さらに試行錯誤しながら、大学生活を過ごしている学生の経験や思い等の一部を公表できたと自負している。

愛媛大学では2020年度の前期は教員と学生が対面することのないまま終了し、後期も全面的な対面授業にはならないまま2021年度を迎えた。今なおオンラインも併用した授業を行っている（2021年6月時点）。今後、継続的に調査することにより、長期化するコロナ禍における学生の様々な変化も把握していきたい。

**謝辞**

手記を寄せてくれた法文学部学生の方々ならび手記募集に携わって頂きました法文学部の教員に感謝の意を表します。この研究は、令和2年度法文学部戦略経費、令和3年度法文学部戦略経費、及びJSPS科研費19K21723の助成金交付により研究が遂行されたものです。

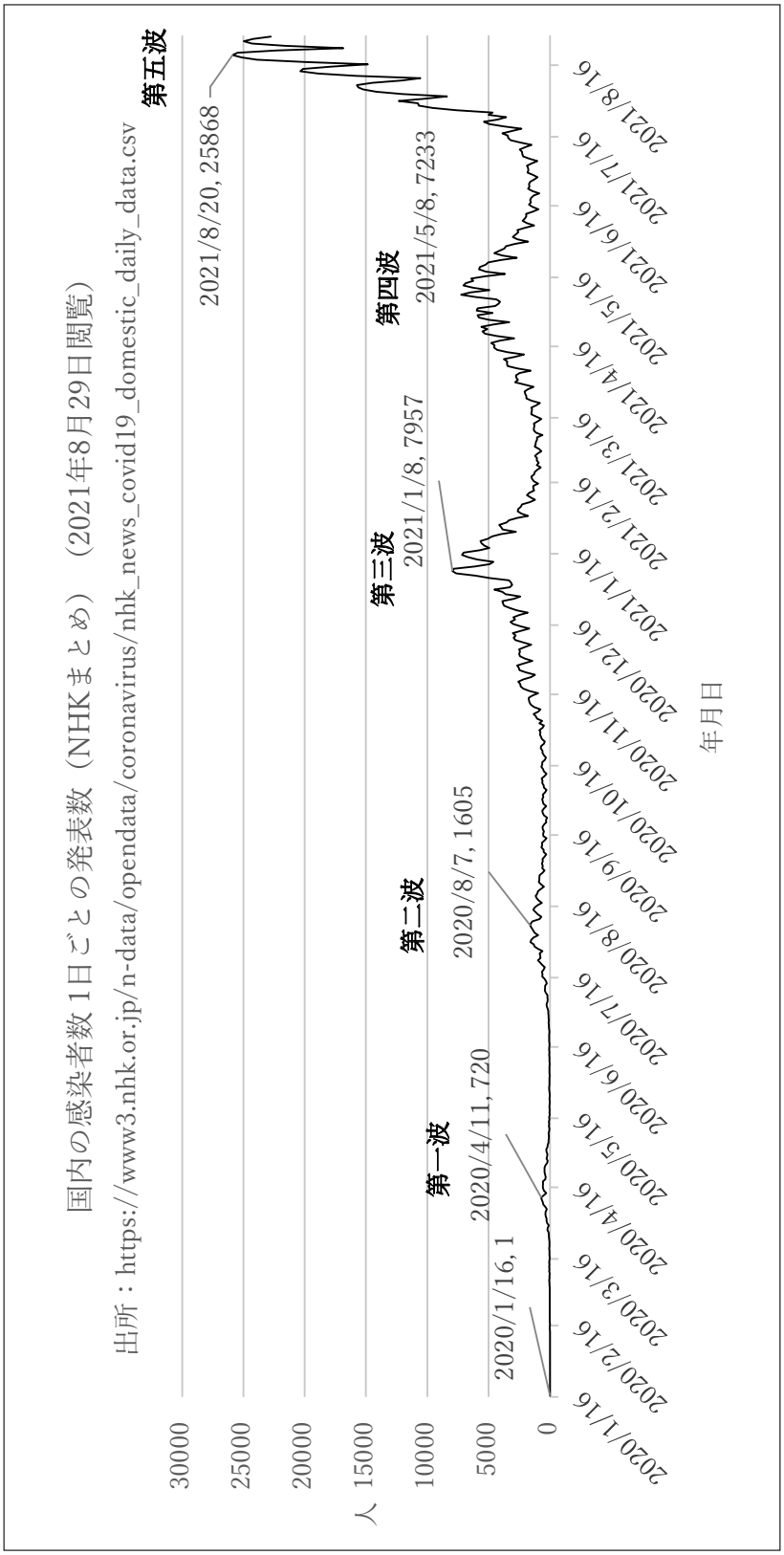
**参考文献**

⑴　クリッペンドルフ（1989）『メッセージ分析の技法：「内容分析」への招待』（三上俊治・椎野信雄・橋元良明訳）勁草書房.

⑵　錦織　宏，西城卓也（2020）「オンライン教育の展開における学修弱者への配慮」，『医学教育』51,309–311.

⑶　森ウメ子，大橋千栄子（2008）「手記から学ぶ病児の理解ー学生の読後感レポートからの分析ー」，『太成学院大学紀要』10,121–131.

付録：図Ａ　国内の感染者数　1日ごとの発表数（NHK まとめ）



# コロナ禍における法文学部の
# 被災記録の収集と保存Ⅳ

## ― 2021年度学生を対象としたアンケート調査の単純集計結果 ―

Collection and Preservation of Records of Disaster Experiences of Students, Faculty and Staff in the Faculty of Law and Letters, Ehime University during the Coronavirus Pandemic（IV）: A summary statistics of a questionnaire survey of students in Academic Year 2021-22

青木　理奈・鈴木　　静・福井　秀樹
小佐井良太・石坂　晋哉・太田　響子
池　　貞姫・十河　宏行・中川　未来

### １．はじめに

新型コロナウイルスの感染蔓延の長期化は、大学生にどのような影響をもたらしているのだろうか。新型コロナウイルス感染蔓延は、多くの人にとって予期しえなかった深刻かつ長期にわたる未曽有の災厄である。愛媛大学も、急速に進む感染拡大に対応して、教育提供体制が激変して2年目を終えようとしている。

今回の新型コロナウイルスのような全世界規模で起きている災厄は、記録や教訓を収集、保存し、継承していくことが次なる災厄への備えになるだろう。なにより、今のコロナ禍において刻一刻と事態が変わっていく中、時系列で保存できるよう、記録はコロナ禍の初期から継続的に収集することが重要である。よって、本プロジェクトは、今回の未曽有の事態に際し、法文学部学生の生活上の被害実態を明らかにするとともに、法文学部の緊急時対応および遠隔授業等実施に係る記録を収集し、データベース化することを最終目的とする。

昨年度、愛媛大学法文学部の学生を対象としたアンケートの実施(1)のほか、学生手記を収集、分析(2)、座談会を開催(3)することにより、昨年度からの学生生活を分析し

記録として保存してきた。

本調査では、コロナ禍における大学生の実態を継続的に探求し、今年度の学修状況や生活状況への影響を把握することを目的とする。そして、今年度のコロナ禍における学生生活の記録として保存し、その一部につき公表することで2020年度と2021年度の比較をし、検討していくこととする。

## ２．新型コロナウイルス感染拡大期における愛媛大学法文学部での遠隔授業の実施

### ⑴　愛媛県における新型コロナウイルス感染状況と愛媛大学の対応

新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づき、第1回（2020年4月7日～5月25日）、第2回（2021年1月8日～3月21日）、第3回（2021年4月25日～9月30日）の「緊急事態宣言」が発令されたが、愛媛県はこのうち第1回の期間中、2020年4月16日から5月14日まで「緊急事態宣言」の対象地域に含まれた。第2回、第3回の際は、愛媛県は対象地域には含まれなかったものの、県独自の警戒レベル3段階における最高レベルの「感染対策期」が3度繰り返されるなど、引き続き県内でも強い警戒態勢が維持された。

令和3（2021）年度、愛媛大学のBCP（事業継続計画）ステージは、4月9日に「イエロー」から「オレンジ」に引き上げられ、10月6日に「イエロー」に引き下げられ、11月18日に「ライトイエロー」にまで引き下げられた（2021年11月26日現在）[1)]。

この間、愛媛大学では2021年7月～9月に学生・教職員等に対するワクチンの職域接種が実施された。また、生活困窮に陥った学生の支援を目的として、支援金の給付が行われた[2)]。加えて、松山市や大学生協等から学生に対する食糧・物資支援も行われた。これらのお知らせは修学支援システムのメールにより学生に通知された。

---

1）愛媛大学関係者のコロナウイルス感染は、令和3（2021）年11月24日までに学生等33人、教職員7人、合計40人であると公表されている。

2）愛媛大学では令和2（2020）年5月7日に、1人30,000円の「愛媛大学緊急支援給付金」の給付を行うこととし、5月8日～5月15日の募集期間に1,219名からの応募があり、753名への給付を決定、うち723名に対し、5月29日に給付が実施された。令和3（2021）年6月2日には、1人5万円の「新型コロナウイルス感染症対応緊急支援（給付型）奨学金」の募集を開始（～6月30日）、1,000人程度への支援を予定していたが、406名からの申請があり、383名への給付を決定、8月6日に給付が実施された。同年10月14日には、申請資格範囲を拡大し、再度、「新型コロナウイルス感染症対応緊急支援（給付型）奨学金」の募集を開始（～11月5日）、650人程度への支援を予定していたが、800名からの申請があり、784名への給付を決定、12月17日に給付が実施された。

### ⑵　愛媛大学法文学部の学生数

2021年11月現在の愛媛大学法文学部の学部生数、大学院生数は、以下のとおりである。学部生合計は1,618人、大学院生数は38人である。学部生の内訳は、昼間主法学・政策学履修コースが333人、昼間主人文学履修コースが350人、夜間主法学・政策学履修コースが157人、夜間主人文学履修コースが172人、グローバル・スタディーズ履修コースが216人（昼間主のみ）であり、改組前の旧総合政策学科の昼間主が3人、夜間主が4人、昼間主人文学科が1人である。大学院生の内訳は、人文社会科学研究科院生が29人、改組前の法文学研究科院生が9人である。学部生と院生のうち、留学生は23人である。

### ⑶　愛媛大学法文学部における授業実施状況

愛媛大学法文学部は、2020年度前学期の第1クォーター期間から第2クォーター期間の授業形態は、遠隔授業を実施し、対面授業は行わなかった。2020年度後期の第3クォーター期間から第4クォーター期間の授業形態は、対面授業を可能な限り開講するとともに、遠隔授業も実施された。遠隔授業は、提供方法の違いからAとBとに分けられ、遠隔授業Aは動画等のネット配信による。遠隔授業Aもさらに、①同期型（リアルタイム型）と②非同期型（蓄積型）に分かれる。①同期型（リアルタイム型）は、Zoom、Webexなどのネット会議システムを活用して、遠隔地の学習者に対してリアルタイムで授業を行う形態である。②非同期型（蓄積型）は、Moodleなどのe-learningシステムを活用して、教員があらかじめWebサーバ等に蓄積した教材に対して、学習者がアクセスして学習する形態である。遠隔授業Bは、修学支援システム等のメールにより課題を与え、指導する授業形態である。

上記に基づく2020年度の授業数の内訳は、表1のとおりである。なお、授業形態は、以下の3種を組み合わせて実施することもあるので、合計数とは一致しない。

表１．2020年度授業数の内訳[3)]

| 2020年度 | 合計 | 対面授業 | 遠隔授業Ａ① | 遠隔授業Ａ② | 遠隔授業Ｂ |
|---|---|---|---|---|---|
| （昼間主） | | | | | |
| 1Q | 180 | | 48 | 49 | 115 |
| 2Q | 192 | | 49 | 44 | 116 |
| 3Q | 175 | 91 | 72 | 55 | 19 |
| 4Q | 165 | 80 | 73 | 51 | 18 |
| 前期 | 230 | | 37 | 90 | 109 |
| 後期 | 272 | 53 | 75 | 107 | 38 |
| （夜間主） | | | | | |
| 1Q | 41 | | 9 | 11 | 26 |
| 2Q | 41 | | 8 | 9 | 26 |
| 3Q | 50 | 20 | 21 | 19 | 8 |
| 4Q | 50 | 20 | 21 | 20 | 8 |
| 前期 | 67 | | 6 | 17 | 31 |
| 後期 | 76 | 11 | 22 | 41 | 9 |

（愛媛大学教育支援課法文学部チームより提供）

2021年度前学期の第1クォーター期間から第2クォーター期間の授業形態は、「遠隔授業を積極的に行いつつも、感染防御対策を徹底しながら、対面授業も可能な限り開講」することとしていたが、4月22日から「（特例的な授業を除き）遠隔授業のみ」に変更された。この結果、演習系科目を中心に対面授業とし、段階的に講義系科目も対面授業を拡大した。対面授業数と遠隔授業数の内訳は、表2のとおりである。

後学期の第3クォーター期間（9月24日～12月3日）は「遠隔授業を基本とするが、徹底した感染防御対策のもと対面授業も可能な限り開講」とされた。第4クォーター期間（12月4日～3月31日）は「徹底した感染防御対策のもと対面授業を実施」する方針が示されている（2021年11月26日現在）。

3）愛媛大学法文学部では、セメスター制とクォーター制を併用している。

表２．2021年度授業数の内訳

| 2021年度 | 合計 | 対面授業 | 遠隔授業Ａ① |
|---|---|---|---|
| （昼間主） | | | |
| 1Q | 136 | 94 | 42 |
| 2Q | 145 | 106 | 39 |
| 前期 | 280 | 107 | 173 |
| （夜間主） | | | |
| 1Q | 44 | 28 | 16 |
| 2Q | 44 | 25 | 19 |
| 前期 | 65 | 32 | 33 |

（愛媛大学教育支援課法文学部チームより提供）

## ３．対象と方法

本アンケート調査の対象者は、法文学部の学生であり、調査期間は、2021年10月22日～11月22日である。

調査方法は、インターネットでの無記名自記式アンケートを採用した。プロジェクトに所属する教員から学生へ周知するとともに、教育支援課法文学部チームから法文学部の学生へ一斉送信による周知を行った。

最終的に231名から回答が得られた。内容を精査したところ、すべてが有効回答であった[4)]。

アンケート内容は、⑴ 回答者の属性について5項目、⑵ 遠隔授業においての学修面が8項目、⑶ コロナ禍での大学や大学以外からのサポート面3項目、⑷ 長期化するコロナ禍での生活面が7項目、合計23項目から構成されている。アンケートの回答は必須とする選択方式の項目と、必須ではない自由記述の項目を作成した。アンケートを資料1に示す。

4）回答の精査に際して、①自由記述を含め回答がすべて同じもの、②自由記述は未記入だが他の回答が全て同じであり、かつ、回答送信時間が近接しているもの（5分以内）の2つについては、重複回答とみなして削除を予定していたが、該当する回答はなかった。

## ４．倫理的配慮

本調査において、対象者に対する倫理的配慮を以下のようにした。

⑴　不必要な負荷や負担への配慮：回答は任意でありかつ匿名である。対象者に不必要な負荷や負担は生じない。

⑵　個人のプライバシー保護への配慮：匿名で回答する。アンケート結果についても守秘義務を厳守し、個人のプライバシーを厳重に保護する。

⑶　協力拒否への不利益への配慮：回答は任意であり、協力拒否への不利益は生じない。

⑷　調査協力への理解や同意：担当教員からの説明およびアンケート冒頭に調査協力への理解を求める。

その他、アンケート作成において、個人情報が含まれないようにした。参加者には調査の趣旨が十分伝わるように冒頭に説明を書いた上で、参加は任意であることを説明し、アンケートに回答し送信された時点で同意とした。

## ５．結　果

本調査は、⑴ 回答者の属性、⑵ コロナ禍の学修面について、⑶ コロナ禍でのサポート面について、⑷ コロナ禍の生活面について、学生の状況を把握した。

### ⑴　回答者の属性

１）回答者231人の在籍区分（身分）は、「一般学生」224人（96.9%）、「社会人」5人（2.2%）、「留学生」2人（0.9%）である（図1）。

２）性別は、「男性」77人（33.3％）、「女性」152人（65.8％）、「その他」2人（0.9%）である（図2）。

図１「在籍区分」

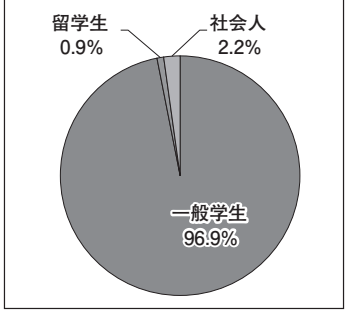
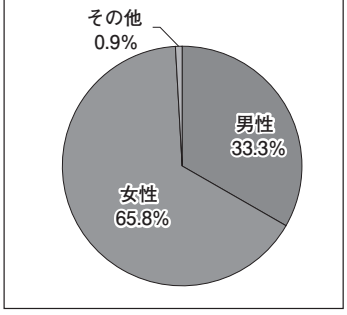
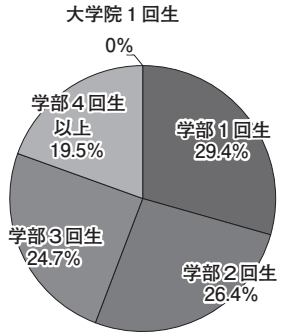



図２「性別」



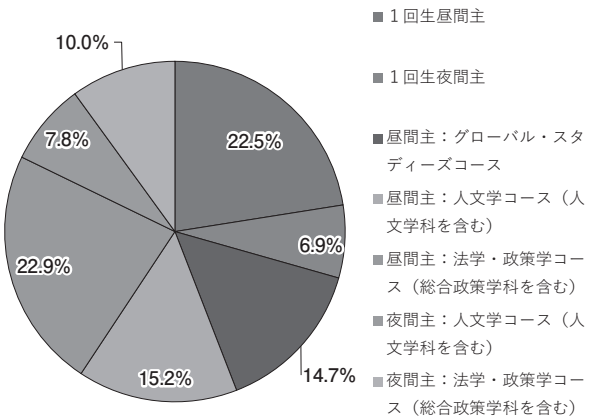
3）学年は、「学部1回生」68人（29.4％）、「学部2回生」61人（26.4％）、「学部3回生」57人（24.7％）、「学部4回生以上」45人（19.5％）、「大学院1回生」0人、「大学院2回生以上」0人である（図3）。

図３「学年」



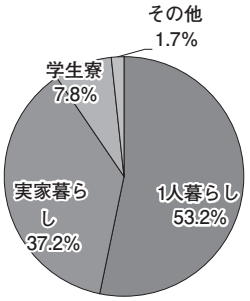

4）所属コースは、「1回生昼間主」52人（22.5％）、「1回生夜間主」16人（6.9％）、「昼間主：法学・政策学コース（総合政策学科を含む）」53人（22.9％）、「夜間主：法学・政策学コース（総合政策学科を含む）」23人（10.0％）、「昼間主：人文学コース（人文学科を含む）」35人（15.2％）、「夜間主：人文学コース（人文学科を含む）」18人（7.8％）、「昼間主：グローバル・スタディーズコース」34人（14.7％）である（図4）。

図４「所属コース」




5）2021年度前期の居住形態は、「1人暮らし」123人（53.2％）、「実家暮らし」86人（37.2％）、「学生寮」18人（7.8％）、「その他」4人（1.7％）である（図5）。

図５「2021年度前期の居住形態」



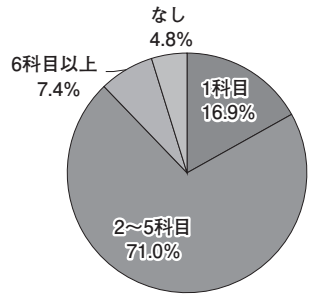
### ⑵　コロナ禍の学修面について

前期（1Q/2Q）における法文学部と共通教育の遠隔授業について単純集計の結果を示す。

#### 1）Zoom 等を用いた同期型授業数

「Zoom 等の同期型授業は何科目ありましたか」の質問に対し、「1科目」39人（16.9%）、「2～5科目」164人（71.0%）、「6科目以上」17人（7.4%）、「なし」11人（4.8%）である（図6）。

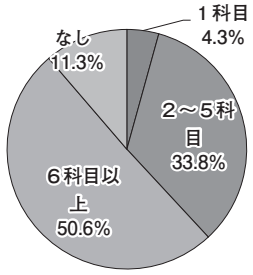
図６「Zoom等を用いた同期型授業数」




#### 2）Moodle を用いた非同期型授業数

「Moodle を利用した非同期型授業は、何科目ありましたか」の質問に対し、「1科目」10人（4.3%）、「2～5科目」78人（33.8%）、「6科目以上」117人（50.6%）、「なし」26人（11.3%）である（図7）。

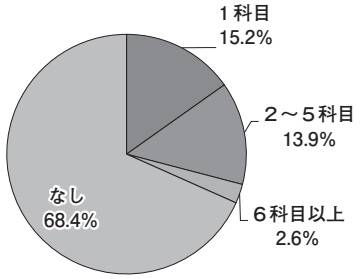
図７「Moodleを用いた非同期型授業数」




#### 3）修学支援システムやメールを利用した非同期型授業数

「修学支援システムやメールのみを利用した非同期型授業は、何科目ありましたか」の質問に対し、「1科目」35人（15.2%）、「2～5科目」32人（13.9%）、「6科目以上」6人（2.6%）、「なし」158人（68.4%）である（図8）。

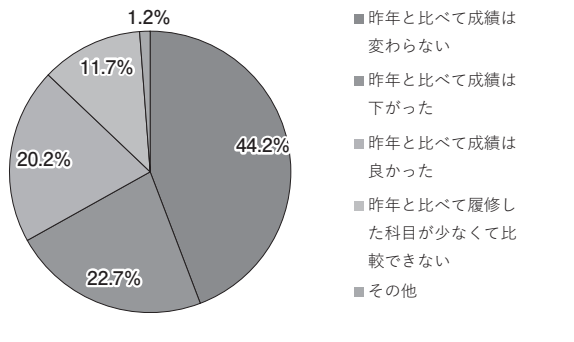
図８「修学支援システムやメールを利用した非同期型授業数」



### 4）前期の成績に対する学生の主観的評価

「昨年までと比較して、前期の成績（単位取得数、評価）はいかがでしたか」の質問に対し、「1回生なので昨年と比べられない」68人（29.4％）を除く163人の回答は、「昨年と比べて成績は良かった」33人（20.2％）、「昨年と比べて成績は変わらない」72人（44.2％）、「昨年と比べて成績は下がった」37人（22.7％）、「昨年と比べて履修した科目が少なくて比較できない」19人（11.7％）、「その他」2人（1.2％）である（図9）。

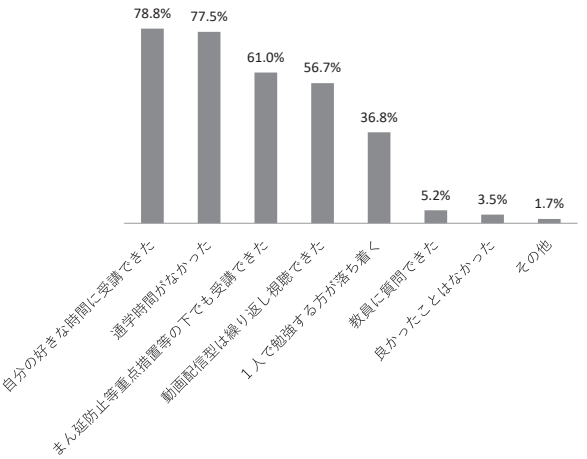
図９「昨年と比較した前期の成績（学生の主観）」




### 5）遠隔授業の利点

「遠隔授業で、良かったことがあれば教えてください（複数回答可）」の質問に対し、「自分の好きな時間に受講できたこと」182人（78.8％）、「通学時間がなかったこと」179人（77.5）、「緊急事態宣言、まん延防止等重点措置等の下でも受講できたこと」141人（61.0％）、「動画配信型の教材を繰り返し視聴できたこと」131人（56.7％）、「1人で勉強する方が落ち着くこと」85人（36.8％）、「教員に質問できたこと」12人（5.2％）、「良かったことはなかった」8人（3.5％）、「その他」4人（1.7％）である（図10）。

図10「遠隔授業の利点（複数回答可）」




### 6）遠隔授業の困難さ

「遠隔授業で、困ったことについて教えてください（複数回答可）」の質問に対し、「複数の科目の課題やレポート提出日が重なること」100人（43.3％）、「課題

やレポート提出の回数が多いこと」97人（42.0％）、「授業科目により授業方法（同期型または非同期型等）や教材提供方法（Moodle またはメール等）が異なり、分かりにくかったこと」94人（40.7％）、「出席している授業で、課題の提出がきちんとできているか、確認ができなかったこと」75人（32.5％）、「大学や担当教員からの授業に関わる連絡が遅かったこと」64人（27.7％）、「課題やレポートの書き方が分からなかったこと」59人（25.5％）、「教員による説明が少なく授業内容を理解できなかったこと」55人（23.8％）、「通信環境の関係で、同期型の授業受信が不安定だったこと」53人（22.9％）、「教材提供不十分で、授業内容を理解できなかったこと」36人（15.9％）、「困ったことはなかった」31人（13.4％）、「大学や担当教員からのメール連絡が頻繁であったこと」28人（12.1％）、「科目教員と連絡がつかなかったこと、つきにくかったこと」22人（9.5％）、「その他」10人（4.3％）である（図11）。

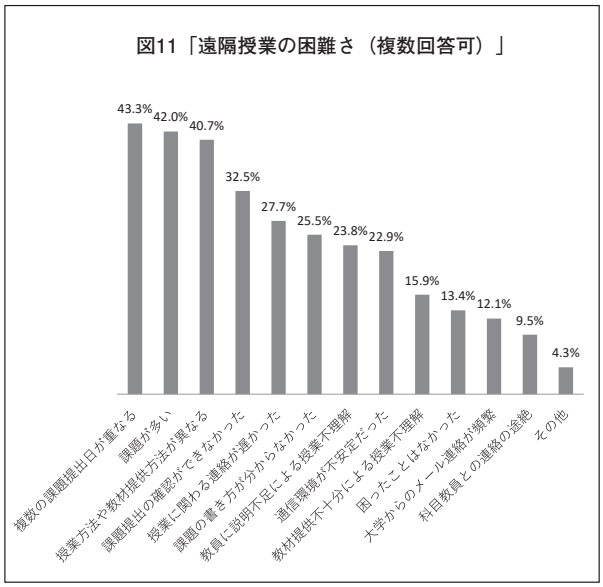


図11「遠隔授業の困難さ（複数回答可）」

### 7）遠隔授業を受ける際の障害

「遠隔授業を受けるのに障害になっていたことはどのようなことですか（複数回答可）」の質問に対し、「障害になることはなかった」148人（64.1％）を除く83人の回答は、「自宅の通信環境が整っていなかった（通信速度が遅い等も含む）」52人（62.7％）、「自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）の性能が低かった」31人（37.3％）、「自宅で自分1人になれる部屋（環境）がなかった」17人（20.5％）、「Moodle などの操作方法がわからなかった」8人（9.6％）、「自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）がなかった」1人（1.2％）、「その他」4人（4.8％）である（図12）。

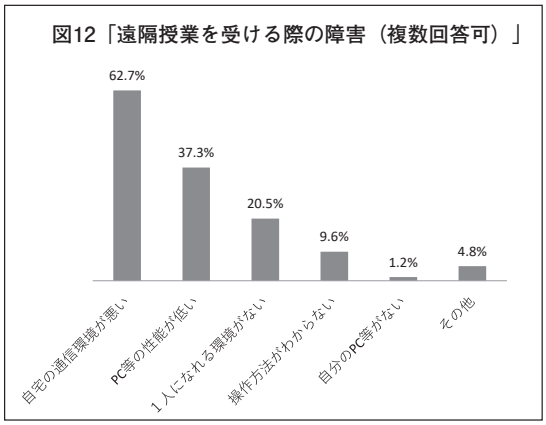
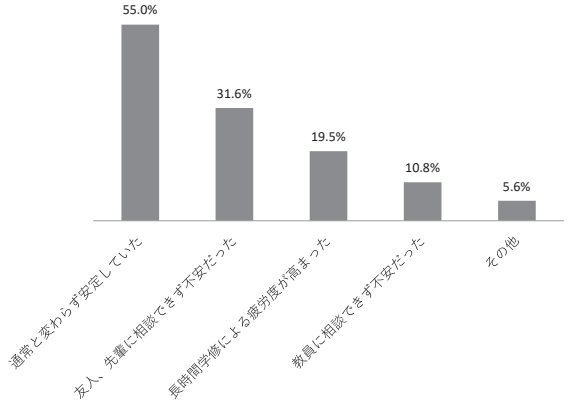


図12「遠隔授業を受ける際の障害（複数回答可）」

### 8）遠隔授業を受けていた時の気持ち

「遠隔授業を受けていた時の気持ちについて教えてください（複数回答可）」の質問に対し、「通常と変わらず、安定的に遠隔授業を受けることができた」127人（55.0％）、「困ったことを友達や先輩に相談できず、不安になった」73人（31.6％）、「昨年以上に長時間の学修を行ったため、疲労度が高まった」45人（19.5％）、「困ったことを教員に相談できず、不安になった」25人（10.8％）、「その他」13人（5.6％）である（図13）。

図13「遠隔授業を受けていた時の気持ち（複数回答可）」



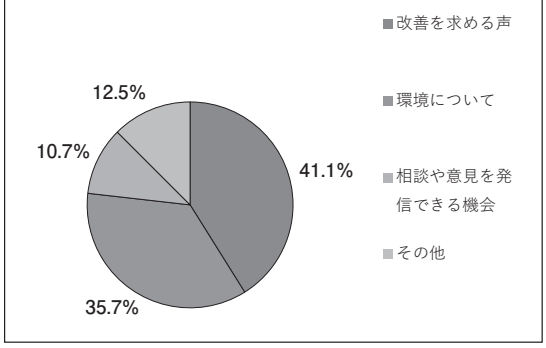

### ⑶ コロナ禍でのサポート面について

コロナ禍での大学や大学以外からのサポート面について単純集計を示す。

### 1）遠隔授業を行う際に必要とされる大学からのサポート（自由記述）

「遠隔授業の際に、あったら良いと思う大学からのサポートはどのようなものでしたか」の自由記述項目に対し、回答者は56人（24.2％）である。得られた回答（複数回答有）を分類した結果、「システム機能改善、授業方法や指導内容について改善を求める声」23人（41.1%）、サポートを求める具体的な回答が「環境についてのサポート」20人（35.7%）、「相談や意見を発信できる機会を設ける等のサポート」6人（10.7%）、「その他」7人（12.5%）である（図14）。具体的な回答を、資料2に示す。

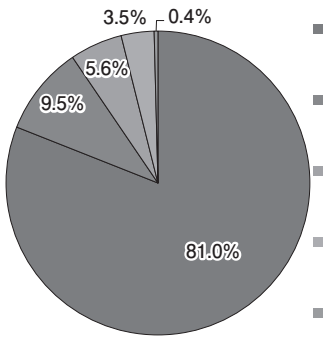
図14　「遠隔授業を行う際に必要とされる大学からのサポート（自由記述）」



### 2）大学独自の緊急支援の必要性

「これまで大学独自の緊急支援を受けたことがありますか」の質問に対し、「支援は受けていない、あるいは、必要なかった」187人（81.0％）、「支援を受け、満足している」22人（9.5％）、「支援を受けたかったが、知らなかった」13人（5.6%）、「支援を受けたくて応募したが、不採択だった」8人（3.5%）、「支援を受けたが、不満だった」0人、「その他」1人（0.4%）である（図15）。

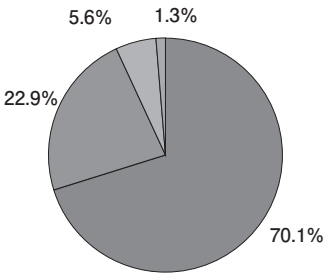
図15「大学独自の緊急支援の必要性」




### 3）松山市等からの支援の必要性

「松山市や大学生協等から学生への食糧支援、生理用品の提供などを受けたことがありますか」の質問に対し、「支援は受けていない、あるいは、必要なかった」162人（70.1％）、「支援を受け、満足している」53人（22.9%）、「支援を受けたかったが、知らなかった」13人（5.6%）、「支援を受けたが、不満だった」0人、「その他」3人（1.3%）である（図16）。

図16「松山市等からの支援の必要性」




## ⑷　コロナ禍の生活面について

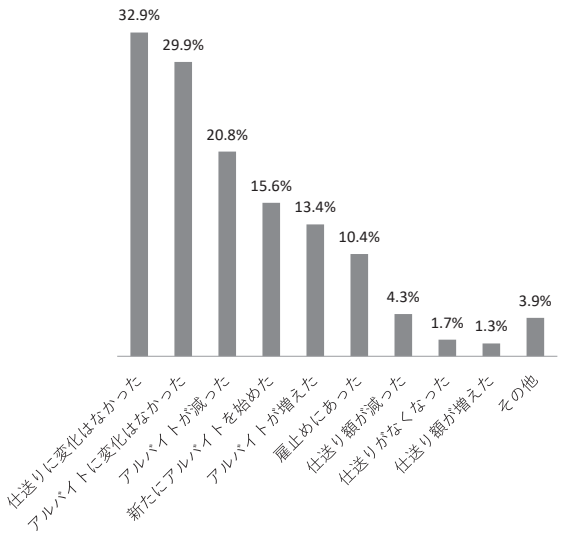
コロナ禍の生活面について単純集計の結果を示す。

### 1）コロナ禍の経済的影響

「前期（1Q/2Q）の遠隔授業期間において、どのような経済的な影響がありましたか（複数回答可）」の質問に対し、「保護者からの仕送りに変化はなかった」74人（32.9%）、「アルバイトに入る回数や時間に変化はなかった」67人（29.0%）、

「アルバイトに入る回数や時間が減った」48人（20.8%）、「新たにアルバイトを始めた」36人（15.6%）、「アルバイトに入る回数や時間が増えた」31人（13.4%）、「アルバイト先が休業したり雇止めにあった」24人（10.4%）、「保護者からの仕送り額が減った」10人（4.3%）、「保護者からの仕送りがなくなった」4人（1.7%）、「保護者からの仕送り額が増えた」3人（1.3%）「その他」9人（3.9%）、である（図17）。

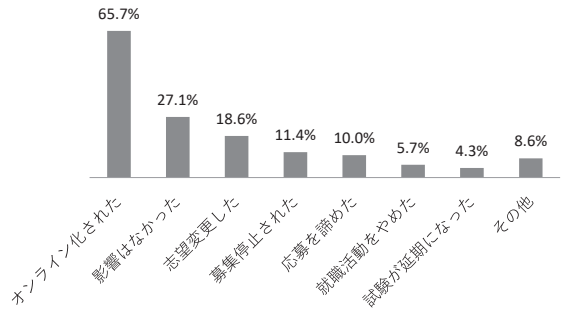
図17「コロナ禍の経済的影響（複数回答可）」




## 2）就職活動への影響

「就職活動にどのような影響がありましたか（複数回答可）」の質問に対し、「4回生以上ではない、または就職活動はしていない」161人（69.7%）を除く、70人の回答は、「Web面接など、オンライン化された」46人（65.7%）、「就職活動に変化はなかった」19人（27.1%）、「志望業界を見直した（変更した）」13人（18.6%）、「希望していた企業や自治体が募集を停止した」8人（11.4%）、「希望していた企業や自治体の応募を諦めた」7人（10.0%）、「就職活動をやめた」4人（5.7%）、「公務員試験や就職試験が延期になった」3人（4.3%）、「その他」6人（8.6%）である（図18）。

図18「就職活動への影響（複数回答可）」

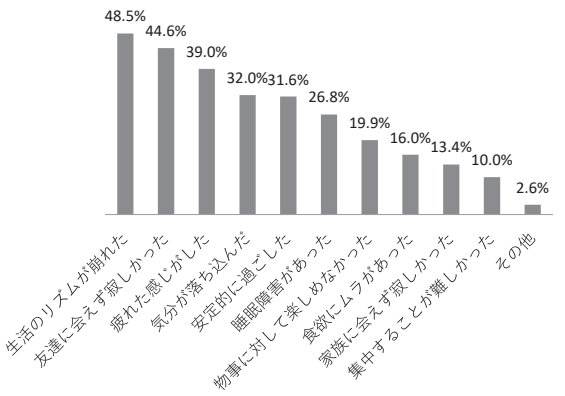



## 3）メンタルヘルスへの影響

「遠隔授業期間において、メンタルヘルスにどのような変化がありましたか（複数回答可）」の質問に対し、「生活のリズムが崩れた」112人（48.5%）、「友達に会えなかったり課外活動が行えず寂しかった」103人（44.6%）、「疲れた感じ

がした、または気力がなかった」90人（39.0%）、「気分が落ち込んだ」74人（32.0%）、「通常と変わらず、安定的に過ごした」73人（31.6%）、「寝つきが悪くなった、途中で目が覚めた、反対に眠り過ぎた」62人（26.8%）、「物事に対してほとんど興味が無くなった、楽しめなかった」46人（19.9%）、「食欲がなかった、あるいは食べ過ぎた」37人（16.0%）、「家族に会えず寂しかった」31人（13.4%）、「新聞やテレビを見ることなどに集中することが難しかった」23人（10.0%）、「その他」6人（2.6%）である（図19）。

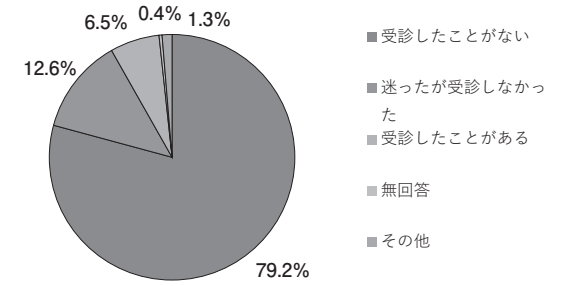
図19「メンタルヘルスへの影響（複数回答可）」




### 4）医療機関の受診について

「長期化するコロナ禍で、メンタル不調により医療機関やカウンセリングに行きましたか」の質問に対し、「受診したことがない」183人（79.2%）、「迷ったが受診しなかった」29人（12.6%）、「受診したことがある」15人（6.5%）、「無回答」1人（0.4%）、「その他」3人（1.3%）である（図20）。

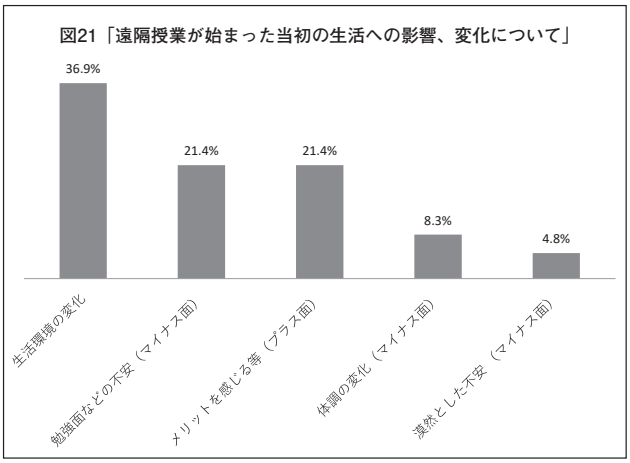
図20「医療機関やカウンセリングの受診」




### 5）遠隔授業が始まった当初の生活への影響、変化について（自由記述）

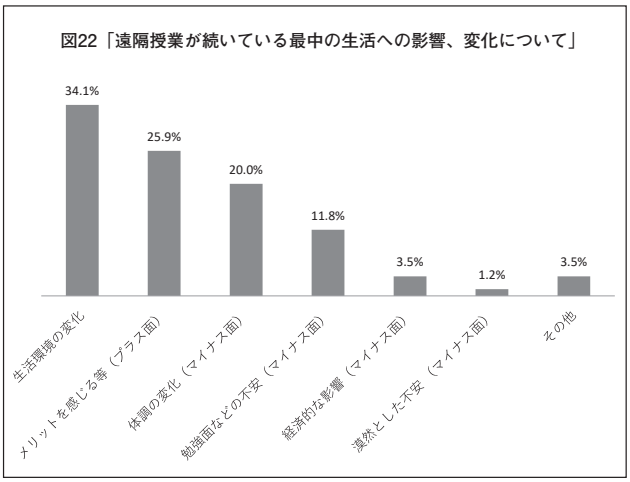
2021年度に「遠隔授業が始まった4月、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか」の自由記述項目に対し、回答者は84人（36.4%）である。得られた回答（複数回答有）を分類した結果、「生活リズムが崩れる、実家に帰る等生活環境の変化の記述」31人（36.9%）、「勉強面など精神面への影響（マイナス面）の記述」18人（21.4%）、「心身環境等に余裕（メリット）を感じる等（プラス面）の記述」18人（21.4%）、「体調の変化（マイナス面）の記述」

7人（8.3%）、「コロナ禍に対する漠然とした不安（マイナス面）の記述」4人（4.8%）、「経済的な影響（マイナス面）の記述」0人、「その他」6人（7.1%）である（図21）。具体的な回答を、資料3に示す。




### 6）遠隔授業が続いている最中の生活への影響、変化について（自由記述）

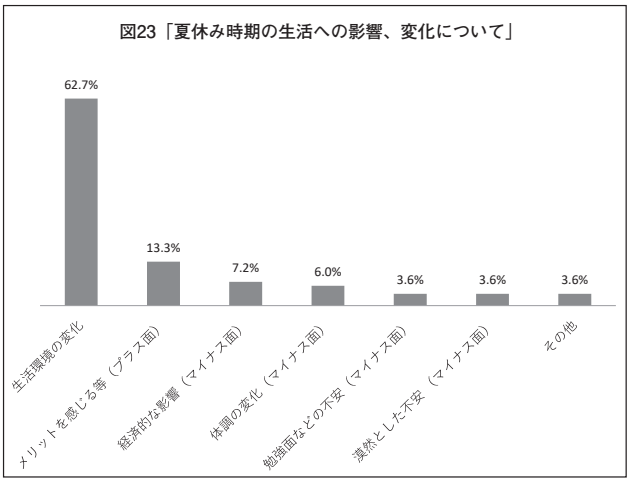
「その後、遠隔授業が1、2カ月続いた頃、あなたの生活において、どのような影響がありましたか」の自由記述項目に対し、回答者は85人（36.8%）である。得られた回答（複数回答有）を分類した結果、「生活リズムが崩れる、実家に帰る等生活環境の変化の記述」29人（34.1%）、「心身環境等に余裕（メリット）を感じる等（プラス面）の記述」22人（25.9%）、「体調の変化（マイナス面）の記述」17人（20%）、「勉強面など精神面への影響（マイナス面）の記述」10人（11.8%）、「経済的な影響（マイナス面）の記述」3人（3.5%）、「コロナ禍に対する漠然とした不安（マイナス面）の記述」1人（1.2%）、「その他」3人（3.5%）である（図22）。具体的な回答を、資料4に示す。




### 7）夏休み時期の生活への影響、変化について（自由記述）

「夏休み、あなたの生活において、どのような影響がありましたか」の自由記述項目に対し、回答者は83人（35.9%）である。得られた回答（複数回答有）を分類した結果、「生活リズムが崩れる、実家に帰る等生活環境の変化の記述」52人（62.7%）、「心身環境等に余裕（メリット）を感じる等（プラス面）の記述」11人（13.3%）、「経済的な影響（マイナス面）の記述」6人（7.2%）、「体調の変

化（マイナス面）の記述」5人（6.0％）、「勉強面など精神面への影響（マイナス面）の記述」3人（3.6％）、「コロナ禍に対する漠然とした不安（マイナス面）の記述」3人（3.6％）、「その他」3人（3.6％）である（図23）。具体的な回答を、資料5に示す。




## 6．考　察

本調査結果は、長く続くコロナ禍において、大学が今後どのような取り組みを進めてゆく必要があるのか、数多くの示唆を与えるものとなっている。

昨年度から続くプロジェクトの調査から読み取れる傾向として、今までの愛媛大学法文学部における学生のコロナ禍への対応は、長く続くコロナ疲れを感じつつも、学修方法や日常生活の過ごし方を自ら工夫しておおむね乗り切ったことがわかる。遠隔授業の困難さにあらわれているように、遠隔授業では「課題の多さ」や「課題等の提出日の重複」について2人に1人が困っているなど、2年目でも同様な困難さを抱えている。一方で、学生間での遠隔授業の捉え方や影響には格差が大きいことも同じであった。遠隔授業中心の学生生活が2年目と長期化し、自宅での学修や生活ともに順応してきた学生が多い一方、メンタルヘルスに困難を感じ続けていた学生もいる。

以下では、⑴ コロナ禍の学修面、⑵ コロナ禍でのサポート面、及び⑶ コロナ禍の生活面についての単純集計から、全体の傾向を考察していく。また、以下で示す昨年度の調査データは、すべて拙稿、参考文献⑴によるものである。

### ⑴　コロナ禍の学修面について

授業方法については、「6科目以上あった」との回答が最も多かったのは「Moodleを利用した非同期型授業」であり、「Zoom 等の同期型授業」は、2〜5科目あったと回答した学生が多かった。また、「修学支援システムやメールのみを利用した非同期型授業」は、7割近い学生が1科目もなかったと回答している。大学の方針として、2020年度後期から「修学支援システムやメールのみを利用した非同期型授業は、原則行わない」方針に変更されたことの影響もあるだろうが、昨年度の同時期での調査では、8割近い学生が、1科目以上あったと回答しているところから、遠隔授業導入から

2年目をむかえ、Moodle や Zoom を用いた授業が多数を占め定着していることがうかがえる。

また、成績に関しては、「昨年と変わらない」学生が4割近く多くを占めたが、変化があった学生の中では「成績が良くなった」学生より、「悪くなった」学生の方が多い結果であった。この回答も昨年度と同じ傾向にあり、遠隔授業に変更されたことによる理解度の低下によるものか、コロナ以前でも学年があがるごとに成績が下がる学生は一定数いたことから、授業形態の変化と関係しないのかについては読み取ることができない。

遠隔授業で困ったこと（複数回答可）としては、回答者の4割にものぼる学生が「複数の科目の課題やレポート提出日が重なったこと」、「課題やレポート提出の回数が多いこと」、「授業科目により授業方法（同期型または非同期型等）や教材提供方法（Moodle またはメール等）が異なり、分かりにくかったこと」を挙げており、昨年同様、課題としてレポートが多いうえ、その締め切りに追われた様子がうかがえる。遠隔授業が2年目を迎えても、学生の感じる困難さはこの点に集中している。一方で、昨年度との相違も見えた。昨年度は、「教員による説明が少なく授業内容を理解できなかったこと」は、回答者の半数近く（45.6%）が当てはまると回答していたが、今年度は2割にとどまった。これらは、先に述べた「修学支援システムやメールのみを利用した非同期型授業」が少なくなったことに加え、提供する教員も遠隔授業に慣れてきたことによる、授業の質の向上であることが推測される。

遠隔授業で良かったこと（複数回答可）としては、回答者の8割近い学生が「自分の好きな時間に受講できたこと」や「通学時間がなかったこと」を挙げている。次いで、半数以上の学生が「緊急事態宣言、まん延防止等重点措置等の下でも受講できたこと」や「動画配信型の教材を繰り返し視聴できたこと」を挙げており、昨年同様、自由に学修の時間を決めることができること、通学時間がなくなったこと、学修したい科目は何度も学修した意欲がうかがえる。遠隔授業の利点を問う項目のうち、「自分の好きな時間に受講できたこと」以外の全てにおいて、昨年より該当者が多かった。そして、「良かったことはなかった」と回答した学生が1割以下（3.5%）だったことからも、多くの学生が遠隔授業に対し、なんらかのメリットを感じていることも分かった。これらは、学生自身も遠隔授業に慣れてきたことによる影響と、授業を提供する教員の改善のあらわれとも言える。

また、遠隔授業を受ける際には、通信機器が必要とされるが、「障害になることはなかった」と回答した学生が6割以上いた。通信上の障害があった学生については、「自宅の通信環境が整っていなかった（通信速度が遅い等も含む）」と回答した学生が6割と一番多かった。これらの問題も昨年と変わっておらず、自宅での遠隔授業を受

けるための環境整備の困難さは継続しているとみてよいであろう。

遠隔授業を受けていた時の気持ち（複数回答可）については、「困ったことを友達や先輩に相談できず、不安になった」学生が昨年度は半数近く（45.6%）いたのに対し、今年度は3割の回答にとどまった。今年度の学生は、半数以上が「通常と変わらず、安定的に遠隔授業を受けることができた」と回答しており、メンタル面は、昨年度より落ち着いていた者が多かったことがうかがえる。

### ⑵　コロナ禍でのサポート面について

遠隔授業の際に、あったら良いと思う大学からのサポートを自由記述で回答してもらった。自由記述の回答者は、全体の約2割であり、回答の内訳としては「システム機能改善、授業方法や指導内容について改善を求める声」と「環境についてのサポート」がほとんどだった（43件）。具体的にみると、「遠隔授業受講可能な教室の提供」、「Wi-Fi ルータの貸し出し」などがあり、大学側は既にサポート（提供）している内容も含まれていた。大学側からのサポートの周知が行き届いていないことが推測される。

今年から新設した大学独自の緊急支援の必要性を問う質問では、「支援は受けていない、あるいは、必要なかった」学生が回答者の8割であった。支援を受けた学生は、9.5%と少数であったが、全員が「支援を受け、満足している」と回答している。一方、「支援を受けたかったが、知らなかった」が5.6%と少数ながらいた。このことは、大学による緊急支援の周知の課題といえる。また、「支援を受けたが不満だった」学生は0人だったことからも、緊急支援は学生のニーズに沿うものであったと推測する。

さらに、松山市や大学生協から食糧支援や生理用品の提供が行われたが、回答者のうち「支援は受けていない、あるいは、必要なかった」者は7割を占める。支援を受けた者は「支援を受け、満足している」が22.9%で、不満だった者はいなかった。大学の緊急支援や松山市等からの支援の質問から、なんらかの経済的及び物品等の支援を必要とする者は、回答者全体の1～2割等であった。コロナ禍が長期化するなかで、経済的支援等の必要性は継続することが予測される。こうした支援は、今後も必要性を増すことが予想される。

### ⑶　コロナ禍の生活面について

経済的な変化に関する質問では、「保護者からの仕送りに変化はなかった」、「アルバイトに入る回数や時間に変化はなかった」がともに3割と一番多かった。昨年度は、「アルバイトに入る回数や時間が減った」が約3割であり、「アルバイトに入る回数や

時間に変化はなかった」（23.4％）を上回っていたことから、学生のアルバイトは継続し、かつ安定している状態になっている者が増えていることがうかがわれる。

また、就職活動での影響は、「Web 面接など、オンライン化された」とする回答が昨年度と同じく7割近かった。しかし、昨年度との違いは、就職試験が延期になった自治体等や企業が少なかったことである。

また、メンタルヘルスに対する変化では、「生活のリズムが崩れた」学生が一番多く回答者の2人に1人が回答していた。昨年度も「生活のリズムが崩れた」学生が一番多く6割の学生が該当していたので、いつでも受講できる遠隔授業（特に非同期型授業）の場合、学修時間の定期的な確保を含め生活時間を規律することに困難を感じている者が多く、この点が大学生の生活上の大きな課題であることがうかがえる。一方、「安定的に過ごした」と回答した学生が、昨年度の25.1％より若干増えて31.6％に増えたものの、全体の3割ほどの学生しか該当していない。外見上はうまく過ごせているとみられる学生も、精神面での影響がみえる結果となった。そしてそれらは、医療機関の受診を問う回答にも反映されている。回答者のうち8割近い学生が「受診したことがない」と回答したものの、「迷ったが受診しなかった」と「受診したことがある」を合わせると2割近くにものぼる。学生が、長期化するコロナ禍での学生生活に辛さを感じており、長期化するにつれて精神面の支援も大きな課題となっている。

コロナ禍において、生活への影響を問う自由記述では、「遠隔授業が始まった4月」と、「遠隔授業が続いている最中」、さらに「夏休みの時期」について質問した回答では、いずれも「生活リズムが崩れる、実家に帰る等生活環境の変化の記述」が一番多かった。今年度は、愛媛大学は感染状況を慎重に判断するなかでも、可能な限り対面授業の実施を目指していた。そのため、感染状況により遠隔授業から対面授業に複数回にわたり変更になった授業もあった。こういった変化に対して、少し疲れがでていた学生もいるのかもしれない。今年の回答で、昨年度との違いで一番大きかったことは、「コロナ禍に対する漠然とした不安の記述」が今年度はいずれも少なかったことだ。昨年度、遠隔授業が始まった当初漠然とした不安を感じた学生が19.5％から今年度は4.8％、遠隔授業が続く中漠然とした不安を感じた学生が、昨年度は20.7％から今年度は1.2％、夏休み期間漠然とした不安を感じた学生が昨年度は7.7％から今年度は3.6％といずれも少ない結果となった。状況が良くなっているわけではないが、昨年度「コロナ禍」という生活を経験してきており、何が起こるか予測不可能な状態から、ある程度予測することができる状態になりつつある。2年間のうちでも、感染者数の増減や感染状況が激変する環境に、学生が適応したり、適応しようと模索していく様子が読み取れる。

本調査に寄せられた愛媛大学法文学部在籍学生の回答からは、昨年度の調査時から引き続き学生たちは様々な困りごとやメンタル面の不調などを抱えつつもおおむね前向きに学業に取り組んでいる傾向がうかがわれた。

しかし、アンケートと同時に募集した学生の大学生活にかかわる手記の分析から、依然として昨年度から継続的に辛い状況を記述している学生も存在しており、コロナ禍が長期化するほど、辛さの程度は個人差がさらに大きくなっていることがわかっている。この点については、別稿に譲る。今後も、手記の収集や座談会の開催により、個人差がある問題については、引き続き学生の生の声を聞くことにより解析を進めていきたい。

## 7．おわりに

感染力が高い新型コロナウイルスの変異株が次々と発生する中、今夏の第5波の感染爆発は秋になり減少傾向に転じた。しかし、第6波を警戒している2021年11月末現在、未だに収束の兆しが見えないまま、感染防止対策を続けながらの教育が続いている。

愛媛大学では昨年度の経験を活かし、感染防止対策を十分に講じた上で、可能な限り対面授業を実施している。また、図書館等の大学施設についても、可能な限り利用できるよう工夫している。登校に不安感や抵抗感がある学生も存在することから、遠隔授業と対面授業のハイブリッド型教育を実施している授業もあり、これらは、今後の大学教育において、教育の質の向上としても期待できるであろう。

この災厄から得られた教訓を無駄にしないように、今後も継続的に手記の募集や座談会を開催し、学生・教員双方の生の声を収集・保存していきたい。

**謝辞**

今回、アンケート調査に携わって頂きました法文学部の教員、ならびに回答頂きました学生の方々に感謝の意を表します。

また、この研究は、令和3年度法文学部戦略経費、令和3年度愛媛大学教育改革促進事業（愛大教育改革GP）及びJSPS 科研費19K21723の助成金交付により研究が遂行されたものです。

**参考文献**

⑴　青木理奈・鈴木靜・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉「コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅰ－学生を対象としたアンケート調査の単純集計結果－」愛媛大学法文学部論集第50号（社会科学編），pp37-68. 2021. 2月

⑵　青木理奈・鈴木靜・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉「コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅲ －2020年度学生手記の分析－」愛媛大学法文学部論集第51号（社会科学編），pp93-111. 2021. 9月

⑶　青木理奈・鈴木靜・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉「コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅱ －2020年度学生座談会報告書－」愛媛大学法文学部論集第51号（社会科学編），pp117-138. 2021. 9月

**付録内容**

資料1. コロナ禍における法文学部学生の学修・生活への影響アンケート
資料2. 遠隔授業を行う際に必要とされる大学からのサポート（自由記述の全回答）
資料3. 遠隔授業が始まった当初の生活への影響、変化について（自由記述の全回答）
資料4. 遠隔授業が続いている最中の生活への影響、変化について（自由記述の全回答）
資料5. 夏休み時期の生活への影響、変化について（自由記述の全回答）

資料1.【2021年度】コロナ禍における法文学部学生の学修・生活への影響アンケート

このアンケートは、法文学部戦略経費「コロナ禍における法文学部学生の被災記録の収集、保存ー将来の災害に備えてのデータベース化と今後の課題ー」の一環として、学生の学修・生活への影響をお聞きするものです。これは、学術目的の調査であり、後世に役立てるための記録として保存します。

本調査の回答により収集された情報は、個人情報保護法にしたがって適切に管理されます。このアンケートは、原則匿名ですが、今後手記を提供してくださる場合は、お名前と連絡先をお聞きいたします。アンケート内容や個人情報の取り扱いなどに疑義がある場合は青木理奈（*********@ehime-u.ac.jp）にお問い合わせください。

本アンケート調査の回答にはおよそ5～10分かかります。ご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。

代表　青木理奈・鈴木　靜

* 必須

１．あなたは次のどれに当てはまりますか *
　1つだけマークしてください。
○　一般学生
○　社会人
○　留学生
○　その他：

２．性別を教えてください *
　1つだけマークしてください。
○　男性
○　女性
○　その他

３．学年を教えてください *
　1つだけマークしてください。
○　学部1回生
○　学部2回生
○　学部3回生
○　学部4回生以上
○　大学院1回生
○　大学院2回生以上

4．コース等を教えてください *
1つだけマークしてください。
○ 1回生昼間主
○ 1回生夜間主
○ 昼間主：法学・政策学コース（総合政策学科を含む）
○ 夜間主：法学・政策学コース（総合政策学科を含む）
○ 昼間主：人文学コース（人文学科を含む）
○ 夜間主：人文学コース（人文学科を含む）
○ 昼間主：グローバル・スタディーズコース
○ 大学院（法文学研究科総合政策専攻・人文社会科学研究科法学コース）
○ 大学院（法文学研究科人文学専攻・人文社会科学研究科人文学コース）

5．2021年度前期の居住形態を教えてください *
1つだけマークしてください。
○ 1人暮らし
○ 実家暮らし
○ 学生寮
○ その他：

【学修面】
この設問以降、2021（令和3）年度前期（1Q/2Q）における法文学部と共通教育の遠隔授業についてお聞きします

1．Zoom 等の同期型授業は何科目ありましたか *
1つだけマークしてください。
○ 1科目
○ 2～5科目
○ 6科目以上
○ なし

2．Moodle を利用した非同期型授業は、何科目ありましたか *
1つだけマークしてください。
○ 1科目
○ 2～5科目
○ 6科目以上
○ なし

3．修学支援システムやメールのみを利用した非同期型授業は、何科目ありましたか *
1つだけマークしてください。
○ 1科目
○ 2～5科目
○ 6科目以上
○ なし

4．昨年までと比較して、前期の成績（単位取得数、評価）はいかがでしたか *
1つだけマークしてください。
○　昨年と比べて成績は良かった
○　昨年と比べて成績は変わらない
○　昨年と比べて成績は下がった
○　1回生なので昨年と比べられない
○　昨年と比べて履修した科目が少なくて比較できない
○　その他：

5．遠隔授業で、困ったことについて教えてください（複数回答可）*
当てはまるものをすべて選択してください。
○　大学や担当教員からの授業に関わる連絡が遅かったこと
○　大学や担当教員からのメール連絡が頻繁であったこと
○　授業科目により授業方法（同期型または非同期型等）や教材提供方法（Moodle またはメール等）が異なり、分かりにくかったこと
○　教材提供不十分で、授業内容を理解できなかったこと
○　教員による説明が少なく授業内容を理解できなかったこと
○　通信環境の関係で、同期型の授業受信が不安定だったこと
○　課題やレポートの書き方が分からなかったこと
○　課題やレポート提出の回数が多いこと
○　複数の科目の課題やレポート提出日が重なること
○　科目教員と連絡がつかなかったこと、つきにくかったこと
○　出席している授業で、課題の提出がきちんとできているか、確認ができなかったこと
○　困ったことはなかった
○　その他：

6．遠隔授業で、良かったことがあれば教えてください（複数回答可）*
当てはまるものをすべて選択してください。
○　緊急事態宣言、まん延防止等重点措置等の下でも受講できたこと
○　自分の好きな時間に受講できたこと
○　動画配信型の教材を繰り返し視聴できたこと
○　教員に質問できたこと
○　通学時間がなかったこと
○　1人で勉強する方が落ち着くこと
○　良かったことはなかった
○　その他：

7．遠隔授業を受けるのに障害になっていたことはどのようなことですか（複数回答可）*
当てはまるものをすべて選択してください。
○　自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）がなかった
○　自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）の性能が低かった
○　自宅の通信環境が整っていなかった（通信速度が遅い等も含む）
○　自宅で自分1人になれる部屋（環境）がなかった
○　Moodle などの操作方法がわからなかった

○　障害になることはなかった
○　その他：

8．遠隔授業を受けていた時の気持ちについて教えてください（複数回答可）*
当てはまるものをすべて選択してください。
○　通常と変わらず、安定的に遠隔授業を受けることができた
○　困ったことを教員に相談できず、不安になった
○　困ったことを友達や先輩に相談できず、不安になった
○　昨年以上に長時間の学修を行ったため、疲労度が高まった
○　その他：

【サポート面】
コロナ禍での大学や大学以外からのサポート面についてお聞きします

1．遠隔授業の際に、あったら良いと思う大学からのサポートはどのようなものでしたか。自由にお書きください。

2．これまで大学独自の緊急支援を受けたことがありますか *
○　支援を受け、満足している
○　支援を受けたが、不満だった
○　支援を受けたくて応募したが、不採択だった
○　支援を受けたかったが、知らなかった
○　支援は受けていない、あるいは、必要なかった
○　その他

2－1．大学独自の緊急支援を受けたが、不満だった方へお聞きします
不満だった理由を教えてください *

3．松山市や大学生協等から学生への食糧支援、生理用品の提供などを受けたことがありますか *
○　支援を受け、満足している
○　支援を受けたが、不満だった
○　支援を受けたかったが、知らなかった
○　支援は受けていない、あるいは、必要なかった
○　その他

3－1．食糧支援、生理用品支援を受けたが、不満だった方へお聞きします
不満だった理由を教えてください *

【生活面】
長期化するコロナ禍での生活面についてお聞きします

1．前期（1Q/2Q）の遠隔授業期間において、どのような経済的な影響がありましたか（複数回答可）*
当てはまるものをすべて選択してください。
○　アルバイトに入る回数や時間に変化はなかった

○　アルバイトに入る回数や時間が減った
○　アルバイトに入る回数や時間が増えた
○　アルバイト先が休業したり雇止めにあった
○　新たにアルバイトを始めた
○　保護者からの仕送りに変化はなかった
○　保護者からの仕送り額が減った
○　保護者からの仕送りがなくなった
○　保護者からの仕送り額が増えた
○　その他：

2．就職活動にどのような影響がありましたか（複数回答可）*
当てはまるものをすべて選択してください。
○　就職活動に変化はなかった
○　希望していた企業や自治体が募集を停止した
○　公務員試験や就職試験が延期になった
○　希望していた企業や自治体の応募を諦めた
○　Web 面接など、オンライン化された
○　志望業界を見直した（変更した）
○　就職活動をやめた
○　4回生以上ではない、または就職活動はしていない
○　その他：

3．遠隔授業期間において、メンタルヘルスにどのような変化がありましたか（複数回答可）*
当てはまるものをすべて選択してください。
○　通常と変わらず、安定的に過ごした
○　物事に対してほとんど興味が無くなった、楽しめなかった
○　気分が落ち込んだ
○　寝つきが悪くなった、途中で目が覚めた、反対に眠り過ぎた
○　疲れた感じがした、または気力がなかった
○　食欲がなかった、あるいは食べ過ぎた
○　新聞やテレビを見ることなどに集中することが難しかった
○　生活のリズムが崩れた
○　家族に会えず寂しかった
○　友達に会えなかったり課外活動が行えず寂しかった
○　その他：

4．長期化するコロナ禍で、メンタル不調により医療機関やカウンセリングに行きましたか（無回答可）
○　受診したことがある
○　受診したことがない
○　迷ったが受診しなかった
○　その他

5．今年度、遠隔授業が始まった４月、あなたの生活において、どのような影響がありましたか。自由にお書きください。

６．その後、遠隔授業が1、2カ月続いた頃、あなたの生活において、どのような影響がありましたか。自由にお書きください。

７．夏休み、あなたの生活において、どのような影響がありましたか。自由にお書きください。

【協力して頂ける方のみ】謝礼：クオカード3,000円

本プロジェクトでは、学生の皆さんにコロナ禍での大学生活の記録を手記としてまとめていただきたいと希望しています。手記の締め切りは11月末日で、1,200字程度です。手記をお寄せいただいた方には、謝礼（クオカード3,000円分）をお出しします。お引き受けくださる方は、青木と鈴木（下記の宛先）までメールにてご連絡ください。連絡頂いた学生さんには、青木から依頼のメールを致します。

宛先：青木理奈：*********@ehime-u.ac.jp、鈴木靜：*********@ehime-u.ac.jp
件名：「コロナ禍における法文学部学生の手記について」
本文：お名前をフルネームで書いてください。
こちらから連絡しても良いメールアドレスを正しく書いてください。
以上です。
質問は以上です。ご回答ありがとうございました。

資料2.「遠隔授業の際に、あったら良いと思う大学からのサポートはどのようなものでしたか」に対する全回答（自由記述）

| |
|---|
| 食事、食品サービス。 |
| ポケット Wi-Fi 等の貸し出しがあれば、非常に有用ではないかと考えております。 |
| MicrosoftTeams 等を活用して、授業時間外でも学生同士で連絡を取り合ったり自主的に勉強することができるような体制があればいいと思います。 |
| 定期的なメンタルケア。 |
| メンター制度のように、質問がすぐできるシステムがあったら良いと思う。 |
| Wi-Fi レンタル。 |
| 気軽にタブレット端末等を借りれる仕組み、メディアセンターの開放。（教室・座席が少ない） |
| 遠隔授業受講可能な教室の提供。 |
| シラバスに書いてあるメールアドレスだと教員に繋がらないのは困る。先生によっては初回のレジュメに載せる方もいるが、授業が対面でやるのか遠隔でするのか連絡が遅く、確認を取りたいときにとれなかった。私はどうしても福岡に行かなければならない事情があり、しかし、対面ですというメールが来たのが前日の午後3時で、当日の朝一の飛行機でとんぼ返りしたこともあった。 |
| 通信環境面でのサポート。（ポケット Wi-Fi、マイク付きイヤフォン、モバイルバッテリーなど） |
| 大学で遠隔授業が受けられ、周りに迷惑をかけず発声ができるように部屋数を増やしてほしい。 |
| 教員と生徒の相互的な関わり、一方的に課題を出された後に一方的に課題の評価を受ける場合がある授業が昨年多かった。 |
| グループワークや受講生同士や先輩とのつながりができる機会が欲しかった。 |
| 学友同士の交流がなくなり、精神的に疲れるので、（対面の方が尚いいが）オンライン上で何か交流できる機会があるといい。人と顔を合わせて会話をするという経験が少なくなるので、そこを補填するサポート。 |
| 遠隔授業のやり方などの指針を出してくれること。 |
| 学生同士の交流の場を設けてほしかった。 |

| |
|---|
| イヤホンの貸し出し。 |
| 遠隔授業をやめてくれ。 |
| 遠隔授業専用のレポートの書き方を教えて欲しかった。 |
| 課題やレポートの書き方を示してくれる仕組み。 |
| 学生同士でコミュニケーションが取れる機会。遠隔授業だと学生同士が話しにくい。 |
| 図書館以外の自由に学習できる場所を解放してほしかった。 |
| 先生側の Wi-Fi 環境の向上。 |
| レジュメを印刷する際のインクや用紙などの支給。 |
| 講義が受講できるスペースの貸し出し。 |
| 訪問指導。 |
| ネット環境が整った場の提供。 |
| パソコンを使える場所を増やすこと。 |
| ・課題の確認カレンダーが通知設定になっていると良い。<br>・親が介護や医療の人は対面に参加しづらいため、オンラインと対面併用で行って欲しい。 |
| レポートの書き方等のお知らせ。 |
| 学費を下げる。 |
| インターネット環境へのサポート。 |
| 希望する先生と任意で個人面談をすること。 |
| 授業料の減額。 |
| どの課題が終わっていないのか確認できるものが欲しい。 |
| 夜間授業の時間帯にも気軽に総合情報メディアセンター等で同期授業を受けれる教室があれば良いと思った。 |
| 好きな時間に受講でき、通学時間がないことは良かった。 |
| 学生の視点から見て事前に分かる困りそうなことがあれば対策を提示しておく。 |
| 出席ができているかがわかるもの。 |
| 通信障害や通信環境の不具合による教室の貸し出し。 |
| 目の疲れをとる工夫をしてほしい。 |
| もう少し課題がちゃんと提出できているかどうかが分かるシステムが欲しかった。（課題が出したのに出てない判定になって単位を落とす不安が大きかった） |
| 各授業せめて一回は対面授業か同期型の授業を行って欲しかった。 |
| 対面授業と遠隔授業が混在している学生のための教室をもっと増やしてほしい。メディアセンターだけでは不十分であると感じた。 |
| 課題が提出できているか確認できること。 |
| 用紙やインク代などの支給。 |
| 以前まで使っていた Wi-Fi が古く、今回のリモート授業のために月額のレンタル Wi-Fi ルーターのプランに新加入したため、その補助金が多少あれば助かった。 |
| 全同期型授業で講義を録画して開講期間中に見直せるようにすること。 |
| 課題提出期限が迫った時の通知機能。 |
| MOODLE では、後になって、提出したものがきちんと提出されているかよくわからないので、後になっても安心して自身の課題提出状況を確認できる仕組みが欲しい。 |
| 課題や授業のリマインド。 |

| |
|---|
| 課題の期日をもう少し分かりやすくまとめられていたら提出忘れも防げるのでは無いかと思う。 |
| よかった。 |
| プリントのコピー。 |
| 課題提出の締め切りが一覧になってわかりやすいものであればいいと感じた。 |
| zoom をする時に Moodle だけでなくメールでもアクセス先を送って欲しい。 |
| レポートの書き方についての説明。 |

資料3.「今年度、遠隔授業が始まった4月、あなたの生活において、どのような影響がありましたか。自由にお書きください。」に対する全回答（自由記述）

| |
|---|
| 遠隔と対面があり、移動や場所の確保が困難だ。 |
| 就職活動と重なり遠隔授業のため何気ないことを友人と話せないことが大変だった。 |
| 毎日課題をすることに忙しい、時々ある課題忘れてしまいます。 |
| 殆どの授業が遠隔であり元からインドア気質なのもあってか家にこもるようになった。 |
| 大学へ行かず、パソコンに向かい続ける生活に嫌気がさしてきた。<br>疲れた。 |
| 部活ができなかった。 |
| 学校があればほぼ毎日友達に会えるが、遠隔授業だと自宅で受けていたので友達と会わず1人で過ごす時間が多くなった。 |
| 一人の方が好きなので、とても快適だった。 |
| 生活リズムが乱れた。 |
| 外出したり友人と会う機会が減ったために不安な気持ちが大きくなった、メリハリがつけにくくなった。 |
| 家から出ることがほとんどなくなり運動不足になった。 |
| また、対面なしかーと思い、やる気が出なかった。 |
| 一人暮らしの費用が浮いたり、ホームシックの危険性がなくなって大変満足している。 |
| 愛媛大学は第一志望校ではなかったので、とても落ち込んだ。 |
| 就活が対面だったので地元に戻った。 |
| 1回生の時と変わらず、継続的なオンライン授業が続いた。大学生という感じはないが、マイペースで勉学できるのは良かった。おかげで履修科目を多く履修できた。 |
| 参加を予定していた成人式の中止が決まり、まん防の影響もあって帰省出来なくなった。代わりに、実家からの近況報告の電話と、食料品の仕送りが増えた。 |
| 就活で県外移動が多く、その中で大学に用事があってもかなり間隔を開けて行くしかなく面倒だった。 |
| 元々、教室で授業を受けることに強い不安を持っていたため、遠隔になったことで救われた部分もある。 |
| 今年も遠隔かという憂鬱な気分になった。 |
| 気分が落ち込み生活ができなくなった。 |
| バスで通学する必要がなくなったので交通費の出費が無くなった。 |
| 課外活動が停止し、好きだった演奏へのモチベーションが下がった。4月上旬に対面が一時再開していただけに遠隔に戻った時のショックも大きく、悲しかった。大学に対面授業再開の期待をやめた。 |
| アパートを引き払い実家に帰ったことで心身共に健康になった。 |
| 提出すべき課題が多く、自分の好きなことに割く時間が無かった。 |
| 生活のリズムが崩れた。 |

| |
|---|
| 遠隔の方が楽で効率が良いと思った。 |
| 昨年と変わらず鬱病を発症した状態で死にたかった。それは今も変わらない。 |
| 人にあまり会わなかったので寂しかった。 |
| 新しい友達がなかなかできなかった。 |
| 友人がほぼできず、新天地での生活だったので困ったことがあっても相談ができずに苦労した。 |
| 最初の2週間ほどは対面授業があったので、全面オンラインになった時ものすごくがっかりしました。 |
| 友達が少ない。 |
| 強い孤独感。 |
| 通学に1時間ほどかかるため、通学時間が無かった分勉強時間に費やせた。 |
| 直接会って人と話す機会がほぼなくなった。 |
| ずっと家にいることで、気分転換しづらく家では集中できなくなった。 |
| 友達に全く会えず満たされない日々にうんざりした。 |
| 学年があがったという実感があまりわかなかった。大学での講義がなかったために就職活動の情報交換などができず、就職活動を進めるのが不安だった。 |
| 去年に続いてかと思い、少し精神的に疲れた。 |
| 何をしに愛媛に来たのかわからなくなった。 |
| 非同期が多かったので、時間の融通がききやすかった点は良かったと思う。ただ、通学をしなくなりほぼ歩かなくなったので、体力が落ちていると感じている。 |
| 通学時間がかからず、公務員試験の受験勉強に打ち込むことができた。 |
| 大学に入学してすぐ遠隔授業になり、どうしていいかわからず心細かった。 |
| 対面講義だと休憩時間に卒論や就活、講義のポイントなどを共有していたがオンラインでは行いづらくなったため、それらへの不安が大きくなった。 |
| 自分がしっかり授業を理解できているかが分からず、とても不安になった。また、自身の進路に対する不安が大きくなった。孤独を感じた。 |
| 感染が再拡大したため友達に会いにくくなった。 |
| 昨年度と同じ状況で、うんざりし始めた。<br>気分の落ち込みや不安定さが増した。 |
| 友達がいなくて、Zoom の操作等もわからず地獄のような毎日だった。 |
| 4月の時点では対面授業が少しずつ始まり、外出することも多くなった。 |
| 想像している大学生活と全然違う、友達も出来ず、退屈な生活を送っている。 |
| 精神的にとても疲労した。 |
| 勉強をするようになった。 |
| 家にいることが多くなった。 |
| 生活リズムが崩れた。 |
| わざわざ一人暮らしを始める意味はあったのか考えることが多かった。 |
| 人と会う機会が減り、勉強か部活かバイトかの選択だった。 |
| いつ通信が乱れるかわからないのでパソコンの画面に過度に集中してしまい精神的疲労を感じた。 |
| 高校よりも楽だった。 |
| 眼精疲労がひどくなり目以外に症状が現れだした。 |
| 課題が普段より多く、他の勉強（大学以外の勉強）や趣味といった自分がしたいことに割く時間が減ったことが1番大きな影響だった。 |

| |
|---|
| 遠隔授業に慣れ、不便なく授業を受けれた。 |
| 昼夜逆転した。 |
| 希望のコースに進めず、遠隔授業も他人事に感じ無気力になった。 |
| 生活が充実しているとは思えなくなった。 |
| 人との交流が減り、寂しさを感じることが増えた。 |
| 今年の１月からずっと遠隔だったので、またかーと思った。 |
| 一か月間は対面が一つもなかったため実家で過ごすことができた。 |
| 去年同様通学する必要が無くなったため、3ヶ月4万円の定期代が浮いて、経済的に余裕ができた。 |
| 一人暮らしを始めて1週間で慣れない環境が原因で1度体調を崩した。 |
| 午前中に起きていることが少なくなった。 |
| 履修登録については何を取ればよいのか、卒業要件を満たすためにどのような計画を立てたらよいのか、また授業等に関しても、わからないことをすぐに解決できる手段がなく、不安なスタートでした。 |
| 昨年に引き続いて遠隔授業中心であったため、それほど不便には感じなかったが、講義に身が入らないことが多々あった。 |
| 家が大学から少し遠いため、通学時間が無くなったのは良かったが、生活リズムや勉強の習慣化ができなかった。 |
| 遠隔授業のためのパソコン操作に慣れるのに精一杯だった。 |
| 迷える子羊のようにおびえていた。 |
| 同級生と会う回数が減った。 |
| コロナ疲れ。 |
| バイト入る時間や回数が増えた。自分の時間が作れた。 |
| 逆に講義まで時間があるので寝すぎてしまうこともあった。 |
| 家族以外の人と話すことが減った。 |
| 遠隔である方が、親が介護職であるため授業を受けやすかった。 |
| 同期型でないと思っていた授業が同期型になり、バイトのシフト調整が難しかった。また今更家から出ることが億劫になり、このまま遠隔授業が続いて欲しいと思うようになった。 |
| 通学時間がなくなり、時間に余裕ができた。 |

資料4.「その後、遠隔授業が1、2カ月続いた頃、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか。自由にお書きください。」に対する全回答（自由記述）

| |
|---|
| 人と喋る時間が少なくなった、気分が落ち込むことが増えた。 |
| 遠隔授業になれました。 |
| 遠隔授業に慣れていて、対面式が面倒だと感じることもある。 |
| 毎日決まった時間に授業があるわけではなく同期型の講義もそこまで多くはなかったので生活リズムがかなり崩れるようになった。 |
| 授業以外にもサークル活動などで制約が多く、心が折れる。 |
| 自分の時間を充実させるために工夫するようになった。 |
| 気分転換できる状況と時間がなかった。 |
| たまに友達の家に行って一緒に授業の課題をするようになった。 |

| |
|---|
| 通学時間がなくなり、その分有意義に過ごせた。 |
| 食欲が減った。 |
| 就職活動のため、感染対策をしながら、説明会や試験等に参加した。 |
| 在宅時間が増えてストレスにより体調を崩すことがあった。 |
| 実家に長期間帰った。下宿先の家賃や水道代はそのままだったので少し残念だった。 |
| 慣れた。 |
| 多少起床時間と就寝時間が遅いほうに変移した。<br>しかし、朝早くから大学に行かなくてよかったため、自由時間が増え、今までならやろうとも思わなかった資格の勉強にも手を伸ばせるようになった。 |
| 憂鬱になった。意味があるのかと不安になった。 |
| 対面就活が続き、松山に戻れなくなった。 |
| 去年と違い、少しモチベーションが上がらず、外出するのすら億劫と感じるようになった。 |
| 図書館に行きづらかった。 |
| リアルタイムで授業を受けることが減ったため、生活のリズムが乱れることがあった。 |
| ストレスを感じるようになった。 |
| 実家に戻り療養したこともあり少し回復し授業を受けることはできた。 |
| （そもそも履修していた教科が多かったが）課題が多く、その課題をこなすのに精いっぱいで、余裕のある生活を送ることができなかった。 |
| 旅行に行けた。 |
| 生活のリズムが崩れた。さらに、物事に対してほとんど興味が無くなり、気力がなく、食欲がなかった。 |
| 時間効率を意識した生活になった。 |
| 希死念慮が募るばかり。 |
| 筋トレや自炊など、自分のメンタルや身体のためになることをするようになった。 |
| 貯金が無くなった。 |
| 昼まで寝てしまうことが多かった。 |
| 生活リズムが崩れた。 |
| 友人に会えない上に外に出ない日々が続いたので、鬱っぽい状態になったりもしました。 |
| 遊びに行くことがない。 |
| 遠隔授業に慣れた。 |
| 体を動かす機会が減った。 |
| 対面授業が増えるとむしろ心身ともに疲弊するのではないかと思った。対面授業がメインだった頃を知らないので、コロナ禍で染み付いた生活リズムでは単位を取得できる気がしない。 |
| 普段だと友人と相談しながらやる課題など、一人でやるのが大変だった。お家時間が増えると精神的に不安定になることが多かった。 |
| コロナが落ち着いている時は、カフェなどで1、2時間過ごす習慣をつけた。 |
| したい勉強の時間が取れたことで、集中できた。 |
| 何に疲れているのかが分からず、ずっと疲労感が続いた。寝ても取れない。 |
| 体調が悪くなりがちだった。（食欲低下、集中力欠如等） |
| パソコンを用いた授業には慣れてきたものの、座りっぱなしになるので腰を痛めた。 |
| 遠隔の方が自分で自由に受けれるだけでなく、すぐにインターネットでわからないことを調べられるため専門的な科目で zoom と対面を併用して行っていたのはとても有り難く感じた。 |

| |
|---|
| 一日中家にこもって勉強する必要があり気分が落ち込むことがあった。 |
| 交友関係を深めたりなどができなかったり、人と話すことがなかったりして、もの悲しかった。 |
| 就活以外で外に出る機会がなくなったため、運動不足を感じるようになった。 |
| バイト以外で外に出ることがなく、気分が落ち込んだ。人と話す機会が無くなった。一時的に人と会うのが怖くなった。 |
| 運動不足になり体力が落ちてしまった。 |
| 人と会わずに勉強とバイトだけを続ける日々でひどく気が滅入った。 |
| 勉強する気がなくなって、どうしたらいいかわからなかった。バイトをまだ始めていなかったので毎日家に篭りきりで気が狂った。 |
| 交通費が浮いたし自分の時間が増えた。 |
| 課題をこなすのに忙しい日々だった。 |
| 無気力になることが続いた。大学生活を送る目的が分からなくなった。 |
| とても忙しいが、勉強を続けている。 |
| 友達が中々できないため、悩んだことを相談できる人がおらず孤独を感じていた。 |
| 慣れた。夏休みに帰省したのでそのために頑張っていた。 |
| 家にいる時間が長くなった。 |
| 徐々に授業が怠慢になるようになった。 |
| 慣れた一方で対面授業を受けたい気持ちがわいた。 |
| 家とバイトの行き来だけなので疲れることがなく眠れなかった。 |
| 眼精疲労がひどくなり目以外に症状が現れだした。 |
| 基本的に一人で授業を受けていたため少しモチベーションが下がっていた。不便はなかった。 |
| 課題を忘れてしまうことがあった。 |
| 感染が増えている状況では、遠隔授業の方が安心できると感じました。 |
| 無気力になり課題提出が叶わなかったが、そういった自分の状態を責めて溜まり続ける課題に向き合えずPCを開くことが精神的に不可能になった。単位取得もなにひとつできなかった。 |
| 学生とは思えない暮らしになった。 |
| 友達と会う機会が減り、気分が落ち込むことが多かった。 |
| GWに帰省したが、愛媛に帰るのが嫌になりそのときバイトもしていなかったので1か月くらい実家にいた。 |
| 一科目のみ対面になったため、愛媛県で一人暮らしを本格的に始めた。 |
| 去年よりも遠隔授業を受けるにあたっての要領を掴むことができるようになった。その日に出た課題はその日中に終わらせるなど、以前と授業に対する姿勢も変わった。 |
| 課題をやる時期が特定の日に集中し、不規則な生活を送ることが多々あった。 |
| 全ての作業が夜中心になった。 |
| 4月当初に比べると少しずつ慣れてきて、自分なりに対応するということができるようになりました。 |
| 生活リズムが大きく崩れた。 |
| 公務員の勉強も始まったため、かなり余裕がなくなった。 |
| 後期の自分の学習に対する意欲が前期に比べ下がっていると思う。 |
| いろんな活動をしたかったが、状況が許してくれそうになかったので、ひたすらに鬱憤の溜まる数か月であった。 |
| 学生間で授業や就職活動の情報共有する機会があまりなかった。 |

| |
|---|
| バイト入る時間や回数が増えた。自分の時間が作れた。 |
| 人に会えない状況が続き、少し孤独を感じた。 |
| 昼夜逆転してしまうこともあった。 |
| 気力がなくなる時があった。 |
| バイトが減った。 |
| 生活のリズムが夜に移行し、遅い時は朝の4時や5時辺りまで遠隔授業のため宿題の比重が重く、レポート等の課題をすることが多かった。 |
| 視力が落ちた。 |

資料5.「夏休み、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか。自由にお書きください。」に対する全回答（自由記述）

| |
|---|
| 就活で実家とを往復したためバイトに入れず収入がなくなったことが大変だった。 |
| 実家に帰れなかった、遠出などが全く出来なかった。 |
| できるだけ遠出は避けた。 |
| 全てのインターンシップや面接がオンライン化し、自宅で全て就職活動が完結したという影響がございました。 |
| 外に出ることが減った。 |
| 今治で実家ぐらしをしているが、授業期間とは違い友達に会うことが距離的にも感染状況を踏まえても難しく、孤独を感じで体調を崩すこともあった。 |
| バイトを4月から始めたのだが特にサークルにも所属しておらず帰省もできなかったためかなりの日数をバイトに費やした。 |
| コロナを気にせず遊ぶ人、まじめに自粛する人の差にあきれている。疲れている。 |
| アルバイト先の飲食店が時短営業になったため、思うように稼げなかった。 |
| 正しい生活リズムに戻そうと努めた。 |
| 就職活動のため、面接練習、実際の面接をオンラインで行った。 |
| 対面でのサークル活動が一切なくなり友人と会う機会が減った、親戚が他県から帰ってきたために自由に外出できなかった。 |
| 想像していたようには過ごせなかった。 |
| 遠出や帰省ができず暇だった。 |
| 大学の夏休みがとても長いことを実感した。アルバイトに遊びと、思い描いていた大学生活を送れた。 |
| 集中講義を対面でするということを最初聞いたので、友達を作るためにたくさん取ったが、結局すべてオンラインになり、友達は出来なかった。 |
| 半年近く実家にいたため、払い続けた家賃が気になった。 |
| どこにも遊びに行けず、地元にも帰らなかった。 |
| 夏休みは、通常の場合だと旅行などでリフレッシュ出来ずに、コロナワクチン接種をしたため、不調が続いているうちに終わった。 |
| バイト先が数週間程休業したが、その期間中も別件の仕事の手伝い等をさせてもらえたので、収入に大きな変化は無かった。また、帰省は出来なかったが、その分サークル活動に打ち込むことができた。 |
| 行動したくても感染状況からして困難なところがありもどかしかった。 |
| 自分の居場所となる場所をみつけそこで活動をして人と関わるうちに精神が不安定になることが減った。ゼミの研究発表会などもあって忙しかった。 |

| |
|---|
| ほぼ毎日公務員講座の授業を受けていた。その講座の影響で、夏休み中にアルバイトを辞めた。 |
| 高校の友達と今年こそは会えると思っていたが会えなかった。 |
| 博物館実習だったが、コロナの影響で休館中だった。実習先の博物館さんの工夫でコロナ禍だからこそ体験できたこともあるが、例年だと来客のある状態で実習ができていたのかと思うと複雑。帰省・愛媛県への帰県が自由にできない。 |
| 帰省を中止した。 |
| ワクチン接種があって少しだけ安心した。 |
| 遠隔授業の場合、夏休みでなくても旅行、外泊等がしやすいため、夏休みだから特別何かしようという気が起こらなかった。 |
| 会いたい人に会えなかった。 |
| 生活のリズムが崩れた。また、友達に会えず寂しかった。 |
| 楽しかった。 |
| バイトル先が休業してしまい、収入が減った。 |
| アルバイトも無く、インターンシップも無くなってしまったので、実家にこもっていた。 |
| 旅行に行けなかったので、バイトばかりの日々であった。 |
| 集中講義が全面オンラインだったことが残念でした。遠出できなかったこともかなり残念でした。友人と会うのも難しかったので、オンラインで遊ぶなどしました。 |
| 帰省が出来なかった。 |
| ゆっくり過ごすことができた。 |
| 自由だった。 |
| 一人でできる自分がやりたかったことをやった。帰省した時に家族と会った以外は人と会うのはアルバイトのときだけだった。 |
| 非接客のアルバイトを始めた。 |
| 夏休みという実感がなかった。 |
| 県内の日帰り旅行に行けず、リフレッシュすることができなかった。 |
| 実家に帰れず寂しい思いをした。 |
| 対面のインターンシップに行けなくなり、オンライン1dayにしか参加できなかった。 |
| 一人で過ごす時間が長くなった。 |
| 1週間外に出ないことがあった。 |
| 就職活動のことを相談する機会が減り不安だった。 |
| 実家に帰ろうとしたが、コロナウィルス蔓延の影響により帰ることができず、また同期間友達等と触れ合う機会がほぼなかったためさみしい思いをした。 |
| 就活ではオンラインと対面の面接が企業毎で様々で、それぞれの対応をしていくことは緊張感があった。 |
| 実家に帰り、家族と暮らした。 |
| 中国の語学プログラムを受講したが、本来ならば中国に行けたのだろうと思うが全てオンラインで実施された。また、学外で参加しようと思っていた講演会・イベントがオンラインになったり中止されたりした。 |
| バイトが全て休みになって収入に困った。また、一人で過ごす期間が長いけど何も気力が湧かなかった。 |
| 生活リズムを整えることを意識して夏休みを過ごした。 |
| 家族と過ごすことができた。 |
| ひたすら働いていた。 |
| 帰省できなかった。 |

| |
|---|
| 帰省しても地元の友達に会うのをためらってあまり会えなかった。 |
| 部活も停止されたので、ずっと勉強をしていた。 |
| 自粛生活が続き体力が落ちた。 |
| バイト以外することがなかった。 |
| 今後のために図書館や資料館といった所に行きたかったが、コロナのせいで閉まっていたり、他県に行けなかったりと充分な活動を行えなかった。 |
| 蔓延防止対策もあり、課外活動、アルバイト共にとても制限され、ほとんど人と会わずに過ごした。 |
| ほとんどを家で過ごした。 |
| サークル活動が満足にできなかった。 |
| 帰省して昼夜逆転状態を是正した。 |
| 旅行に行けなかった。 |
| 家で1人で過ごすことが多く、寂しさを感じることが多かった。 |
| バイトにたくさん入った。9月の後半に実家に帰った。久々に友達と会えて嬉しかった。 |
| 実家には帰省することができ、家でゆっくり過ごせた。 |
| 実家に帰省し、教習所へ通ったこと以外は外出をほとんどしなかった。 |
| 何もしない日が多かった。 |
| 友人に会ったり、外出することは全くと言っていいほどなく、他の人も同じだとは思いますが、学生らしい夏休みとは程遠い期間を過ごしました。 |
| 長期休みなのにどこにも出かけられず友達にも会えないので少しストレスがたまった。 |
| 友人と会えず、鬱々とした気分の日が続いた。 |
| 集中講義が夏休み期間にオンライン上でしか行えず、後期が始まってから対面授業をすることになった。 |
| 夏休みは実家に帰省し、自動車免許取得のための勉強や家族との会話、娯楽など充実していた。 |
| 友人と会うのも気が引け、アクティブに活動できなかったが、代わりに文化的活動に時間を費やした。 |
| 友人と遠出する計画がなくなった。 |
| 帰省を延期しました。 |
| 家で過ごす時間が多かった。 |
| 外に出る機会は減った。 |
| ほぼ毎日バイトに行き、合計で100時間以上シフトを入れていた。バイトは服装指定だが、大学に行くとなるとある程度衣服はたくさん持って置かないといけないため、その費用をバイト何時間分だなと毎度計算してしまい、外出することも食費にお金をかけることも躊躇われあまり充実した生活は送れなかったと思う。 |
| ほとんど家で過ごした。 |

# 【第２部】

# 調査結果を受けて教育コーディネーターの意見

# 法文学部におけるコロナ禍の学生生活への影響と今後の課題

水　野　　卓
法文学部　人文学履修コース

学生生活への影響については、〈人文学履修コース〉（以下、〈人文コース〉）特有の「学生指導」に直結する問題がある。〈人文コース〉では、昼間主・夜間主の学生は、分けへだてなく主指導教員のもとでの指導学生となる。そして、「専門演習」という授業や「実験室」という共同スペースにおいての自主勉強・情報交換が、学生同士の交流の場となっており、そこに教員が加わった形で学生指導が行われている。しかし、コロナ禍により専門演習は遠隔授業となり、実験室がある法文学部本館への立ち入りも制限された結果、教員や学生同士が交流する場がなくなってしまった。今年度（2021年度）に入り、本館の使用制限はある程度緩和されたものの、一度途切れてしまった教員と学生や学生同士の面と向かった交流は再構築が難しく、それぞれの「和」が作られていないように感じる。

この状況は、フィールドワーク・実験・語学・資料講読などを通して、卒業論文（卒論）の作成を行うという〈人文コース〉の「授業」にも影響が及んでいる。例えば、フィールドワークは、活動制限により卒論作成に支障をきたしているため、限られた活動の中で成果を出すような指導が必要となっている。また、語学や資料講読についても、「遠隔」での指導では限界があるため、感染防止に留意しつつ、「対面」での指導を積極的に行い、卒論作成につなげることが課題となっている。

このように〈人文コース〉特有の学生指導や授業に対する課題を克服するためにも、本事業の調査結果は、学生の率直な意見を聞くことができる取り組みとして大いに評価できる。法文学部では、これまで教育コーディネーターが授業アンケートを実施してきたが、このコロナ禍により対面授業が制限されてしまったため、アンケート自体を中止にせざるを得ない場合があり、再開したアンケートでも回収率が低く、また自由記述欄も空白が多かったりと、思うようなアンケートの成果を出すことができていない。その点、本事業の調査結果には、学生の授業だけでなく生活面での不安がまとめられており、学生にとっての授業と大学生活、そして教員による学生指導がある意味一体化している〈人文コース〉にとって、大いに活用できると思われる。

今後の教務関係に関して言えば、特に、〈人文コース〉の学生が求めているのは、孤立しない学生同士や教員との「交流」の場である。それがひいては、〈人文コース〉にとっての最重要課題であり、大学生活の集大成とも言うべき卒論作成に関わる以上、今後どのような状況に置かれても、このような「交流」の場を維持し続けることが必要であると感じる。

# 法文学部におけるコロナ禍の学生生活への影響と今後の課題

上　山　友　一
法文学部　法学・政策学履修コース

学生の受けた影響については、本報告のⅣ「６．考察」の部分で的確にまとめられていると思われるので、今後の授業や学生指導の改善につながる示唆を拾うことにする。

(A)　教務的視点から

従来、講義形式の授業科目においては、時間割の影響を受けて大人数になる講義があった。教室確保の視点から履修制限をかけざるを得なかったこともないわけではない。また、インフルエンザによる欠席（公欠になるとはいえ、授業を聞く機会は奪われる）や就職活動による欠席などにどう対応するか、悩ましいことがあったが、今後、それへの各教員の対応の幅が広がる可能性がある。本調査では、遠隔非同期であっても、学生は十分に学習をすすめることができる様子が見て取れる点が見て取れ有益であると考える。

他面、対面授業の持つ利点が浮かび上がっていると理解できるところもある。法政履修コースでは、コースが確定した２年次前期に、必修科目の社会科学リテラシーをもうけている。2021年度の社会科学リテラシーは、授業全体としては遠隔授業であったが、入学当初から遠隔授業が原則であった学年であることを考慮し、初回、許可を得て対面授業とし、コースガイダンスを実施した。そのときの受講態度やコメントシートには対面授業で教員や同級生に会いほっとした様子が印象に残っている。本調査では、その状況が数字的にも自由回答においてもはっきりとうかがわれるので、その点が忘却されないように授業改善していく必要がある。

(B)　教育コーディネーター的視点から

従来、授業方法は科目担当教員の自主性と裁量が大きいところ、コロナ禍によって、Moodle 等のツールの利用研修がなされたに近い結果となった。今後、with 遠隔授業システムでの大学授業のあり方を模索する中で、授業担当教員の工夫の範囲が広がったのではないか、と考える。これに関連して、本調査では、遠隔システムの使い方への学生のニーズが拾いあげられている点が有益であると考える。例えば、教員が利用する異なった遠隔システムの混在がもたらすデメリット、システムに組み込まれているスケジュール機能などの統一的利用の希望などが拾いあげられている。授業のあり方についても示唆的な回答がみられる点も有益である。例えば、自分のペースでの反復学習の有益性、提出物へのフィードバックなどの有効性の指摘など。教育改善の検討をする際には有益な情報であると考える。

(C)　本調査について

自由記述、座談で集められている情報には注目すべきものがあったと考える。数量的把握も重要で欠かせないが、やはり、質的な情報を拾いあげることも、記録としては大切であることが確認できた。ちなみに、私が担当している過年度学生向けの授業では、大学に少し距離ができてしまっていた学生が大学での学びに復帰しようとして、たまたまコロナ禍での遠隔授業であったがために復帰しやすかった、という感想も聞いている。こういう禍とはある意味逆向きの例外が起きる背景が、自由記述欄の記述から透けて見える資料となっている点が印象的であった。

# 法文学部におけるコロナ禍の学生生活への影響と今後の課題

近　廣　昌　志
法文学部　グローバル・スタディーズ履修コース

この度、大学教育の現場で貴重なプロジェクトが実施され、４分冊にわたる諸成果物が刊行された。これらに対して以下の３点からコメントさせていただく。

⑴　コロナ禍における学生生活への影響と、コースごとの授業や学生指導上の課題

アンケートに対する学生の回答は、全国的に指摘される内容との比較において、本学部の学生に大きな特異性は見られていないと思われる。しかし新たにアルバイトを始めたと回答した学生の存在が２割近くにのぼり、学業と収入のバランスの両立が重要である。

教員側では、熱心さあまり課題の与え方により工夫が必要である。教育時間の確保に関わる要件にばかり捕らわれると、反って学生の効率的な学修に寄与しない。なお、講義は15回ないし30回程度を通して実施されるもので、毎回の確認テストで満足を得ようとすることが目的になってはならない点にも留意が必要である。

学生の通信機器等の不慣れの問題も指摘されているが、それらは慣れの問題かつ時代的なものであり、学生も教員もアップデートするしかない。遠隔授業の活用には、日本の住居等のインターネット環境のレベル全体を向上させることが必要であることが示唆された。

⑵　本事業の調査結果に対する意見

まず、本調査の利点は、ひとりひとりの意見を掬い上げている点にある。質問内容も十分な項目ないし選択肢が用意されており、質的な把握が可能となっている点で有意義である。より意義深い調査にするためには、時点間の差分を把握が重要であり、学生の「慣れ」や「意識」の変化を反映させるためにも継続的な調査が求められる。また、居住環境のグルーピングによる分析に期待する。

またアルバイト先の選択・選定についても、学生にとってむしろ良く考える契機になったと思われる回答もみられることも意義深い。

⑶　今後の授業や学生指導の改善に関する示唆

学生の手記より、遠隔授業が求められる場合でも、一度は対面で顔を合わせているか否かが効果的な意思疎通に影響を与えるものと考えられる。特に、ゼミナールに所属してからの指導は比較的スムースであるが、特にグローバル・スタディーズ履修コースの学生の様子においては、遠隔授業メインは負担が大きすぎるようである。

遠隔授業の弱点は対面で補うより他ないように思われるが、反復等の面で遠隔授業を利点と捉えている学生も少なくない。

執筆者一覧（五十音順）

| | |
|---|---|
| 青木　理奈（あおき　りな） | 愛媛大学法文学部助手 |
| 石坂　晋哉（いしざか　しんや） | 愛媛大学法文学部准教授 |
| 上山　友一（うえやま　ゆういち） | 愛媛大学法文学部准教授 |
| 太田　響子（おおた　きょうこ） | 愛媛大学法文学部准教授 |
| 小佐井良太（こさい　りょうた） | 愛媛大学法文学部教授 |
| 鈴木　　静（すずき　しずか） | 愛媛大学法文学部教授 |
| 十河　宏行（そごう　ひろゆき） | 愛媛大学法文学部教授 |
| 池　　貞姫（ち　ぢょんひ） | 愛媛大学法文学部教授 |
| 近廣　昌志（ちかひろ　まさし） | 愛媛大学法文学部准教授 |
| 中川　未来（なかがわ　みらい） | 愛媛大学法文学部准教授 |
| 福井　秀樹（ふくい　ひでき） | 愛媛大学法文学部教授 |
| 水野　　卓（みずの　たく） | 愛媛大学法文学部准教授 |
| 吉田　正広（よしだ　まさひろ） | 愛媛大学法文学部教授 |


**令和３年度「愛媛大学教育改革促進事業（愛大教育改革ＧＰ）」**

**「コロナ禍における法文学部学生の『被災』記録の収集、保存」成果報告書**

---

2022年３月31日　発行

発　行　「コロナ禍における法文学部学生の『被災』記録の収集、保存」プロジェクト
代表　福井秀樹（愛媛大学法文学部人文社会学科）
〒790-8577　愛媛県松山市文京町３番　愛媛大学法文学部
電話（０８９）９２７－８２０８
E-mail：fukui.hideki.hz@ehime-u.ac.jp

印　刷　株式会社 松栄印刷所
〒790-0003　愛媛県松山市三番町７丁目９－２
電話　（０８９）９４１－３３３４